

# 「踊れ高円寺」人が創り街が育む五十年

2006年8月発行

表紙題字 山田 桃源

写真提供 亀岡 周一  
高円寺阿波おどり関係者、編集委員

頒布価格 1,000 円 (税込)

発行 NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会  
東京都杉並区高円寺南 3-57-10 4階  
電話：03-3312-2728  
<http://www.koenji-awaodori.com>

デザイン・印刷 小川印刷株式会社 ユニバーサルデザイン事業部  
東京都千代田区神田駿河台 3-1 4階  
電話：03-5259-8833

R100

古紙/バレル配合100%再生紙



植物性大豆インキ



水なし印刷方式

\*この印刷物は、環境やユニバーサルデザインに配慮しています

# 踊れ高円寺

人が創り街が育む五十年

阿波おどり  
五十周年記念誌



## 目次

### 高円寺阿波おどりのはじまり

|                     |    |
|---------------------|----|
| ・10人の証言             |    |
| その前夜高円寺にて           | 3  |
| 記念すべき、第1回目「ばか踊り」    | 5  |
| 試行錯誤の2回目            | 7  |
| こんなことやっいていいのだろうか？   | 8  |
| 本物との出会い             | 9  |
| 「楽しむ人」だけではない        | 10 |
| いざ徳島へ！そして10年、やがて50年 | 12 |
| ・第11回～50回のあゆみ       | 13 |
| ★コラム壱：「親子三代」で踊る喜び   | 16 |
| ★コラム貳：親子で阿波おどり      | 18 |

### 光と影

|              |    |
|--------------|----|
| ・半世紀の光と影     | 21 |
| ・NPO法人へ      | 22 |
| ・環境対策とボランティア | 23 |
| ・大雨から学んだ災害対策 | 25 |
| ・安全対策        | 26 |
| ・土日開催        | 28 |
| ・人が創り、街が育む   | 29 |

### 「阿波おどりのある街」として

|                           |    |
|---------------------------|----|
| ・東京高円寺阿波おどりブランドの確立を目指して   | 32 |
| ・阿波おどりと街づくり               |    |
| 杉並区長 山田 宏 ／ 高円寺駅前駅長 山口 一男 | 33 |
| ★コラム参：声                   | 36 |
| ★コラム四：大好き！高円寺阿波おどり        | 37 |

### これからの阿波おどり

|                         |    |
|-------------------------|----|
| ・これからの阿波おどりに期待          |    |
| 衆議院議員 石原 伸晃 ／ 理事長 武田 周吾 | 39 |
| ・徳島より激励メッセージ            | 40 |
| ・女性たちが語る高円寺阿波おどり        | 42 |
| ・連長は語る！！現在・過去・そして未来     | 46 |

昭和32年8月27日、高円寺の小さな商店街を38名の若者が佐渡おけさのリズムにのって踊り、駆け抜けた。その名は「高円寺ばか踊り」。それから半世紀、今年「高円寺阿波おどり」は50周年を迎える。高円寺名物から杉並名物へ、そして今では東京の夏を代表する風物詩となった。

阿波踊りといえば本場・徳島で400余年の伝統と歴史を誇る郷土芸能。高円寺阿波おどりは、徳島の恩沢に浴しながら、ゼロから人が創り出し、街が育み続けてきたものだ。

時代が著しく変化する中、高円寺阿波おどりを取り巻く環境は厳しい。しかし、50年の長きを支えてくれた人々が、高円寺の街が、今後のさらなる発展を支えていくに違いない。「高円寺阿波おどり50周年」は新たな出発点にすぎないのだから。

### 阿波おどりを100倍楽しむ！

|                     |    |
|---------------------|----|
| ・高円寺阿波おどりQ&A        | 52 |
| ・阿波おどりの衣裳           | 54 |
| ・鳴り物の構成             | 56 |
| ・衣裳の変遷              | 58 |
| ・高円寺阿波おどり連協会の紹介     | 60 |
| ・一般参加連の紹介           | 69 |
| ・高円寺阿波おどり資料館：お宝秘伝物  | 73 |
| ・高円寺阿波おどり資料館：お宝写真   | 74 |
| ・東京高円寺阿波おどりMAP      | 76 |
| ・徳島に学ぶ阿波の心 踊りの心     | 78 |
| ・徳島阿波踊り三昧マップ        | 80 |
| ・全国に拡がる阿波踊り         | 82 |
| ・8月最終週末の東京は、祭りの三つ巴！ | 84 |
| ・全国夏祭りカレンダー         | 85 |



# 高円寺阿波おどりののはじまり

「高円寺の街は戦災で焼けてしまったから、商店街といっても露天で商売をしているようなものだった。焼けなかった中野や阿佐ヶ谷に比べて経済的にはもちろん、すべてに遅れをとっていた。だから高円寺の商人はとにかく一生懸命に、どこよりも安く、を心がけて働いた。するとやがて『高円寺は安い』と評判になって、大変繁盛した。するといよいよ中野や阿佐ヶ谷の商店街が、本気を出し始めた。そうすると元々ゆとりがあるところには、高円寺はかなわなくなってねえ……」。城石昇さん(84)



草創期の記憶をひも解く

## 10人の証言

徳島の伝統芸能、阿波踊りが、当時の感覚として果てしなく遠い距離を超えて、遙か彼方のこの高円寺へやってきた。その経緯と辿った道筋は、高円寺の人たちの熱い気持ち抜きにしては語れない。高円寺阿波おどりの草創期である第1回目から10回目にポイントを絞り、関わってきた方々に当時を語っていただいた。

(インタビュー／佐久間通子)

## その前夜、高円寺にて

### ライバルは阿佐ヶ谷

昭和32年、お盆の最中である8月13日。「これからは若い者の力が必要だよ、青年部を作ろうという話になった。30代を中心に商店の二代目を集めて商店街の青年部『ぼんぼん倶楽部(現まどか会)』を結成したんです」と森田昇栄さん(80)。若い人の力を積極的に取り入れる高円寺の風潮は、50年前も変わらなかったようです。「そうこうしているうちに阿佐ヶ谷の商店街が七夕祭りを始めた。『ぼんぼん倶楽部』も、われわれも何かやらなくてはと思ったんだ」(城石昇さん)。「阿佐ヶ谷七夕祭りのことも頭にあって、うらやましかった。同区内だしライバル意識はあった」[(河原廣さん(85)、中川昌夫さん(74)、森田昇栄さん)と、とくに阿佐ヶ谷への強い対抗意識は誰もがもっていたようです。

### これはとんでもないことになった!

「魚屋の茂木晴吉さん(故人)が『阿波おどりってのをやってみないか?』といい出した。誰もが知らなかったけれど、『まあ、じゃあ、やってみようか』という雰囲気になったんだ」というのは、河原廣さんの記憶です。この「なんとなく決まった」のが、その後の高円寺阿波おどりの第一歩だったとは!「でも阿波おどりに限らず、踊りができる人なんて誰もいなかったんだから、不安だったよ。とんでもないことになったと思った。それでもどうしても街の活性化のために、何かはしなくちゃと思ったけれど」(城石昇さん)「偉いことになったと思ったよ。内心では嫌だったけれど、やる以上は協力しようとして一生懸命だった」[中村健一郎さん(82)]。いずれにしても個人の思いが優先ではなく、みんな高円寺のために何かしなくてはという強い意志をもっていたのです。

\*ここに表したものは、すべて個人の古い記憶を基にしています。

事実とは異なっていること、時系列に沿っていない内容もあることを、あらかじめご了承ください。



## 決まったものの…

知らないということほど、恐ろしいことはないというのは、まさにこのことと、いわんばかりのエピソード。「当時の『ぼんぼん倶楽部』部長から「やるから来いよ」と声がかかったとき、阿波おどりの名前は聞いたことがあるけど、どうやって踊るのかはまったくわからなかった。踊りそのものにも興味さえなかったんだよね」と中居誠一郎さん(83)はいいです。けれど「『どんなことをやるんだろう』という興味はあった」と、若者らしい好奇心をもち合わせていたのは確か。阿波踊りに限らず、踊りなんて一度も踊ったことがない者ばかり。ならば踊りの先生に習おうと、近所に住んでいた花柳流の踊りの師匠、立花氏に手ほどきを受けました。「先生に習ったのは1日か2日のみで、そのまま本番だったからいい加減だったよ」と中村健一郎さん。また当時高校2年生だった山下敬子さん(65)は「町内で16歳～20歳くらいまでの若者たちが集められたと思うわ。『やるから集まれ』のみでデレデレしていると呼びにこられるんだから、選択の余地はなかったのよね(笑)。それでも『商店街を盛り上げられるなら』の思いで参加したのよ。だって阿佐ヶ谷が有名になっちゃって、高円寺だって負けていられないって、ね」と、当時は子どもも一丸となって、街を盛り上げようとしていたんですね。



中居誠一郎さん  
「ジーンズショップナカイヤ」  
の前店主

## 「阿波おどり」が「ばか踊り」に

関西でいう阿呆は、関東のばかとは微妙にニュアンスが違うといえます。けれど当時の高円寺の人々は、それを知るよしもありませんでした。「阿波おどりをやろうと決めたとりだったけど、みんなおちゃらけ踊りだったよね。阿波おどりは徳島では阿呆踊りというらしいし、じゃあこちらの言葉で阿呆はばかだから、ばか踊りにしよう。そんな軽い気持ちで決まったんです」(森田昇栄さん)。しかし子どもには、この名は不評だったよう。「ばか踊りという名前が、とにかく嫌だなと思っていました」(山下敬子さん)。

### 証言Topic 1

#### あの定説は間違いだった!?

「七夕は北(仙台)のお祭りだから、高円寺は南のお祭りでいこうじゃないか」との発案があったといわれていますが、「そんな話しは出なかったなあ。ただ飾りつけのお祭りよりも、躍動感があるほうがいけるとは思った。静より動だよ」と森田昇栄さん。静より動。高円寺らしさはこのころすでに根づいていたようです。



森田昇栄さん  
「そば茶屋」のご主人  
商盛会元宣伝部長  
葵新連連長

### ●第1回目 昭和32年(1957年)

- ・8月13日、高南商盛会(現高円寺南商店街振興組合)に青年部が誕生
- ・その記念に「高円寺ばか踊り」を実施
- ・花柳流の師匠に手ほどきを受け、白塗り化粧をして本番を踊る

# 記念すべき、第1回目「ばか踊り」

## 本当の踊りコースは?

「高円寺阿波おどり発祥の地は高円寺パル」といわれていますが、第1回目のコースは「現在の叶屋さんと和田屋さんの間にある長仙寺に続く路地がスタート。そこから桃園川(現在の桃園川緑道)まで踊ったよ。所要時間は10分。下り坂だったせいもあって、後ろの者はなかばかけ足でついていったことを思い出すなあ」(城石昇さん)。

## 写真ではわからない衣裳の色

当時から女踊りの衣裳は阿波踊り風です。「ばか踊りとはいえ、イメージは阿波踊りだったから。テレビが普及し始めて、徳島の情報を得ていたのかも?」と山下敬子さん。モノクロ写真では知ることができない衣裳の色についての山下さんの記憶は、「白地に藍染めの柄が入っている浴衣で、ピンクのすそよけ」だったそうです。

## 伝説の白塗り化粧

素顔を隠すため、白塗り化粧をします。「おかしかったけれど、みんなの熱心な姿に心を打たれて、やらなくちゃと思ったわ」と山下敬子さんの、純粋な少女らしい思い出です。森田昇栄さんは断固白塗りを拒みました。「370年続く阿波踊りで、誰だかわからないようじゃ無責任だと思ったよ」。現在の高円寺阿波おどりの「本場に倣う」という気持ちは、これを受け継ぐものといえるでしょう。

## 恐怖心いっぱい

さていよいよスタート。「不安と、通行人の前で踊る恐怖。化粧をして、こんな格好をして表に出て、どうなんだ、と」(中居誠一郎さん)。白塗り拒否派の森田昇栄さんも、その実、「胸はときどき、足はがくがく。お酒でクッと気付けの一杯でスタートした」そうです。

### 証言Topic 2

#### 白塗りしたらつまらなくなった!?

「一度目は素顔で踊ったら、沿道から「布団屋の城石さん、がんばって!」と声がかかる。それがとても恥ずかしくて、二度目は白塗りにしてみた。すると今度は誰だかわからないので、まったく声がかからなくなっちゃった(笑)。なんだかノレなくなっちゃったよ」というのは城石昇さん。恥ずかしいのとノレるのは、表裏一体なのかもしれませんね!



城石 昇さん  
「ベルビア」の前店主  
警備一筋で高円寺阿波おどりを支えた



第1回「ばか踊り」の参加者たち  
長仙寺の境内にて





草創期の様子  
恥ずかしいやら 楽しいやら

## ちんどん屋さんのお囃子で

ところで踊りに欠かせないお囃子はどうしたのでしょうか。「お祝いごとのたびにお願いしていた早稲田通りの方の有名なちんどん屋さんに、第1回目は手伝ってもらったそうです」(山下敬子さん)。阿波踊りにちんどん屋とは！ 今では考えもつかない組み合わせです。そして大変なことに。「クラリネットのおじさんが、勝手にちんどん屋の定番曲である『佐渡おけさ』のメロディを入れてしまった。びっくりしてどうしたものかと思ったが、連の前のほうが踊り始めていたので、しょうがなくそのままにした」(森田昇栄さん)。どれだけ阿波踊りが知られていなかったかの証拠でしょう。

### 証言 Topic3

#### 笠をめくられる！

「踊っていると笠をめくられるのよ(笑)。どんな顔をしているのか、お客さんは気になったのかしらねえ。笠はあっても恥ずかしいせいで、ややうつむき加減で踊っていたので余計にかもしません。でも男の人からいわせると、笠があつて顔を隠せるからまだいいよって……」と、山下敬子さんの女踊りならではの思い出です。  
のんびりした時代らしいエピソードです。



山下敬子さん  
元「不二不動産」の娘さん  
今回は若き日の貴重な話が伺えた

## お客さまの反応は？

恥ずかしさと恐怖心いっぱい踊った記念すべき第1回。お客さまの反応はどんなものだったのでしょうか。「最初は通行人だけしか見物していなかった。何か来たから見てみよう、と立ち止まっている程度」(中居誠一郎さん)。「最初のうちはお客さんもばらばら程度で、珍しいものを見る感じだった」(河原廣さん)。もちろん阿波踊りを知っているお客さまも皆無に近かっただろうし、目の前で行われているのが阿波踊りだとも思われなかったのかもしれない。お客さまの反応について、森田さんは「いいわけがなかったと思うよ」といっていますが、「1回目の周囲の反応は好意的だった」と河原廣さんは温かい意見。しかし「1回目が終わってから、『来年はどうする？』という話は出なかった」(河原廣さん)そう。ひょっとして、高円寺阿波おどりは第1回でおしまい!?



斉藤義忠さん  
「ミートショップ サイトウ」の御主人  
天狗連連長

## ◎第2回目 昭和33年(1958年)

- ・リヤカーにテープレコーダーを積み込んだお囃子が登場
- ・新聞の朝刊に「ナベ底ふつとばすばか踊り」と紹介される。これが新聞報道された第一号
- ・踊りの内容が変わり、白塗り化粧は第2回まで

# 試行錯誤の2回目

## 宣伝活動も開始

「学校から帰るとすぐに着物で宣伝カーに乗せられたの。知人が訝しげに寄ってきたり、翌日学校で友達にいわれたり。まんざらでもないのと、恥ずかしい気持ちで複雑だったわ」と山下敬子さん。功をなしてか、2回目から新聞記事に取り上げられることになります。

## 白塗り化粧とお囃子は…

白塗り化粧に工夫をほどこす方も現れます。「ポマードを下地に塗ってから白塗りをする、汗で崩れないんだよ。ただし皮膚呼吸ができなくなるけどね」[富澤義夫さん(75)]。しかしそんな白塗り化粧も、踊り手から『阿波踊りはこんなことしてっこないよ』という声があがって2回目でお蔵入り。お囃子は、新たな手法で挑みます。「3回目は、レコード係がリヤカーを引っ張って故・小澤淳男氏と河原廣氏が合同で作った『高円寺音頭』を歌いながら踊ることになったのに、直前で大学生にチェンジ。一夜漬けなのでまったくダメで、結局小澤さんと中居さんが、大声で歌いながら踊ったんだよ」(森田昇栄さん)。「高円寺音頭」！ 今、またぜひ聞いてみたいものですね！



華やかな宣伝カー

## 毎年踊りが違っていても

誰も阿波踊りを知らないまま、毎年指導者も踊り自体もガラッと変わります。第3回目はよさこいのように、囃子をもって踊ります。「いわれた通りにやっていただけ。踊りが毎年違ってさほど疑問に思わず、こんなもんかなあといった感じだった」(河原廣さん)というのが大多数だったようです。

## お客さまが増えてきて

宣伝カーや新聞掲載の効果があつてか、2回目、3回目となるとお客さんが倍に、またその倍にと増えていったそう。しかし「客寄せのために始めたばかり踊りだったはずなのに、結局みんな商売はそっちのけ。商売人は踊っているから店は空っぽで、お客さんは店に背を向けて見ているし」と中村和男さん(62)がいうように、当初の目論みとはかけ離れていった現実もありました。

### 証言 Topic4

#### 草創期からスポンサーがついていた！

「企業に資金援助を頼みに行ったんだ。中川さんは明治乳業に、浅井さんはポリバケツの会社に行った。当時は今に比べて宣伝の機会が少なかったためか、すぐ『いいですよ』との返事をもらえたよ」と当時の会計担当だった中村健一郎さん。草創期からスポンサー集めの活動をしていたとは、さすが商人の街ですね！



中村健一郎さん  
元「富士果実」の御主人



### ●第3回目 昭和34年(1959年)

- ・低迷を続ける「ばか踊り」、存続の是非を問い1票差でもう1年続ける決定をする
- ・お囃子は杵屋佐三造社中になり、「高円寺音頭」が作曲され、小澤氏、中居氏が歌う
- ・杉並新聞のトップに大きく紹介される

### ●第4回目 昭和35年(1960年)

- ・警察の道路使用の許可が出ず、関係者が留置場入り覚悟で強行予定。踊り前日に1日だけの使用許可が出る
- ・徳島新聞より木場連の鴨川長二氏を紹介される。8月24日の徳島新聞に紹介記事

### ●第5回目 昭和36年(1961年)

- ・東京深川・木場の徳島県人で組織する東京踊り会の武市氏の指導を、氷川神社にて受ける
- ・木場連が初参加
- ・チラシ広告を制作

### ●第6回目 昭和37年(1962年)

- ・新高円寺通り商店会の20数名が、自由参加。現・ルック商店街が参加
- ・徳島新聞社の阿波踊り写真コンクールに、高円寺も応募が可能になり、9名が入選
- ・「東京の阿波おどり」というNHK四国向け放送に出演、NHK霞ヶ関スタジオで木場連と共演

## こんなことやっていていいのだろうか？

### 「もう、やめようよ」

商店街振興策として始めた阿波おどりに対し、やめようという意見が出てきます。「メンバーの考え方は大まかに、せっかく始めたんだから続けようというタイプ、みんなが続けるならついていくタイプ、大変だから反対というタイプの3種類に分けることができた」と城石昇さん。今もなお取り交わされる、踊り子の立場、裏方の意見。また当日は買物どころではなくってしまい、本来の目的が果たせていないというもの。なんと現在に至るまで阿波おどりの問題点は、変わっていないのです。



にぎわいを見せる高円寺

### 無記名投票。その結果は？

「そこで小澤さん(故人)らの提案で、青年部全員で存続か中止かを決定するために無記名投票を行うことになったんです」と森田昇栄さん。投票の結果は同数で、そこへそのとき議長を務めていた城石昇さんが、最後の1票を投じます。「私の1票で継続が決定した。少なくとも高円寺の名前は広まりつつあり、子どもも大人もこのイベントを楽しみにしてくれている。それにこのイベントを始めたことにより、問題を乗り越えるためにみんなで結束したことが、お互いの絆を深めてくれたと考えたから、存続の票を入れたんだ」(城石昇さん)。「なくなったら、何もなくなってしまふわけだから」と思ったという森田昇栄さん。すでにこの時点で、阿波おどりのない高円寺の街は、個性のない街になるしかなかったのかもしれない。

#### 証言 Topic5

#### 実は二度あった廃止の危機！

「1票差で続行が決定したのに、直後の準備に集まったのはたった10人ほどだったから、その場で再度中止の話までもち上がった。お互いに頭にきている面もあったよね。それだから『やめちゃえ』と半ばやけくそになったけど、小澤さんに説得されて、ようやく一件落着となったんだよ」(中村健一郎さん)

## 本物との出会い

### 阿波踊り探し

「こんなことをいつまでもやっていたんじゃない。杉並名物どころか高円寺名物にもならない。高円寺流のばか踊りなんていってではダメ。東京じゅうにある徳島に関係する場所をすべて訪ねて、本当の阿波踊りを教えてもらったほうがいいんじゃないですか？」と森田昇栄さんが提案したのもこのころ。そこで当時「ぼんぼん倶楽部」の会長だった小澤淳男氏(故人)と森田さんは、東京じゅうの徳島の名がつく場所を訪ね回り始めます。最後に訪ねた徳島新聞社東京支局にて第3回高円寺ばか踊りの写真を見せると、若い記者が小声で「これはいける」とつぶやいたそう。「しめた！と涙が出るほど嬉しかった。高円寺でこんな阿波おどりをやっているという記事を、写真入りで、すぐに徳島向けの朝刊に載せてくれたんです」(森田昇栄さん)。



笠のかぶり方も踊り方も当時の高円寺流

#### 証言 Topic6

#### 当時はギャラを支払っていた！

「第6回目くらいに、木場連に合同参加をお願いしたら、20人くらいの人が手伝ってくれたよ。食事を出して、出演料を支払った。確か1人あたり1,000円くらいだったかなあ。今でいうと22,000円~23,000円くらいの額になる」と中村健一郎さん。当時の風潮がわかるエピソードです。



老若男女が楽しめる祭りへ。警備の役員も真剣なまなざし

### 木場連との出会い

やがて徳島新聞が、当時東京で活動していた木場連を紹介。第6回目から木場へ練習に。「木場に習いにいくまで、正直われわれは、阿波踊りそのものをよく知らなかった。木場連を見て『上手だなあ、カッコいいなあ、違うなあ』と思ったよ」(河原廣さん)。木場連と出会ってはじめて、高円寺の面々はようやく「本物の阿波踊り」に触れることになります。「連長の鴨川さんは優しく、ほかの人は厳しかった。木場連としては『阿波踊りを知りもしないで』って気持ちだったんだろうね。こちらは『知らないからこそ、教えて欲しくて来たんだ』ってつもりだったけれど」(中村和男さん)。「材木屋の倉庫の2階での締め太鼓の練習は、騒音を防ぐために、丸太に縄を巻いてたたいた。縄の部分をたたけば音が響かないからね」(冨澤義夫さん)。木場連には踊りだけではなくお囃子も習い、これ以降お囃子が導入されるようになります。



中村和男さん  
元「サワヤ家具」の従業員  
天狗連連長、連協会会長を歴任、  
現在は写真連総連長



年ごとに人出を増す行事に発展



# ●第7回目 昭和38年(1963年)

- ・28日夕刻、猛烈な夕立のため桃園川が氾濫し、出水。無念の思いで踊りは1日中止
- ・名称が「高円寺阿波おどり」に
- ・お囃子2組を編成

# ●第8回目 昭和39年(1964年)

- ・森田氏、単身徳島を訪問、徳島新聞社のご好意で、木場徳島の有名連を8ミリに克明に収録。高円寺阿波おどりが徳島を学ぶ大きな一歩となる
- ・「阿波おどり展」開催

# ●第9回目 昭和40年(1965年)

- ・踊り場が青梅街道までの800mに拡大。雨天順延が1日だけ認められるようになる
- ・阿波踊り留学と称して、本番徳島へ商盛会の幹部有志12人が訪問

# ●第10回目 昭和41年(1966年)

- ・高円寺駅南口広場が踊りのコースに入る
- ・北口銀座商店会有志13名が参加、純情商店会の有志が参加
- ・本場徳島で人気の小野・姓億氏に誘われ、フジテレビ「ズバリ! 当てましょう」に鳴り物6名が出演
- ・現バル商店街に機軸席登場

## 「楽しむ人」だけではない

### 警備が足りない!

観客数もうなぎ上りに増え、それに応じるように踊り手とお客さまへの安全面の配慮が必要になりました。「子どもたちが踊るようになり、きちんとした警備の必要性が出てきた。30人踊り手がいるなら、警備も30人という具合に」(中村健一郎さん)。一見誰もが楽しいはずのお祭りですが、その陰には祭り自体を楽しむわけではない、裏方の協力が必要です。「踊り子がいうことを聞かず、憎まれ役に回らなくてはならなかった」と中川昌夫さんは、今だから懐かしい当時の心情を語ります。



中川昌夫さん  
元「三河屋はきもの」の御主人  
発足当初より警備、運行担当の  
裏方専門



お囃子登場



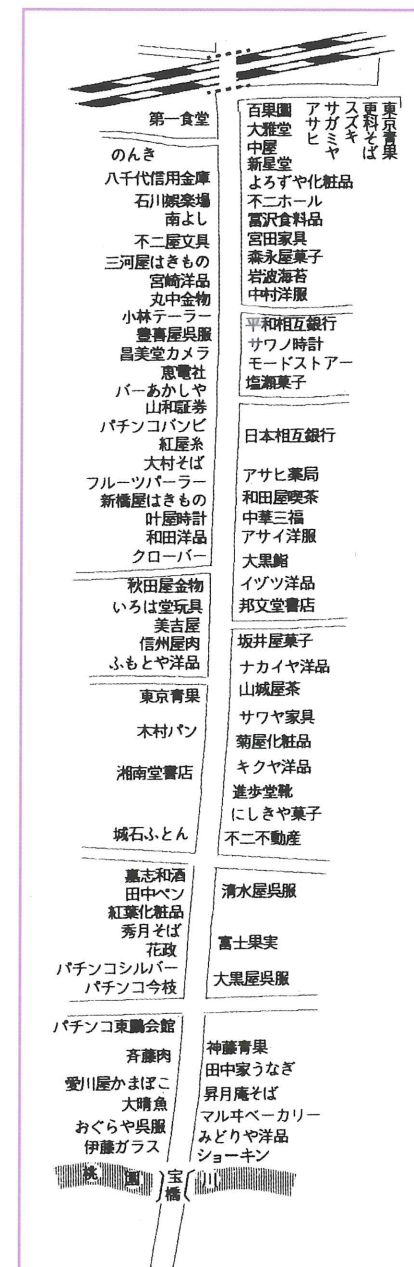
名称も「高円寺阿波踊り」に(写真は屋間のデモンストレーション)

## 警察に何度も足を運び

当時はまだ若者が警察に陳情に出向いても、なかなか面談もできない時代。高度経済成長期のまただ中で、公道を一商店街のセールス活動に使うとはけしからんという風潮だったのです。また警備は人の命に関わる事だから、生半可な姿勢では取り組めません。「そこで私はなんとか阿波おどりに関して、警察が好感をもってもらいたいと思い、それに努めた」(城石昇さん)。安全な阿波おどりのために情熱を傾ける城石さんは、前出の木場への練習も行けなかったそう。「そのころから警備に関する警察からの指示がやかましくなった。同時にその前後から、警備を含めた阿波おどりを支える裏方としての、私の役割が定着したんだよ」と、長年裏方に徹する人がいてこそ、現在に続いていることを語ってくれました。



商店街で火災発生!!  
このとき、多くの店主が阿波おどりのTV出演中(昭和41年)



昭和37年 高円寺駅南本通り

### 証言 Topic 7

#### 森田さんが泣いた!

第7回の1961(昭和38)年、台風のため桃園川があふれ、もはや中止かという事態に。「森田さんは『どうしてもやるんだ』って涙で訴えて。思えば森田さんは、とにかく熱心だったよね」(河原廣さん)。台風シーズンにも関わらず、50年間で中止になったのは、1961(昭和38)年と2001(平成13)年の2回だけです。



河原 廣さん  
商盛元会長  
阿波おどり用品も扱う「豊喜屋」  
の前店主



# いざ徳島へ!そして10年、やがて50年

## 森田さんの決意

「徳島へようすを見に行ってみよう」と森田昇栄さんは提案しますが同意はなく、そこで「夜行列車→午後3時に徳島到着→阿波踊り見物→深夜0時に大阪行きの船→午前4時に大阪着→始発で東京へ。このスケジュールなら午前中には帰れる」(森田昇栄さん)。まさに脅威のスケジュール!

## 本場の踊りに圧倒されて…

初めて見る本場の阿波踊りを写真と8ミリビデオにおさめ、東京で仲間と鑑賞します。「本場のレベルの高さに、みんなただ驚いていました。それが功をなしたと思います」(森田昇栄さん)。「みんなで徳島へ行ってみよう!」。こんな声が上がって貯金を始め、翌年には12人が徳島へ旅立ちました。「徳島は、自然体で阿波踊り一色。何よりも踊りのレベルが高い」(城石昇さん)。今の高円寺阿波おどりは、このときの刺激によって後押しされたのでしょう。

### 証言Topic8

#### 初徳島で、有名連に混ざって!?

「仲間と初めて徳島へ行ったとき、旅館の浴衣を着て自由に踊る連があったんで、一緒に行った仲間4、5人と入ったんだ。初めてだし、要領がわからなくてノロノロやっていたら、後ろに続いていた有名連の先頭に混ざっちゃったんだよ。今改めて考えると、恥ずかしいねえ(笑)」

(富澤義夫さん)。「初めて」は、誰でも一緒なんですね!



富澤義夫さん  
「とみざわ屋」の御主人  
鳴り物誕生以来、鳴り物一筋

## 活気ある祭りに成長

こうして紆余曲折しつつも、高円寺阿波おどりは10周年を迎えます。「10周年のときには、連の提灯が14、5本も並ぶまでになった」と森田昇栄さん。ばか踊り時代には、想像もしていなかったとか。多感な少女期を、草創期の高円寺阿波おどりとともに過ごした山下敬子さんは「これからも時代とともに変わっていくのだろうと思いますよ。でもね、高円寺の街そのものが盛り上がり行ければ、それが一番いいことだと私は思っています」。高円寺に生まれ育った方ならではの深い言葉です。

第1回目からその中心的立場であり、警備という重要な立場で高円寺阿波おどりを守り、その成長を見守って来た城石昇さんの言葉で、この項を締めくくります。「商盛会青年部の仲間と始めたイベントも今では全国から多くの方々が参加され、見物のためにこの高円寺にお出かけくださるほどに成長した。いい出しっぺのひとりである私は、ときには家族をないがしろにしているかに見えるほど、阿波おどりにかけた時期もあった。しかし84歳になった今も、阿波おどりを通じて多くの出会いをし、当時のことを質問されたりもする。こうした地域や家族とのつながりを、高円寺阿波おどりの縁がもたらしてくれることを本当に幸福に思っている」。

# 第11回～50回のあゆみ

## ●第11回目(昭和42年)

- ・高円寺北口の高円寺銀座商店会協同組合が正式に参加
- ・徳島から小野正己連長率いる「葵連」(15名)が姉妹連「葵新連」の誕生を祝って友情出演。
- ・「葵連」により踊り勉強会が、神戸銀行(現三井住友銀行)3階ホールで開催。大人気を博す

## ●第12回目(昭和43年)

- ・高円寺阿波おどり写真コンテストが始まる

## ●第13回目(昭和44年)

- ・高円寺南口駅前、高南通りの一部が完成。町会の多大な協力を得、大演舞場となる(現在の中央演舞場)

## ●第14回目(昭和45年)

- ・阿波おどりを年中行事とする商店会に呼びかけ、親睦および情報交換、技術指導、相互援授を目的とした「東京都商店街阿波おどり振興会」という組織を結成(2～3年で消滅)

## ●第15回目(昭和46年)

- ・本格的なポスターを製作。国電(現JR東日本)の車内広告や駅貼り広告まで行う
- ・前夜祭がはじまる
- ・サンケイ新聞後援となる。徳島県知事より、阿波おどり普及により感謝状をいただく
- ・第1回高円寺阿波おどり連人気コンテストが実施され、菊水連がNO.1に(1年で消滅)

## ●第16回目(昭和47年)

- ・徳島県知事、徳島市長より優勝旗等が贈られる
- ・独立連がほぼ勢揃いし、主力連が技を競いあう時代に入る
- ・国鉄(現JR東日本)高円寺駅主催の「本場阿波おどり観光団」に500名が参加

## ●第17回目(昭和48年)

- ・広告提灯用の電線が急に不足、そして大幅値上げ。オイルショックの前兆あり

## ●第18回目(昭和49年)

- ・池袋の「大地祭」始まる。阿波踊りを主体にしたお祭り、高円寺が全面的にバックアップ。第9回まで続く

## ●第19回目(昭和50年)

- ・地元高円寺の有力15連が「連長会」を発足

## ●第20回目(昭和51年)

- ・アメリカ建国二百年祭の催し物としてサンフランシスコ、ロサンゼルス、ホノルルの三都市から招待を受け、海外公演を成功させる。以降、海外からの招待が続く
- ・朝日新聞社が後援となる

## ●第21回目(昭和52年)

- ・高円寺阿波踊り振興協会(現NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会)設立

## ●第22回目(昭和53年)

- ・ドイツ・ハンブルグに高円寺連協会合同連が遠征
- ・商工会議所100年記念、全国郷土祭に出演。天皇陛下ご臨席のもと、徳島からは150人、高円寺からは600名が、昼は選抜隊、夜は全員で踊る

## ●第23回目(昭和54年)

- ・「オール高円寺連」が初めて徳島の阿波踊りに参加
- ・ワールドカップ世界体操選手権のアトラクションに出場(於・国立代々木競技場)

## ●第24回目(昭和55年)

- ・新たに都知事杯、区長杯を作成、優秀連に贈られる
- ・消防100年全国大会が後楽園球場で天皇陛下ご臨席のもと行われ、徳島から100名、高円寺から200名が合同で踊る



昭和42年ごろの高円寺北口



●第25回目(昭和56年)

- ・25周年記念行事として、連協会主催の徳島旅行にバス2台、80名が参加
- ・「連長会」を発展解消し、「高円寺阿波おどり連協会」を設立。現場サイドから高円寺阿波おどりの発展に尽力する態勢を整えた

●第26回目(昭和57年)

- ・東京都の国際文化交流事業による民間親善使節団として、ハワイ最大の祭り「アロハ・ウィーク」に100名が参加(9月16日～21日)

●第27回目(昭和58年)

- ・深川・木場の天恵連(元・木場連)が20年ぶりに登場。それは高円寺の阿波おどりの恩人、同連の元連長の鴨川長二氏(同年5月27日・75歳で死去)の追悼をかねたものだった

●第28回目(昭和59年)

- ・南フランス・ニースのジャパンフェスティバルに80名が参加
- ・NHKの教育セミナー「ふるさとの発見・高円寺阿波踊り」が放映され、この番組をきっかけに、長年途絶えていた氷川神社の奉納阿波おどりが復活

●第29回(昭和60年)

- ・立教大学社会学部の松平誠教授の研究室が、高円寺阿波おどりを本格的に研究。研究成果は「人類学：現代都市祝祭の構成—高円寺阿波おどり／昭和63年」に掲載

●第30回(昭和61年)

- ・30周年記念誌「とよめきの三十年—おどれ高円寺」が発刊される
- ・本場徳島より徳島県阿波踊り協会の連長会の14連37名が30周年を祝して友情出演。名人達の乱舞に高円寺は沸きかえった
- ・イタリア・フィレンツェのジャパンウィークに参加(10月)

●第31回(昭和62年)

- ・オランダ・ユトレヒトのジャパンウィークに85名が参加。ジャパンウィークでは欧州各国を回ったが、最大規模のジャパンウィークであった

●第32回(昭和63年)

- ・オーストラリア・シドニーのオペラハウスで開かれた、建国二百年祭に86名が参加
- ・天狗連の姉妹連の徳島『平和連』が高円寺に初登場
- ・銀座商店会が参加以来、多大な貢献をされたいろは連・初代連長 上村明男氏が死去

●第33回(昭和64年)

- ・昭和天皇が崩御。元号が「平成」に。多くの行事が中止になるも例年通りの開催となった。徳島『芸茶楽連』が友情出演
- ・10月、横浜港市制百周年記念祭に高円寺より外部出演としては最大の300名が参加

●第35回(平成三年)

- ・杉並区が北海道風連町、群馬県吾妻町と友好関係を結び、交流の一環として風連町白樺まつり、吾妻町岩櫃まつりに参加
- ・第三回世界陸上選手権大会の閉会式に登場、カール・ルイスなど選手も共に踊る
- ・徳島より「芸茶楽連」、志留波阿連の姉妹連「みやび連」、いろは連の友好連「水玉連」が高円寺に友情出演

●第36回(平成四年)

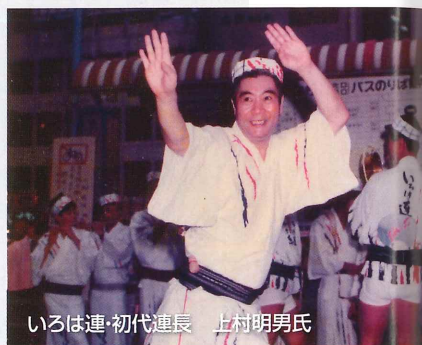
- ・8月、四国放送テレビ「そうなんです、阿波踊りなんです。」の番組で、高円寺の歴史と阿波おどりが紺屋町演舞場で生放送された
- ・中国・北京の日中国交正常化20周年記念行事に参加(9月)

●第37回(平成五年)

- ・大会前日、大型で強い台風11号が関東に上陸。開催が危ぶまれたが27日は開催を30分遅らせて決行となった
- ・年末恒例の「NHK紅白歌合戦」に50名が参加
- ・銀座商店会が参加以来、多大に貢献された商店会元副理事長、関一二三氏が死去

●第38回(平成六年)

- ・東京都とオーストラリア・ニューサウスウェールズ州の友好都市提携10周年と、杉並区とウィロビー市との友好都市提携4周年を記念して、振興協会88名が現地で阿波おどりを披露



いろは連・初代連長 上村明男氏



志留波阿連の姉妹連・みやび連



商店会元副理事長、関一二三氏

●第39回(平成七年)

- ・阪神淡路大震災が発生。被災者救援のために高円寺駅前にて連協会所属連が、チャリティ阿波おどりを実施、集まった義援金は1,108,823円(2月)
- ・東京商工会議所創立12周年記念祭(3月)世界柔道選手権大会閉会式(10月)
- ・徳島より「歌舞伎連」が友情出演
- ・高円寺阿波おどり連協会会長として活躍した飛鳥連初代連長、関根敏邦氏が死去

●第40回(平成八年)

- ・40周年記念誌「めくるめく発展の四十年おどれ高円寺」を発刊。記念ビデオ製作
- ・高南通りを踊り場とした立役者、氷川町会元会長、齋藤信夫氏が死去

●第41回(平成九年)

- ・読売文化センター(船橋ららぽーと)のカルチャー講座に阿波おどりが登場。志留波阿連、ひよっとこ連が指導にあたる

●第42回(平成十年)

- ・飛び入り参加自由の高円寺名物の「びつくり連」に続き、当日に是非踊ってみたいという観客の要望に応えるために、「にわか連」が誕生。連協会所属連の後ろについて楽しげに踊るのは200～300名!! 圧巻であった

●第43回(平成十一年)

- ・振興協会や各商店街事務所に頻繁にかかる問い合わせの電話に対応すべく、高円寺バル商店街が「阿波おどりマップ」を製作。街頭や駅で配布し、観客からも好評を得る。「ひよっとこ連」の友好連である徳島「うずき連」が友情出演

●第44回(平成十二年)

- ・「飛鳥連」「江戸っ子連」が結成30周年を迎え、その記念として徳島の姉妹連「娯茶平連」「阿呆連」が初めて高円寺阿波おどりに登場し、各演舞場で師弟共演が実現する
- ・昭和52年に誕生した「高円寺阿波踊振興協会」初代会長、草柳勝治氏が死去

●第45回(平成十三年)

- ・高円寺阿波おどりに多大に貢献した東京阿波踊振興協会会長・小澤淳男氏が7月に死去
- ・28日、開始直後に突然の集中豪雨となり、危険防止のため中止となった
- ・地元杉並区が共催に加わる。会場周辺で歩行者の一方通行を実施

●第46回(平成十四年)

- ・「東京阿波踊振興協会」の名称が「東京阿波おどり振興協会」と変更される
- ・高円寺阿波おどりに多大に寄与された、東京阿波おどり振興協会副会長・塚本忠吉氏が6月に死去。また、草創期より踊り一筋の「天狗連」神藤信一氏が8月に死去

●第47回(平成十五年)

- ・第45回大会を教訓として、関係各機関と協議を重ね「緊急時対応マニュアル」を作成、文書化して厳格を期することとした

●第48回(平成十六年)

- ・高円寺阿波おどり組織活性化委員会が発足、協賛者席・参加費の導入を行い、NPO法人化を目指す。
- ・中越大地震が発生。被災者救援のために高円寺駅前にて連協会所属連が、チャリティ阿波おどりを実施、集まった義援金は942,797円(11月13日)

●第49回(平成十七年)

- ・東京高円寺阿波おどり振興協会がNPO法人として認証を受ける
- ・おどれ高円寺セシオン2005が初めて有料化(1000円)となる
- ・27日、史上最多の77連が参加。開催日を8月の最終土日に変更

●第50回(平成十八年)

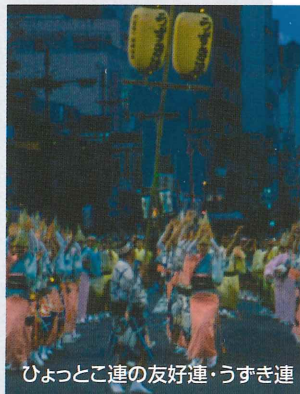
- ・開催時間を午後6時から9時までに変更
- ・記念誌「踊れ高円寺—人が創り街が育む五十年」を発刊
- ・「高円寺阿波おどり50周年の夕べ」をセシオン杉並にて開催



飛鳥連初代連長、関根敏邦氏



氷川町会元会長 齋藤信夫氏



ひよっとこ連の友好連・うずき連



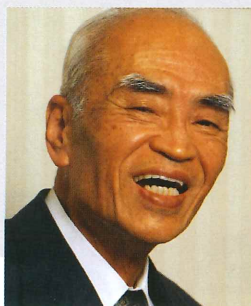
飛鳥連と娯茶平



江戸っ子連と阿呆連



振興協会初代会長 草柳勝治氏



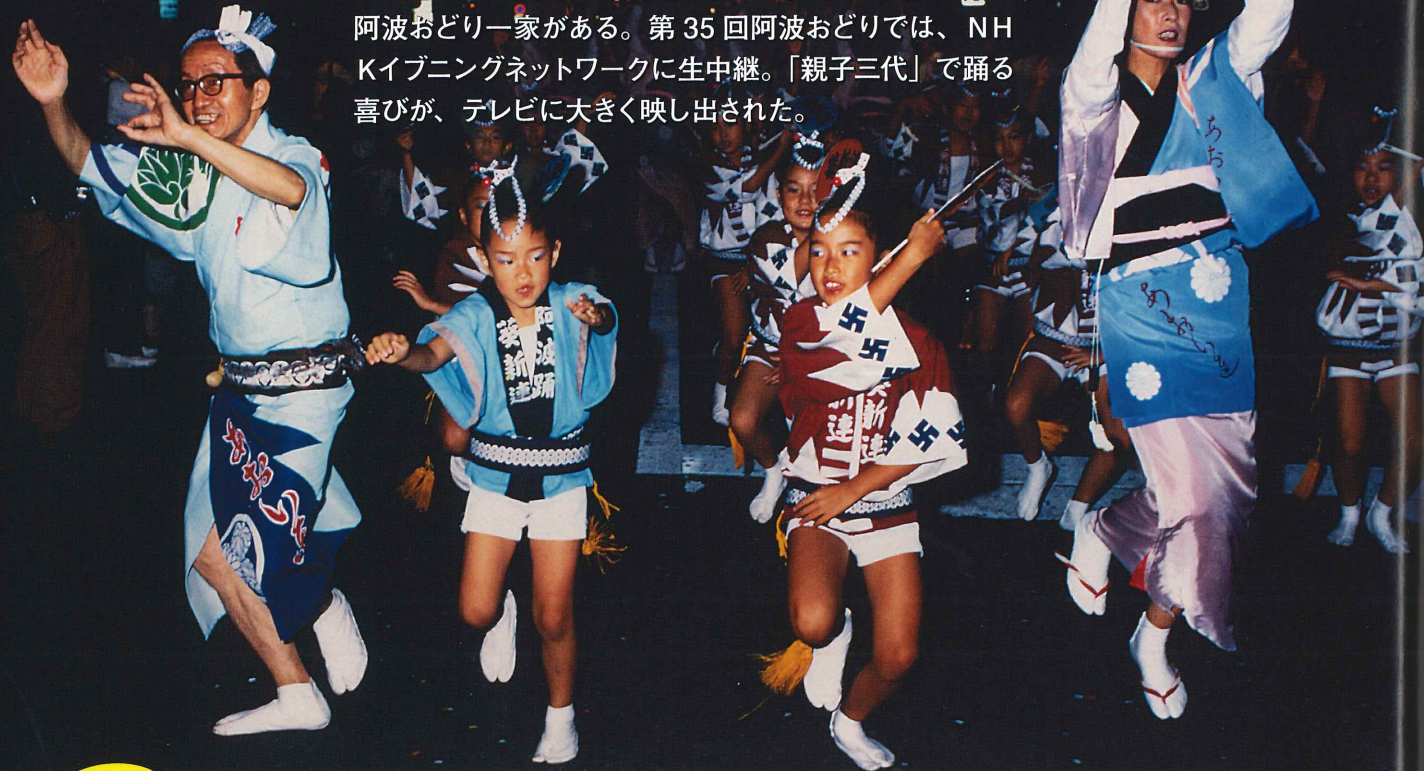
阿波おどり発足時からの功績者  
小澤淳男氏



# 「親子三代」で踊る歓び 阿波おどりは家族をつなぐ絆の証

森田昇栄さん  
御一家

高円寺で阿波おどりが始まってから半世紀。生まれたばかりの赤ん坊は齢五十の“知命”に至り、二十だった若き青年は齢七十の“古希”を迎えた計算となる。それほどまでの長きにここ高円寺には「親子三代」で踊る阿波おどり一家がある。第35回阿波おどりでは、NHKイブニングネットワークに生中継。「親子三代」で踊る喜びが、テレビに大きく映し出された。



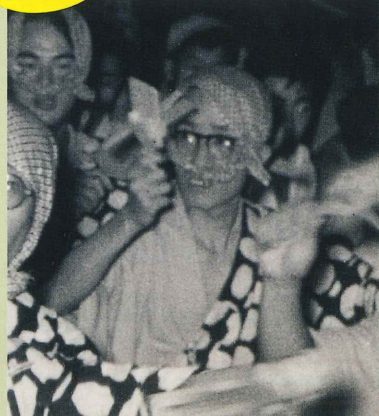
第35回 (平成3年8月27日) NHKテレビイブニングネットワーク「親子三代」生中継／高円寺中央演舞場

「これは孫娘がデビューしたときの写真です。こうやって昔からの写真をぜんぶ綴じてあるんです。」

積み重ねられたアルバムを前にそう語るのは、

葵新連の連長・森田昇栄さん。八十歳にして現役の踊り手であり、50年間一度も欠かすことなく参加し続けてきた高円寺阿波おどりの「生き字引」的存在。第1回から作成している自作ア

## 第1回 (昭和32年) 初代・昇栄さんデビュー!



当時まだ30歳すぎの青年だった昇栄さん。何もかもが初めての経験で、「お囃子がなっているのに、足がすくんでなかなか前に進むこともできませんでした。本当に冷や汗ものでした」と振り返る。

写真は第3回 (昭和34年)、両手に鳴子を握り、まるで土佐のよさこい阿波踊り。

## 第5回 (昭和36年) 二代目・真由美さんデビュー!



二代目・真由美さんのデビューは5歳。小学校6年生のときには、昇栄さんと共に徳島へ渡り、本格的な指導を受ける。徳島から戻ってきた後、踊りを教えてくれるお姉さんに「アナタの教えた踊りは阿波おどりじゃない!」といい放ったとの逸話も。

## 第28回 (昭和59年) 三代目・杏里さんデビュー!



「親子三代」が実現したのは、杏里さんがデビューした第28回。その数日前には、一家で本家・徳島を訪れ、踊りの指導を受け、その様子は地元の新聞でも「親子三代夢かなう」と、大きく紹介された。後ろで踊る父親の将令さんも嬉しそう。

## 第33回 (平成元年) 三代目・このみさんデビュー!



「物心がついたら踊っていた」というこのみさんのデビューは平成元年。「お姉ちゃんが女踊りなら」ということで、男踊りに挑戦。おじいちゃん、お姉ちゃんを見ながら、一生懸命踊る姿は愛らしいと評判に。

アルバムは、実に200冊以上にも及ぶ。阿波おどりや家族の歴史が収められた、森田家の「家宝」だ。

一家は、娘の真由美さんとその夫の将令さん、孫娘の杏里さんとこのみさんという構成で、今は裏方に回っている真由美さんを除く4人は、毎年欠かさず祭りに参加している。すなわち、「親子三代」で踊る生粋の阿波おどり一家。365日、家族で踊ることが話題にならない日はないとのことで、「皆、踊りについて熱くなりすぎ。意見がぶつかって大変です」と、娘の真由美さんは苦笑する。

そんな森田家だが、「家族で誰が一番上手か」との問いには、真由美さんの夫・将令さんと口を揃える。現在、葵新連の副連長を務める将令さんは、連のメンバーを統率するリーダー的存在。葵新連の踊り手の実に9割以上は、将令さんの教え子だという。踊りの腕前もさることながら、教え上手という意味でも家族全員が一目を置く存在だ。

そんな葵新連の先頭に立って踊るのが、連長の昇栄さん。「踊っている最中は、やっぱり後ろにいる孫娘たちが気になります。でも、親子三代で踊れるのは最高に嬉しい」と目を細める。

そんな昇栄さんを孫娘の杏里さんは「今も現役なのはスゴイし、踊っている姿はカッコいい」という。だが、当の昇栄さんは「家族で一番踊りがヘタなのは私。娘はもちろん、孫娘たちの方がずっと上手です」と至って謙虚だ。

一家の踊り好きは骨の髄まで染み渡っていて、



もう一人の孫娘・このみさんは「阿波踊りのお囃子を聞くと体が反応してしまう」という。このみさんは現在、テレビドラマ「金八先生」にも出演するなど駆け出しの役者として活躍中だが、その演技力も阿波おどりで培われたものかもしれない。

父から子へ、子から孫へと世代を越えて踊り継がれてきた高円寺阿波おどり。それは、森田家の「誇り」であり、家族をつなぐ「絆」でもある。「おじいちゃんたちが始め、伝えてきたもの。私たちが絶やさないように広めていきたい」と杏里さんは目を輝かせる。

杏里さんも、このみさんも、自分に子どもができたなら「絶対に踊らせたい」とのこと。「親子四代」の阿波おどりが見られる日も、決して遠くないのかもしれない。



# 親子で阿波おどり

高円寺阿波おどりは、昭和32年の第1回目は大人だけが踊っていました。そして50年を経た今では、こんなにたくさんの親子が踊っています。



▲葵新連 左から  
仁平美優(8年目) 仁平勝(28年目)



▲葵新連 左から  
柴田 さよ(10年目) 柴田 ふゆみ(4年目)  
柴田 桂太(8年目)



▲葵新連 左から  
小泉 優(7年目)  
小泉 恵子(3年目)



▲飛鳥連  
川口 正仁(11年目)  
川口 真実(8年目)  
川口 ひとみ(11年目)

▲花道連 左から  
名和美鈴(7年目) 名和 一成(20年目)  
名和 舞雅(7年目)



▲ひさご連 左から  
石井 文彦(8年目) 石井 邦美(14年目)  
石井 源太(1年目)



▲しのぶ連 左から  
青木 康郎(38年目) 青木 千恵(18年目)



▲ひさご連 左から  
澤 絵里子(12年目)  
澤 暁子(9年目)  
澤 夏希(12年目)



▲しのぶ連 左から  
菊池 純子(11年目)  
菊池 諒(6年目)



▲苔作連 左から  
七澤 修斗(3年目)  
七澤 裕(11年目)  
七澤 健斗(4年目)



▲しのぶ連 左から  
森 啓太郎(10年目) 森 健史(32年目)

▲しのぶ連  
加倉井 美樹(17年目)  
加倉井 啓雄(35年目)  
加倉井 希代衣(5年目)  
加倉井 佑季子(5年目)



▲志留波阿連 左から  
松田 浩史(8年目) 松田 の子(5年目)



▲志留波阿連 左から  
山口 彩希(3年目)  
山口 和子(3年目)

▲志留波阿連  
中央奥 幸治(5年目)  
中央奥 一也(10年目)  
中央奥 澁沢 たまみ(10年目)



▲飛鳥連  
左 齋藤 佳代子(5年目)  
右 齋藤 雄貴(5年目)  
中央 齋藤 拓也(5年目)



▲岩浪連  
左 岩浪 則彦(29年目)  
右 岩浪 竜也(9年目)



▲天水連  
左 岩浪 涼祐(5年目)  
右 岩浪 則彦(29年目)



▲江戸っ子連 左から  
杉谷 ゆき絵(30年目)  
杉谷 宗彦(40年目)  
杉谷 ちさと(28年目)



▲えふあい連 左から  
渡辺 次郎(30年目) 渡辺 かおる(26年目)  
渡辺 昌樹(7年目) 渡辺 茂樹(7年目)

▲写楽連 左から  
国藤 香(2年目)  
国藤 夕那(3年目)

▲舞蝶連  
左 津野 至浩(5年目)  
右 津野 寿子(4年目)  
左 津野 花(5年目)  
右 津野 日向(3年目)



▲天狗連  
左 小林 奈々穂(4年目)  
右 小林 和彦(11年目)  
中央 和典(2年目)



▲写楽連  
左 中村 雄太(7年目)  
右 中村 慶輔(35年目)  
中央 中村 香織(28年目)



▲写楽連 左から  
鈴木 杏那(2年目)  
鈴木 康夫(20年目)



▲飛鳥連  
左 宗像 和行(14年目)  
右 宗像 朝美(15年目)  
中央 宗像 治美(11年目)  
右 宗像 頼美(14年目)

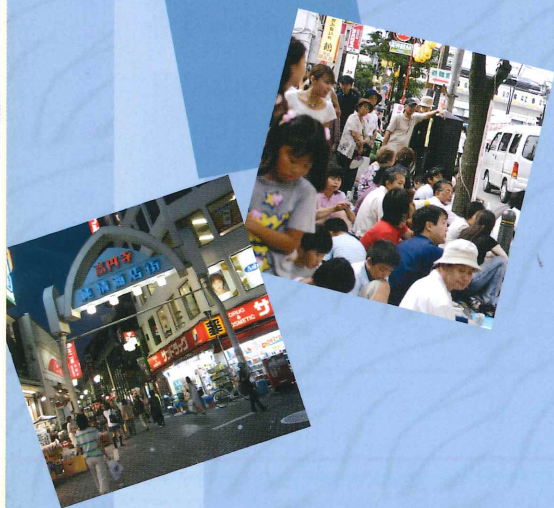


# 光と影



**昭**和32年に始まって50年。踊り手は1万人を超え、観客は120万人を数えるようになった高円寺阿波おどり。会場一帯はお囃子の奏でるよしこのリズムと観客の歓声で熱気に包まれる。

パル商店街から始まった行事が、ルック、純情商店街へと広がり、さらには高南通りをメイン会場とするなど、点から線へ、そして面へと拡大してきた。このように多くの人を熱狂させ、多くのマスコミにも大きく取り上げられるようになった高円寺阿波おどりに対して、外部の識者は「街の活性化のモデルケース」と高く評価する。だが、果たして本当にそうなのだろうか。



## 半世紀の光と影

高円寺阿波おどりに対し、安全・安心・環境への配慮が強く求められるようになったのは10年ほど前。以後、警備やごみ収集などの費用は増大した。これに対して、景気の低迷は広告収入を目減りさせ、運営財政は逼迫した。大きな赤字が出ては、連協会から借入れを行い、ついにはパル・ルック・純情の3商店街に補てんを依頼せざるを得なくなった。

しかし、各商店街も古くからの店舗の廃業が相次ぎ、新たに出店してくる大手チェーンやフランチャイズ店は人的にも財政的にも協力度合いが低く、そのような状況の中、大切な組合費を阿波おどりに投入することへの是非については、意見が分かれていた。

昭和52年には諸業務を統括する団体として高円寺阿波踊振興協会（東京阿波おどり振興協会）が誕生し、役員には多くの自治会・商店街の会長、理事長が名を連ねた。たが、執行部からの情報発信が十分ではなく、当面する問題を把握していない関係組織も多かった。

近隣住民からは、「交通規制が敷かれて車が入れない」「駅が見物客であふれかえって、ホームから改札口を出るまで40分もかかる」「駅構内を出てからも、こった返す群衆の間に縫って家に帰り着くまでにへとへとなってしまう」などの苦情があがった。さらに会場周辺の住宅では、立ち小便やごみのポイ捨てなどの被害も後を絶たなかった。

一方で、観客からは、「雑踏にもまれて会場がどこか分からない」「尋常でない人ごみで前の人の頭しか見えない」などの声があがっていた。地元の人にはなんともない地理や踊りの経路が、遠来の観客には分からない。あきらめて居酒屋に入る人はまだ良い方で、「二度と来るものか!」と怒って帰ってしまう人も少なくなかった。

スタッフ、役員も、ほとんどが当日だけの寄り合い所帯。前年と同じことを踏襲するのが精一杯で指揮系統が機能せず、トラブルにも右往左往するばかりで、救急車が出勤する事故が起きても誰も知らなかったことさえあった。

平成14年は、そうした矛盾や問題が噴出した年であった。東京阿波おどり振興協会の財源・人材不足は深刻化し、会議は紛糾、出席者の多くは阿波おどりの将来に不安を覚え始めた。また、共催する杉並区からも組織のあり方、財政状態を不安視されていた。

際限ない問題の数々。誰もが懸命にがんばっても、先行きはまるで見えなかった。外から見る華やかさ、それ以上に高円寺阿波おどりを縁取る「影」は大きく暗かった。







## NPO法人へ

一方でかすかな希望もあった。それは踊り手の存在である。

平成15年、スタッフの不足により、連協所属連の代表が交代で演舞場の運行を担当することになった。それまでも開始前のごさ敷きや清掃などを行っていたが、踊っている時間に主役である踊り手が運行に協力してくれたことは心強かった。長い間、「踊る側」と会場を「作る側」には意識の隔たりがあったが、これを機に危機感を共有するようになり、それが連関係者を振興協会スタッフに取り込むきっかけにもなった。

こうした経緯の中、東京都中小企業振興公社の支援を受け、責任の明確化と財政の健全化を図り事業として高円寺阿波おどりを確立しようと、組織活性化委員会が発足。メンバーには3商店街の理事長や阿波おどり担当者、振興協会・連協会の役員などが選出された。



だが、当初はそれぞれが抱える問題があまりに大きく、その整理さえおぼつかなかった。そこで任意団体であった組織を信頼性のあるものにしてNPO法人（非営利活動法人）化を目標にした。既存のNPO法人への聞き取りなど、月に数回の勉強会を重ね、商店街中心の運営から地元（商店街・自治会）、踊り手、観客の三者が一体となって支えあう構造への転換を目指した。また、財源の確保が急務であることから、15年度から連参加費（50,000円）を徴収。さらには、隅田川花火大会を参考に、各演舞場の機材を一口5,000円の協賛者席として募集するなど、組織維持のための基礎財源を創出した。

そして16年の大会後、準備作業は一気に加速。種々の事務手続きを経て、平成17年3月16日にはNPO法人として東京都より認証を受けた。発足後1年がたった現在、高円寺地区の大半の商店街や自治会が会員として登録し、商店街の理事長、自治会役員、連協会役員（連長）、税理士等20人ほどが理事として運営に携わっている。区長が名誉会長、石原伸晃代議士が顧問を務め、弁護士、プランニング会社の経営者、演出家等が評議員として名を連ねている。こうして東京高円寺阿波おどり振興協会は、実効性のある組織として再生した。



## 環境対策とボランティア

環境対策の要点は、「ごみ対策」と「トイレの設置」である。人が大勢集まればごみが出て、トイレも必要になる。1人50グラムのごみを出したとして、50万人では実に25トンものごみが出ることになる。その量は膨大で、以前は分別さえ難しく、収集袋に入れて集積するのが精一杯であった。

そんな中、平成12年に区役所よりごみの有料化と分別が求められた。だが、財源不足のため3年間をかけて段階を踏み、正規の処理費を支払うということで理解を求めた。また、分別に対しては可燃、不燃の2分類を行うこととなった。演舞場周辺は大型のごみ箱を置くスペースがなく、持ち帰りと分別収集に主眼を置き、以下のような計画を立案した。

- ①各演舞場に複数の臨時集積所を設置する。集積場では阿波おどりの終了後、担当スタッフが直ちに三角コーンとポールを組み立て、可燃・不燃の指示を行う。
- ②観客に炭酸カルシウム入りのレジ袋を配布し、場内放送でごみの持ち帰りを呼びかける。

だが、三角コーンとポールを警備などで転用してしまい、組み立てられない演舞場が出てしまったこともあった。また、電車を利用して来る観客などは、相変わらず置き捨てが多かった。そうしたことから、翌年は環境部を増員、さらには区役所環境課と協力してごみの分別集積所を南口噴水前に設置した。不燃物、可燃物、ビン、缶、段ボール、ペットボトルの6分別とし、帰宅する人をターゲットにした。翌年には、北口ロータリーにも同様の集積所を設置。区職員とボランティアの学生が対応し、踊り終えた直後の踊り子たちも分別を呼びかけた。さらに30名ほどのボランティアが3台のリヤカーに分かれて演舞場周辺を巡回し、路上に散乱するごみをくまなく収集した。

47回大会からは、区から可燃・不燃・段ボールの3分類が求められ、さらに49回大会からは6分別の提案があった。いかに時代の要請とはいえ、踊りの終了後、交通規制が解除されるまでのわずか30分間で6分別するのは不可能であった。ごみ処理における一番の問題は、阿波おどり以外の事業系ごみへの対応であ







る。終了後に片付けたごみをはるかに超えるごみの山が翌朝何カ所も出現する。ほとんどが周辺の飲食店から出されたごみで、これが全体の7割近くを占める。開催日が土日になると、日曜の朝の収集は業者に委託しなくてはならない。都内の外の大きな行事のほとんどが業者収集であることを考えれば、阿波おどりで出されたごみも業者収集で対応するのが本来の姿かもしれない。とはいえ、業者に2日間依頼すると100万円以上の費用が必要となる。そう考えると、ごみ問題の要点は飲食店対策にあるといってもよい。

忘れてはいけないのがトイレ問題である。現在は公衆トイレの外に桃園川緑道の東西に仮設が3基ずつ、4トン車に仮設を3基搭載した車載トイレを3カ所に配置している。本来は仮設トイレの設置が望ましいが、会場周辺には空き地がなく、やむなく車載トイレを導入している。それでも、好天の暑い日には長い列ができてしまう。昨年は演舞場付近のコンビニ等でトイレを借りる人がとても多かった。これ以上の増設が難しい現状、協力金を用意して「トイレ利用協力店」を募ることも検討する時期にきている。

規模の拡大、店舗の減少は、財政難に加えて深刻な人材難をもたらしてきた。業務は拡大する一方なのに、人手は減少する。アルバイトを雇う財政的なゆとりもない。こうした中で、従来から交通整理や警備で協力いただいている杉並交通安全協会、杉並消防団、立正佼成会交通部の皆さんに加え、主に環境と安全対策の分野において、区内の専門学校からボランティアを募集した。初年度は織田福祉専門学校、翌年には東放学園、さらには創価学会杉並青年部の方々にも輪に加わっていただいた。1日あたり120名近くのボランティアが、会場整理、警備、清掃などに協力してくれている。感謝の気持ちで一杯である。当初は実行委員会の不慣れで迷惑をかけたが、今後はボランティアの方々が手伝うに足ると感じてもらえるような高円寺阿波おどりにしていかなければならない。

## 大雨から学んだ災害対策

昭和38年の大会は、猛烈な夕立で桃園川があふれ出し、床下浸水した地域もあって阿波おどりは中止になった。だが、天候が回復すると水が見る見る引き、練習を重ねてきた踊り子の中には「早々と中止決定を出したのは納得できない」といい出す者もいた。主催者は全責任を負うものである以上、その決定には踊り手も従わねばならない。だが、明確な判断基準は必要である。それにもかかわらず、規模が拡大してから基準は作られず、長い間当日の午後3時段階で決行か中止かを決定するという取り決めがあるだけであった。

平成13年、兵庫県明石市で、殺到した花火の見物客が将棋倒しになる惨事が発生した。同年、高円寺阿波おどりは1日目から天候が思わしくなく、踊りを一時中断してアーケードや建物の軒下で雨宿りをしてしのいだ。2日目は夕方の6時すぎから急に雨脚が強まり、6時30分に予定通り開始したものの、間もなく中止となった。観客がアーケード内に殺到し、このまま続行すれば明石の惨



事の二の舞になりかねないと判断した。だが、その後の処理がお粗末だった。中止指令が各演舞場に連絡されたものの、同時に全連の運行を止めるのか、踊り出した連を最後に止めるのかが演舞場によって異なり、不正確な情報が錯綜して踊り子や観客が騒ぎ出し、収束に時間がかかった。この一件は、それまで高円寺阿波おどりが大過なく、回を重ねてこれたのは、一重に幸運に支えられてきたということを痛感させられた。約40年間、危機管理はほとんど考えてこなかったのである。

前年の平成12年には、パル演舞場で踊り手が倒れ、亡くなるという事故が発生し、この一件も大きな教訓となった。現状、現場に緊急車両が入るのは難しいが、楽しい阿波おどりの影で悲劇が起きるのは、なんとしても避けなくてはならない。

こうした経緯から、平成15年には実施要綱の全面改訂に着手した。また、大雨や急病人発生などの事態を想定し、緊急時対応マニュアルを作成した。中止決定の告知方法、途中





## 光と影 27



## 土日開催

高円寺阿波おどりは、地元の氏神様である氷川神社の例大祭に合わせて、昭和32年の発足当時から49年間、8月27日・28日に開催してきた。この長い伝統を昨年から8月最終の土日に変更した。

もちろん、伝統は重んじる必要があるし、日程が固定されていれば案内看板が毎年流用できるなどのメリットもある。だが、時代の流れはこうした利点を超えるマイナス要素を大きくしてしまった。その第一が交通規制だ。阿波おどり開始の30分前から、会場周辺の1帯は車両通行止めになる。この地域に住む人の車以外は通行できず、住民も通行証がなければ出入りができない。周辺の道路は交通渋滞が発生し、青梅街道や環状7号線では他所に至るまで、その影響が及ぶ。電車もまた然りで、当日は阿波おどりによる混雑のピークが帰宅ラッシュと重なり、電車を降りて改札を出るまで40分以上もかかる。



土日開催となれば、幾らかでも交通規制や帰宅ラッシュの影響を小さくできる。また、観客も休日であるからゆつくりと見物できる。踊り手も仕事を休んだり、早退したりすることなく、踊りに打ち込むことができる。と考えた。

もちろん、デメリットもある。具体的に「土曜の出演希望が殺到し、連の振り分けが難しい」「日曜は清掃事務所に休みで、土曜のこみを民間業者に委託する費用がかかる」「見物客の増加が予想され、安全対策や誘導に万全を期すための費用がかかる」などの声があがった。

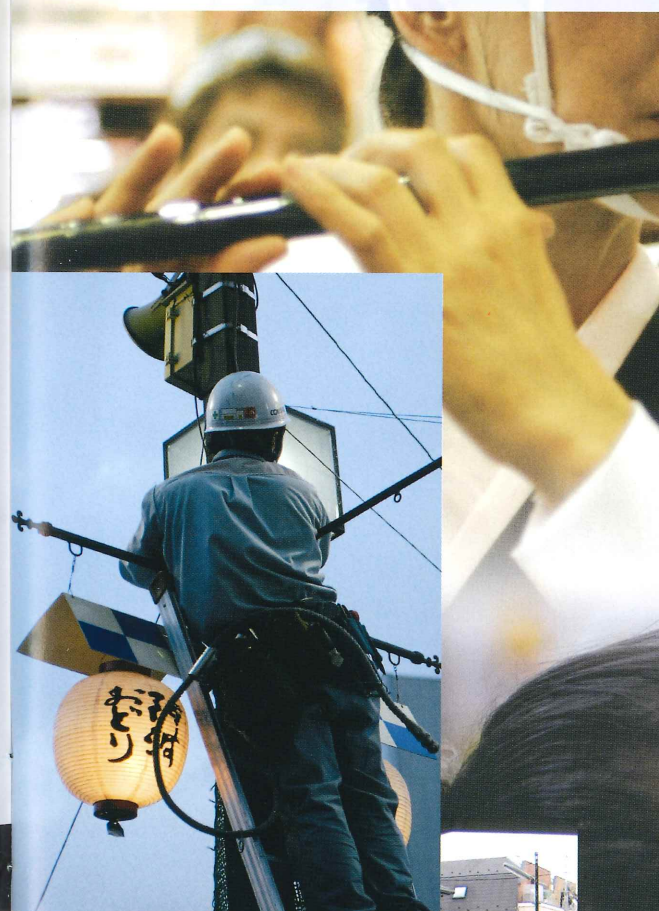
こうしたメリット、デメリットを考え合わせて、原則として8月最終の土日開催することに決定した。「住民に支持されてこそ阿波おどりであり、開催による住民への負担はできる限り少なくする必要がある」と考えたからである。開始時間も「6時半から9時半」だったのを「6時から9時」へと変更した。6時30分という開始時間は、確実な日没を待って「阿波踊りを美しく見せる」ことが目的であったが、それ以上に住民や観客への配慮、会場の片付けなどを判断基準にし、土日開催の決定に至った。



## 人が創り、街が育む

高円寺阿波おどりは、昭和32年に商店街のにぎわいを求めて始まった。それが商売を離れることによって外の商店街へと拡大し、さらには周辺自治会をも巻き込み、高円寺全体の行事となった。もし、商店街が阿波おどりを人寄せとしての取り扱いに終始していたら、今日の拡大はなかったと思う。大雨で中止になったときには、泣いて抗議をした商店街の役員もいた。その是非は別として、この大人げない情熱こそ、発展の礎であろう。

ある商店街の祭りが成功すると、隣の商店街では異なる祭りで対抗するケースが多い。だが、高円寺は阿波おどり一色になった。高円寺で最多の商店数を誇るルック商店街の加入は、周辺自治会へ拡大する足がかりとなった。純情商店街では独自に盆踊り大会を開催していたことから参加依頼に躊躇していたが、肝心の若手青年部が阿波おどりに参加したことをきっかけに、その後正式に参加の運びとなった。都内でもいち早く法人化するなど先見性のある純情商店街の加入は、東京阿波おどり振興協会の組織化を促進した。現在のメイン会場である中央演舞場を擁する氷川町会も、「大変だ」「疲れちゃうよ」といいながらも、町会長以下の役員の顔には、われわれが阿波おどりを支えているのだとの自負が見て取れる。自分たちの街は会場になっていないにもかかわらず、20名近くの会員とともに応援に駆けつけてきてくれる自治会・商店街もたくさんある。

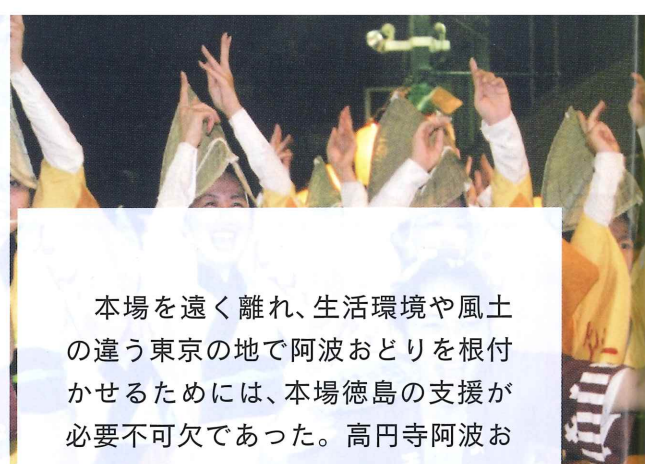






終了後の一斉清掃での連協会所属連のキビキビした動きは清々しいし、彼らが翌朝早くから周辺街路を清掃する姿も恒例になった。数千人もの踊り手の喉を潤そうと氷入りの水を懸命に配り続ける自治会婦人部の皆さんや、くみ置き式の仮設トイレを少しでも快適に使ってもらいたいと、行列の合間を縫って清掃をしてくださる方々もいる。

商店街が客寄せで始めたものだが、次第に虜になる者が現れ、その情熱が伝播し、拡大を続けた。その過程では、阿波おどりの実施母体の組織づくりに活躍した人、スポンサー集めに手腕を発揮した人など、多くの協力者を得られたのは、阿波おどりを自分たちだけのものと主導的な立場を独占せず、広く門戸を開いた商店街の先輩たちの見識といえる。今日の隆盛につながった真の要因は、地域をひとつに結ぶものへの期待と自らが支えていると思う自負なのではなかろうか。



本場を遠く離れ、生活環境や風土の違う東京の地で阿波おどりを根付かせるためには、本場徳島の支援が必要不可欠であった。高円寺阿波おどりが盛んになればなるほど、本場徳島は光彩を増す。東京の大観衆は、高円寺の先に徳島を見ているのである。そして高円寺で阿波おどりが始まって以来、東京周辺では30カ所以上の阿波踊り開催地ができた。

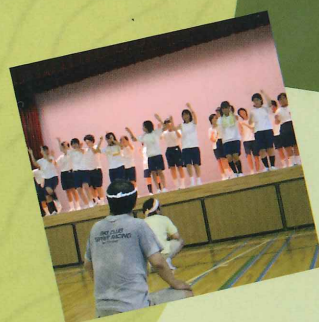
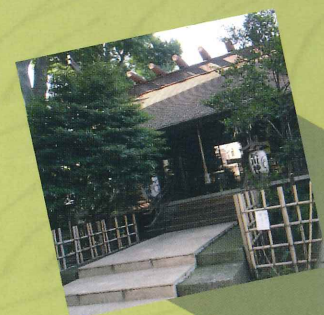
東京高円寺阿波おどり振興協会は、阿波おどりを高円寺の地域文化として全国に発信することを目標のひとつとしている。そして「安全・安心・環境に配慮した」運営のためには、より大勢な人の協力が必要になる。阿波おどりへの参加といえ、今までは踊りたい人がほとんどだったが、今後はスタッフとして運営を手伝いたい人も出てくるだろう。そして彼らをも巻き込んで活動することができたとき、高円寺阿波おどりの新しい幕が開く。

この街は、記憶に残るような歴史的建造物や豊かな自然とは無縁である。だが、阿波おどりを育ててきた街には来街者を受け入れる暖かさと結束力がある。阿波おどりは地域をひとつに結ぶのにとどまらず、地域と人、人と人をも結ぶ絆となっている。この絆がある限り高円寺は阿波おどりに携わる人、愛する人にとって「ふるさと」であり続けるだろう。

# 「阿波おどりのある街」として

**遥**か遠い徳島で生まれた阿波踊りが、高円寺の街で新たな芽を吹いてはや50年。街と人が阿波おどりを育て、阿波おどりがこの街と人を育ててきました。

よりよい街づくりと商店街活性化のために、今、私たちができることを考え、そのひとつひとつに取り組みます。





# 東京高円寺阿波おどり ブランドの確立を目指して

## 登録商標「東京高円寺阿波おどり」

この度「東京高円寺阿波おどり」の名称が商標として認可されました。高円寺の地域文化である阿波おどりを大切に思い、魅力ある企画を提供させていただく一方、地元商業振興の発展を願っての措置です。地域の方々がこの商標を営業活動のなかでご活用いただくことを願い、正式認定商品はパンフレット掲載、特設ブースでの販売なども検討中です。

商標の無断使用については、商標活用にご理解をいただいている個店の利益保護と地元文化の発展、継承の観点から、法的処置も含め厳しく対応いたします。

商標登録したロゴは図形として認可されています。たとえデザインや書体などが異なっても「東京阿波おどり」、「高円寺阿波おどり」、「高円寺阿波踊り」などは類似するとされ、第三者に錯誤を抱かせるとして商標権に抵触することとなります。

## ご当地キティでアプローチ

ご来場の方から「阿波おどりの土産物はないのか」、「記念品はないのか」とよく問い合わせがありました。商店街で始まったにも関わらず、関連商品が全くありませんでした。日ごろ協力を頂いている地元商店が取り扱うことで、いくらかでも売上に貢献できれば、そして来街の皆さまに喜んでいただけるものをもと模索し、幅広い世代に人気のあるハローキティの高円寺限定・阿波おどりバージョンの根付、ボールペンを作製、販売することになりました。各商店会を通じて販売店を募集したところ、思いのほかの人気で根付は完売。2年目にあたる平成18(2006)年も新しいデザインのものを販売中です。今後登録商標「東京高円寺阿波おどり」を利用した記念商品の種類を徐々に増やし、地元商店やお客様に喜んでいただける事業に繋がたいと考えています。



東京  
高円寺  
阿波おどり

# 阿波おどりと街づくり

杉並区を代表してお祝い申し上げます。

高円寺阿波おどりが、ご盛況の中、50周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

1957年(昭和32年)に始まりました「高円寺ばか踊り」は、いまや「高円寺阿波おどり」として日本中に知られる、夏の終わりを彩る代表的なイベントに発展しました。そして、東京で暮らすたくさんの方たちに、ふるさとのあたたかさを感じさせてくれます。

また、高円寺阿波おどりは、都会の中ではともすれば忘れがちなふるさと意識や、地域の協力・連帯の大切さなどを思い起こさせてくれます。

これもひとえに、事業にかかわってこられた関係者の方々の長年にわたるご努力や、地元住民の皆様のご理解、ご支援の賜と、深く敬意を表します。

今後、高円寺阿波おどりがますます充実し、元気と魅力にあふれる街となりますよう、並びにNPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会の皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶いたします。

杉並区長 山田 宏



高円寺の街に阿波おどりが誕生して50年。地元の皆さんが育てあげた賜と、お祝い申し上げます。

私が高円寺駅長として赴任してきたのは、駅の改良工事が始まる2004年(平成16年)3月でした。まだ、北口の広場も広く、そこでの阿波おどりを初めて観させていただいたとき、若い方、年配の方、男性の方、女性の方、全ての方の踊りに魂があり、その立ち姿に凛々しさを感じました。漢字一字で表すとすれば、「凛(りん)」です。

駅の改良工事におきましては、高円寺の皆さまの阿波おどりへの「想い」を、構内の至るところで表現できたことに感謝いたします。

高円寺阿波おどりの終了時刻は決まっており、家路につかれる観客の皆さんがいっせいに駅を利用なさいます。これをふまえ、今後も中央線の電車時刻がより安心・安全なものとなるよう、駅社員一同善処し、「阿波踊り」という文化の色づく「高円寺駅」にしていきたいので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

高円寺駅前駅長(両国駅長) 山口一男





高円寺阿波おどりが、記念すべき50回を迎えられましたこと、また、立派な記念誌を発行されますこと、心よりお祝い申し上げます。

**隣町阿佐谷の七夕まつり**に刺激を受け、高円寺にも溢れるほど大勢の人々を集めたいとの願いから始められたと、伺っております。

氷川神社の祭礼に合わせた日程から、8月の終わりの土日に移行され、前半の阿佐谷七夕まつりと共に、東京の夏に欠かせぬ二大イベントといわれておりますが、動きと音のある高円寺阿波おどりの方が、今日のテレビ時代にピッタリ合った祭りのようにも見えます。

時代が大きく変化し、地域社会の危機が叫ばれている今日、杉並の文化・伝統を創り続け、多くの人々に夢と希望が与えられますよう祈念し、隣街阿佐谷より心を込めて応援させていただきます。

阿佐谷商店街振興組合 前理事長 小川 勝久



高円寺阿波おどり50周年おめでとうございます。1957年(昭和32年)は、大祭日を8月27日28日に変更(従来は9月17日18日)した記念すべき年でした。そして私も、この年、神職に拝命され、そのスタートの年に、商盛会(現パル)青年部の申し出により、**氷川神社大祭奉納おどり**が始まりました。境内から商店街へ繰り出した参拝客や沿道の人々を大いに驚かしたイベントで、立ち会った私は、高円寺阿波おどり成功の陰の協力者の一人と、自負しております。高円寺阿波おどりは年々盛大になり、西の徳島、東の高円寺といわれるほど、全国的に知名度をあげています。デーゲームは氷川神社の祭礼、ナイターは阿波おどりと、ドッキングして高円寺を盛り上げてまいりましたが、50年目、事情により、これらを別々に開催することになってしまいました。しかしながら、高円寺阿波おどり発足に立ち会った地元の神社として益々の発展を祈念し、今後共末永いお付き合いをお願いします。

氷川神社 宮司 山本 雅道



ふるさと高円寺を愛し、高円寺の中学校で学ぶことを誇りとする生徒を育てたいと思っています。地域を愛する心を育むことは、日本の文化や伝統を正しく理解し、国際社会の一員としての自覚を高めることになります。

2002年(平成14年)から、地域の方々にご協力いただき、阿波踊りを学び、2004年(平成16年)からは、3年生がリーダーとなって**全校で阿波踊りの体験学習**に取り組んでいます。

集団で練習し、踊ることは、集団の一員としての自覚を高め、規律を守る大切さを学ぶ機会になります。舞台上で発表したり、作文に感想をまとめたりすることは、表現力を学ぶ機会にもなります。阿波踊りの体験学習では、生徒たちの社会性を育み、生きる力を培うことができます。

地域の伝統である高円寺阿波おどりが、ますます発展しますことをお祈り申し上げます。

杉並区立高円寺中学校 前校長(向陽中学校校長) 岩谷 俊行



この度、東京高円寺阿波おどりが50周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

当初「ばか踊り」として始まったこの祭りが、半世紀を経て、東京の夏を鮮やかに彩る祭りにまで発展したことは、誰もが驚きと賞賛に値することだと思っているでしょう。

阿波おどりの足取りのごとく、前を見据えてゆっくりしっかり大地を踏みしめながら歩んだ一里塚。ここまで大きな祭りとなるまでには、さまざまなことがあったと想像されます。私はそのひとつのできごとであろう、**NPO法人設立**のお手伝いをさせていただきました。いや、手伝っているつもりながら、思えば私も高円寺の人々の熱意に踊らされていたのかもしれない。

次なる50年、「地域」と「踊り手」と「観客」が三者一体として支えあい、大樹のごとく繁栄することを願っております。

(財)東京都中小企業振興公社 谷口 任司



## 高円寺阿波おどりが大好き!

だからこそ、あえていいたい。ちょっと苦々しいこと。

「まずはマナーを大事にして欲しい。外部出演の会場や控室でのだらしない態度はとても見苦しいです。あいさつをしても、返してもらいだけない。思い上がっているのですか? 踊りの講師派遣をお願いしたとき、連一同で身支度を整えて待っていると、現れたのは私服をだらしく着崩したあんちゃん。指導がきちんとしていれればと思ったけれど、その実、身となる指導もいただけませんでした。われわれは未熟ながらも「踊りは人格の表れ」、「生き方が踊りに出る」と連員に教え、高円寺の阿波おどりに深い憧れと敬意をもっていただけに非常に残念に思いました。心血

をそそいで来た先輩方の顔に泥を塗るようなことをしてはいけません。また本番では東日本の阿波おどりのメッカにふさわしくない連をいくつも見かけます。参加費を払えばどんな連でもOKでは格が下がります。ましてや協賛席もあるのではないですか。自分の本拠地・高円寺をもっと大切にしたい。そして高円寺の地位を上げてブランド化してください。高円寺阿波おどりに参加することは、関東で阿波踊りに携わる者にとって夢であり目標でもあるんです」。

\*後発地域で連を組んでいる方にご無理をいって、日ごろ感じていることを話していただきました。

おじいちゃん、おばあちゃんからちびっ子まで!

## 老化と成長にも効果あり! 阿波踊りで健康づくり

早稲田大学スポーツ科学部・福永哲夫教授らが平成17(2005)年5月10日に京都で開催された日本抗加齢医学会で、伝統舞踊は足腰を丈夫にし、とくに阿波踊りではその効果が高いと発表した。

筋肉はふつうの生活で10%ほど、歩く動作でも30%ほどしか使われていなく、筋肉トレーニングでは筋肉使用率が30~40%のときにその効果が出るとされている。

阿波踊りを踊る踊り手の背中、腕の上下、ふくらはぎ、腿の筋肉使用率を計ると常に約30~40%だった。つまり阿波踊りには筋肉トレーニングと同等の、筋肉の衰えを緩やかにする効果があると科学的に証明された。

なお発育途中の子どもの場合、阿波踊りは筋力のピークをより高める効果がある。丁寧な正しい練習を定期的に長く続けることが、もっとも効果が出るそうだ。





## 佐藤 恒夫

(東京阿波おどり振興協会3代目会長)

※困難な時期に会長に就任。賛助者席の導入、NPO 法人化の道筋をつける。

「お願いします」「ありがとうございます」の50年。皆さんのおかげで、今日まで歩むことができました。周囲への感謝と50年の誇りを胸に着実に堂々と進んで行ってください。

## 岩田 美和

(杉並区産業振興課)

高円寺阿波おどり50周年おめでとうございます。

私は、さざんか連の踊る阿呆でもあります。昨年から高円寺の裏方もしています。たくさんの方の縁の下で力持ちに感謝しています。

## 大須賀 丈夫

(高円寺北中央自治会会長)

振り返ると、現在のジーンズメイトの広場での、阿波おどり浴衣姿の青年部が踊り込んだのを機会に、昭和42年銀座連として参加、演舞場も拡大。NPO 法人化と共に無事故を誇る阿波おどりの一層の発展をお祈りします。

## 斎木 喜久夫

(緑ヶ丘町会会長)

祝創立50周年 歴代会長並に役員に対し敬意を表し、今後共益々の発展を、心より祈念いたします。願わくは、外部参加連が多いので…。理事会にて検討をお願いいたします。

## 鈴木 俊男

(高円寺パル商盛会会長)

早いもので50年。パル商店街で始まったばかり踊りが、これほどまでの大きな行事になるとは、商売にならなくとも、どんなに大変でもわが街は頑張ります。地域の皆様、観客の皆様、踊り手の皆様と一緒に高円寺の阿波おどり文化を創っていきましょう。

## 阿部 孝喜

(高円寺中央通り商店会会長)

五十周年おめでとうございます。高円寺中の町会、商店会の協力で運営され、毎年大勢の見物のお客様がおいでになります。これからも協力をおしらずに、行きたいと思います。

## 江川 雅志

(杉並区清掃事務所方南支所作業係長)

高円寺阿波おどり振興協会の皆様、50周年おめでとうございます。高円寺阿波おどりは120万人が集う大イベントですが、ごみの分別や減量に地道に取り組んでいらっしゃる、まさに人と環境にやさしい素敵なイベントだと思います。今後も環境先進都市すぎなみの誇れるイベントとして100年、200年と続けてください。

## 河野 庄次郎

(梅里一丁目町会会長)

10年一昔の時代から、一年一昔の時代が変わってしまった今日、地域に生まれ育つこれからの人々に、心のふるさと伝統文化として、益々発展してもらいたいと強く願っています。

## 杉原 英男

(高円寺銀座商店会協同組合元理事長)

50周年を心嬉しくお祝い申し上げます。ここまで育て上げてきた先人たちのことが思い出されます。竹は節が出来て一段と逞しく成長します。更なる発展を祈念申し上げます。

## 松田 長門

(元東京阿波おどり振興協会事務局長)

祝50周年。高円寺中学の生徒を連として踊らせて欲しいものです。観衆と地域、関係機関の協力を一層推進してください。副会長、事務局長を17年務めましたが一昨年からの財務の黒字化に感謝の気持ちでいっぱいです。大会中の路上出店、ゴミの山なまだまだ問題山積ですが、感動と風格と安全をモットーに前進してください。

## 志田 昭三

(高南自治会会長)

50周年おめでとうございます。近年あまりにも大勢の観客が見え過ぎて、私共は一部分の会場しか見ることが出来ない、ばかおどりといわれたころが懐かしく思います。

## 西川 道雄

(氷川町会会長)

どちらから、と聞かれたときに、高円寺と答えると、ああ、阿波おどりの街ですねといわれるくらいに、知名度が上がった我が街高円寺。皆で、神輿をかついでいきたいと思っています。



## ドイツにいても よみがえるお囃子の音

久保田 由希 (ドイツ在住・ライター)

初めて高円寺の阿波おどりを見たとき、知らないうちに泣き出していた。連のみんなが心の底から楽しそうで、プロフェッショナルで、心を打たれたのだ。こんなに楽しいお祭りなのに泣いているのはおかしいと、ひそかに涙をぬぐったことを今でもよく憶えている。あれから月日は数十年経って、いま私はドイツにいる。ここにも、阿波おどりを見ない8月はない。友人の携帯からリアルタイムで送られてくる画像を見ると、瞬時にお囃子の音がよみがえる。今年も8月がやってくる。ドイツにいても「ヤットサー、ヤットヤットー！」

この街に住んで20年を越えました。その間に結婚、出産し、今や子どもが連で踊り始めて5年目。家族に踊る阿呆と見る阿呆がいるわけです。眠らない街、高円寺。50回目に参加出来ることを嬉しく思います。(東京都/どれみ)



## 阿波おどって こんなにすごいのか！

押山 豊 (高円寺・居酒屋「どん兵衛」勤務)

私が阿波おどりを知ったのは23年前、高円寺の居酒屋「どん兵衛」に勤めるようになってからです。阿波おどりの3日間にお客を迎える準備の仕込みを始め、いざ店がオープンとなったとき、街全体が阿波おどり一色に染まります。まるで小学校の演芸会のように、何が始まるのかドキドキしたのを覚えています。実際は店が始まると阿波おどりのことは忘れてしまうほど忙しく、オーダーをとって料理をつくることに追われ、それが連日続きます。すべてが終わると「阿波おどりってこんなにすごいのか」と感じました。今は連員さん達とも交流をもち、年間通して阿波おどりに対する情熱を伺います。高円寺の今があるのも、この方々のおかげ。街も店も人も一体化する素晴らしさを、皆さまに感じてもらいたい。また連員の方々は、これから街、店、お客さまたちに、そのパワーをいつまでも伝えて続けてください。

## コラム四

# 大好き！高円寺阿波おどり

おめでとう！高円寺50周年記念！  
街や観客の方々から、嬉しいお祝いメッセージが届きました。  
祝福の言葉は、次のステージへのはなむけの言葉です。



© 田中 英樹

踊り始めて10年ぐらいいです。お囃子の締太鼓から始め、今は男踊りの提灯に夢中です。私は耳が不自由ですが、嫌なことがあっても踊っていることがあつたが、地元の東京・高円寺が大好きです。(東京都/パル)

高円寺で暮らし始めて今年で10年目に突入しました。大好きな高円寺の街に、なくてはならないのが阿波おどりです。耳が痛くなるほどの太鼓や鉦の音。動きの揃った女踊りに、笑顔を絶やさない男踊りなど夏の風物詩と呼んでよいものだと思います。今後もずっと高円寺を盛り上げて欲しいと思います。(高円寺/トミー)

第50回開催おめでとうございます。多くの方を魅了する高円寺阿波おどりは、主催者、実行委員の皆さまの地道な努力の賜ものと思います。70回、100回に向け、今後も頑張ってください！(東京都/AXEL)

知人の参加をきっかけに、阿波おどりを始めて3年目になりました。50周年、おめでとうございます。区切りの年にふさわしい、すばらしい大会になることを期待しています。(東京都/ちゃんぐ)

## まさしく私の 「パワーの源」です。

綾部 康子 (杉並区成田東在住/(財)日本国際協力センター)



20数年前に高円寺界隈に住み始め、そこで阿波おどりに出会ってからのというもの、何を差し置いても毎年8月下旬の3日間は高円寺ルック商店街にかけつけます。高円寺阿波おどりの魅力はいろいろありますが、まずは老若男女が参加できる、開放的な精神がうたわれている阿波おどり自身が心地よいこと。またルック商店街では踊り手に触れられそうな距離で、一体感を味わうことができること。それに沿道のお店で買ったビールを片手に自分のご最良の連がいつ来るかとわくわくしながら待っている時間でしょうか？ 姉妹関係にある本場徳島の連が、特別参加していることも。本場の阿波踊りを目にする機会はめったにないので、このチャンスは見逃せません。そして、なんといっても踊り手たちの満点の笑顔とユニークな表情に元気づけられ、疲れも吹き飛びます。



## ビバ50回！！

いざまん (「高円寺の女」著者)

高円寺阿波おどりの3日間は、そこに参加するおにちゃんも、おねえちゃんも、じっちゃんも、ばっちゃんも、みんな二枚目&べっぴんになるからホレや

すいひとは気をつけて!! 日ごろウブなまってるひとは、じめっとならないで踊って晴らせー!!  
ちなみに 高円寺の女、あたしナツコは南演舞場で豚おっぱいという名のやきとりを食べながら「みるあほう」。ハロウキティ連ができたなら参加しようかな。



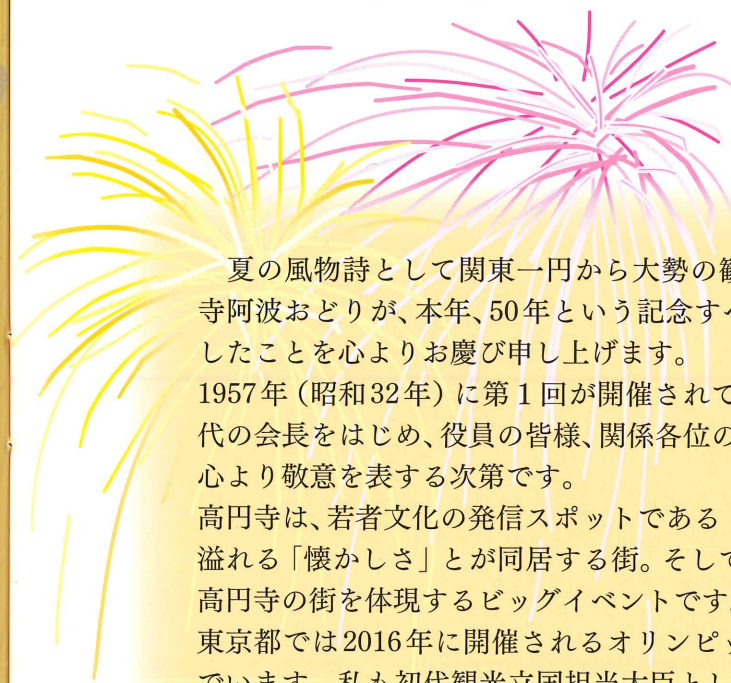
# これからの阿波おどり



**東** 京高円寺阿波おどりが100年後の未来へと続き、その文化が全世界に広まることを願っている皆さんから、激励メッセージをいただきました。「これからの高円寺阿波おどりは、“責任”と“誇り”をもって支えていかなければ…」そんな女性達の熱い思い、連長の決意を語っていただきました。



## これからの阿波おどりに期待



夏の風物詩として関東一円から大勢の観客を集めている高円寺阿波おどりが、本年、50年という記念すべき節目を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

1957年（昭和32年）に第1回が開催されて以来、50年もの間、歴代の会長をはじめ、役員の皆様、関係各位の皆様方のご尽力には、心より敬意を表する次第です。

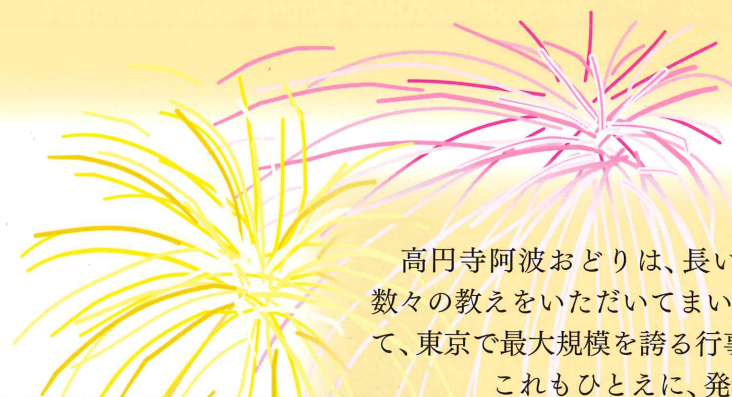
高円寺は、若者文化の発信スポットである「新しさ」と、人情味に溢れる「懐かしさ」とが同居する街。そして、阿波おどりこそは、高円寺の街を体現するビッグイベントです。

東京都では2016年に開催されるオリンピックの招致に取り組んでいます。私も初代観光立国担当大臣として、オリンピックを通じ日本の伝統・文化を世界にアピールしていきたいと思っております。そのときにはファンの一人として、高円寺阿波おどりの魅力を世界中の人々に紹介いたします。

東京の山手を代表するまつりとして高円寺阿波おどりが、今後益々発展されますことを心より祈念いたしまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。



衆議院議員 石原伸晃



高円寺阿波おどりは、長い歴史を誇る本場・徳島の阿波踊りから数々の教えをいただいております。そして、今や、夏の風物詩として、東京で最大規模を誇る行事のひとつに成長することができました。

これもひとえに、発足以来携わってこられた諸先輩の並々ならぬご努力と、杉並区をはじめとする関係諸官庁、高円寺地域の各団体の皆様の温かく、力強いご支援、ご協力の賜と、感謝の念でいっぱいでございます。

高円寺阿波おどりを地域文化として次世代に継承し、わが街・高円寺の価値を一層高めていくことこそが私たちの使命と、振興協会一同、決意を新たにしているところでございます。これからも高円寺阿波おどりは、多くの皆様にお力添えをいただきながら、安心・安全・環境に配慮した運営を旨として、新たな50年にむけて、更なる発展に努めてまいります。

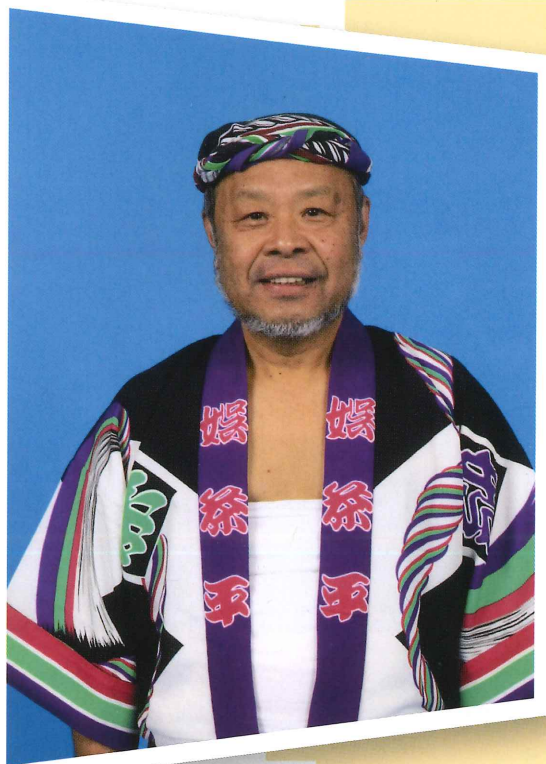


NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会  
理事長 武田周吾



## 徳島より激励メッセージ

### 一厳しくも温かく、高円寺を見つめる御大たち一



毎年、高円寺で踊らせていただいておりますが、お囃子に今ひとつ浮きを感じられません。笛や太鼓にはさほど違和感はないのですが、残念ながら三味線には惹き込まれるものがありません。「阿波よしこの」の名手・お鯉さんの三味線を聴くと、音のひとつひとつが炒られて転がる豆のようにコロコロと弾んで聴こえます。残念ながら、高円寺の三味線にはその弾みがありません。楽譜に書き表せない「溜め」「間」「弾み」をもっと研究していただき、さらに徳島のお囃子に近づいていただきたいと思います。

踊りに関しては、踊り方やフォーメーション等、徳島のコピーばかりで面白みを感じられません。半世紀を期に、「これが高円寺阿波おどりだ」という個性溢れる踊りを作られてはいかがでしょうか。新時代を迎えた高円寺阿波おどりが、一段と大きく飛躍されますことを、心から祈念いたします。

徳島県阿波踊り協会所属  
娯茶平 連長 岡 秀昭

私ども阿呆連は、1975年（昭和50年）、新宿において、徳島県代表として阿波踊りを披露しました。その際、江戸っ子連より姉妹連の申し出があり、以来、現在にいたるまで江戸っ子連とは親密な関係を保ち続けております。我が阿呆連の「正調阿波武士の踊り」を踊り、正調阿呆連調の鳴り物を後々に伝えつつ「心を踊る」という深い意義をモットーに、高円寺において精進して欲しいものです。

阿波踊りは、その時代時代で変化する巨大な生き物です。しかし、常に心がけなくてはならないのが、楽しく踊り、見る人々に感動を与えながら、後世に伝えることです。

NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会におかれましても、設立当初の目的は本場徳島とは違っていても、阿波踊りを愛する気持ちは同じでございます。今後益々の発展・繁栄を祈念し、貴協会各位様のご健勝とご多幸を、お祈り申し上げます。

阿波おどり振興協会 副会長  
阿呆連 連長 山田 隆



私は、高円寺の阿波おどりに初めて参加させていただいたとき、大きな驚きに胸を打たれました。

踊りが終了するやいなや、踊り子さん全員が道路会場の清掃をされ、あっという間に元の道路に…。高円寺全体で踊りを盛り上げ、そして幕を閉じる、素晴らしい光景でした。いくら踊りが素晴らしくても、マナーや地域協力の問題は、決して忘れてはならないことだと思います。

高円寺阿波おどりの「お囃子」も、以前はまるでオーケストラのようで驚かされましたが、今では見違えるほど上達なさったようです。

踊りに関しては、徳島の物真似ではなく、高円寺独自のものを研究なされば、本場徳島の阿波踊りに負けない「高円寺阿波おどり」として、日本国内はもとより、世界中から認められるようになると思います。今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

徳島県阿波踊り協会所属  
みやび連 連長 武市 伶子



徳島で生まれた「阿波踊り」が、日本の中心部で都会的センスを加味しながら、大きく育ってきたことを、感慨深く思っております。

また、地元商店街との強い連帯と協調関係が築かれ、地域貢献や交流も活発に行われるなど、素晴らしい踊り環境が整備されています。長年にわたる役員の方々のご努力に深甚なる敬意を表す次第でございます。

徳島の阿波踊りも、戦後61年目にあたります。現在の阿波踊りは、空襲で灰燼に帰した街角で、一棹の三味線と締め太鼓で、地唄にのせて踊った素朴な踊りからは、隔世の感があります。もう一度原点に立ち返り、基本を大切にしながら、時代のニーズを的確に表現していけるように頑張っていきたいと思っております。

今後とも変わらぬご厚誼をお願いし、高円寺阿波おどりの更なる飛躍と50周年記念行事のご成功をお祈り申し上げます。

阿波おどり振興協会 副会長  
うずき連 会長 原田 善亘



400年あまりの歴史をもつ阿波踊りが、東京高円寺で50周年を迎えられましたことは、ひとえに関係各位方々のご努力の賜物だと敬意を表したいと思っております。

高円寺阿波おどりの素晴らしさは、踊りさんの心意気と見物される方々の盛り上がりの良さ、これらが一体となって伝わってくるからだと確信しております。阿波踊りといえば、東の高円寺、西の徳島といわれるよう、互いに切磋琢磨しながら頑張りましょう。

徳島の阿波踊り期間中は、毎年、多くの踊り子さんや見物人の方々が、全国から徳島にお越しくださいます。今年も、ぜひお越しいただき、徳島の阿波踊りを堪能していただけますよう、心からお待ちしております。

最後になりましたが、高円寺阿波おどりが今後益々発展されますことを祈念し、50周年記念のお喜びのご挨拶といたします。

阿波おどり保存会 事務局長  
本家大名連 連長 清水 理







2006年4月8日  
高円寺銀座商店会事務所3階にて

高円寺阿波おどりに長く携わってきた女性たちが集まり、自分自身、連、高円寺のことなどさまざまな角度から阿波おどりを語り合った3時間。連を超えた彼女たちの思いは、これからの高円寺をどのように変え、どのように育んでいくのでしょうか。

# 女性たちが語る高円寺阿波おどり



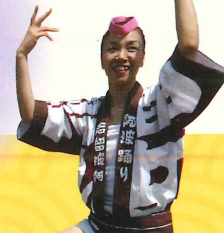
天水連:男踊り部長  
市東妙子さん(たえ)  
阿波おどり歴:14年  
目標とする踊り:腰を低く元気に踊る



飛鳥連:副連長  
佐久間通子さん(みっちゃん)  
阿波おどり歴:31年  
目標とする踊り:  
徳島・娯茶平・浜田次郎さん



志留波阿連:会計  
藤巻敬子さん  
阿波おどり歴:27年  
目標とする踊り:  
志留波阿連・前連長  
藤巻敏彦さん



志留波阿連:副連長  
井田真由美さん  
阿波おどり歴:26年  
目標とする踊り:  
徳島・みやび連・武市伶子連長



天狗連:旧女子部長  
村上幸世さん  
阿波おどり歴:20年  
目標とする踊り:  
現役を離れているため特になし



江戸っ子連:副連長  
杉谷ゆき絵さん  
阿波おどり歴:30年  
目標とする踊り:現在、笛も勉強中  
徳島・阿呆連・川口朋子さん



花菱連:  
浜野絵実さん  
阿波おどり歴:32年  
目標とする踊り:  
しのぶ連・青木さん



えふあいえい連:指導部  
渡辺かおるさん  
阿波おどり歴:26年  
目標とする踊り:  
楽しく美しく踊ること



## ずっと踊り続けたい...

### —阿波おどりを始めたころと変わったことってなんだろう?

**真由美** 私が阿波おどりを始めたころって、大半の女踊りのリーダーが、中高生、大学生くらいの年齢だったんじゃない?

**みっちゃん** 飛鳥連もそうだった。今、深刻な問題として子どもがいなくて。私が赤ハッピだった黄金時代は50人ぐらいいたのに、今はとうとう10人を切っちゃった...

**敬子** みっちゃんたちは団塊ジュニアだから、人口も多いのよね。

**みっちゃん** 昔、飛鳥連は小学校4年生以上しか入れなかったんです。今、そんなことしたら、ほかの連に入っちゃう。でも私たちが求める姿を考えると、2年生以上が限界。

**かおる** うちで連員の子もだけ認めてたんだけど、その友だちが入りたいといったとき、受け入れるかどうか? すごく悩んだの。先のことを考えると「子どものうちから踊った方がいい」という話しになって。そうこうして1年も2年も思い悩んでいるうちに、未就学児だった子が成長して、小学生になった(笑)!

**敬子** すでい!これからだね。希望だ!

**たえ** うちで連員の子もだけ。子どもに踊らせたかったら親も一緒に入り、連員2人ゲット!そういう考え方です。



江戸っ子連:事務局長  
杉谷ちさとさん(ちいちゃん)  
阿波おどり歴:28年  
目標とする踊り:  
徳島・阿呆連・久賀由美さん



しのぶ連:会計  
松崎直美さん  
阿波おどり歴:35年  
目標とする踊り:  
女っぽくならない男踊り







## 練習しなきゃ!

### —個人の練習はどうしてる?

**たえ** 毎日筋肉トレーニング! そうしないと無理でしょ?何もしなくても踊れていたころには戻らないから。

**直美** 去年より多く練習して、やっと去年並み。それに今は、勉強したいと思ってるの。焦りがあるのかな?

**みっちゃん** 私が焦りを感じたとき、阿波踊りの大先輩に「基本ができて、仕事やプライベートが充実して、家族を大切に思っていたら、それがその年の踊りの“味”となって加わる。そうして自分を成長させていったらいいんじゃないかな」といわれて楽になったんです。ちょうど副連長になったり、舞台、流し踊りを含めた飛鳥連全体の踊りの演出を任されたりして、自分自身がとても大変なときだったから、その言葉で本当に救われました。連の子にもよくこの話をしています。

**絵実** 私は最初に提灯踊りを始めちゃったから、常にトップでいなきゃならなかったし、時間がないというのは単なる言い訳にしかならない。365日練習するしかなかった。自転車をこいでるときだって、提灯を振る練習はやった。手になじむことが大切だと思ってね。

**直美** 私トイレとエレベーターの中では必ず練習するよ。

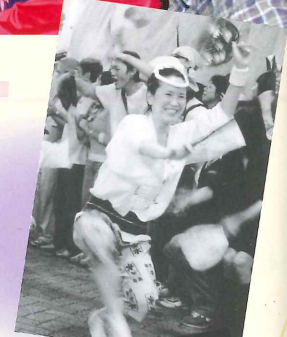
**絵実** いつでも練習! 町でうちわを配ってたら、必ずもらうよね。あおぐ道具としてではなく!(笑)

## 女性だからこそできること…

### —女性だから思うことはない?

**みっちゃん** 時代の流れで変わっているのかもしれないけど、私たちってひとつひとつ壁にぶつかって、それを壊してきた感じがしません?

**真由美** 女性の意見を聞いてくれるようになったのは、ここ5~6年。私が副連長になって連長会議に出て、連協会所属連の合同連による外部出演に行っと思ったことは、女性の存在感があまりないこと。でも今は女性が強くなったんじゃない?



**敬子** それも時代よ。いろんなことをてきぱきとこなしたり、以前のように結婚したら引退することもなく、ずっと続けることができる環境が確立されたわけだし。

**ちいちゃん** 女性の立場が高くなった分、男性が低くなった気がするけど…。

**敬子** それもバランスで、極端だとうまいかないでしょ。

### —これからどうしたらいいと思う?

**ゆき絵** これだけパワーのある女性がいることを考えると、高円寺をよりよくするために動かなくてはいけないのは私たちだと思う。自分の連も大切だけど、連の枠を越えた横のつながりが必要とを感じるよね。

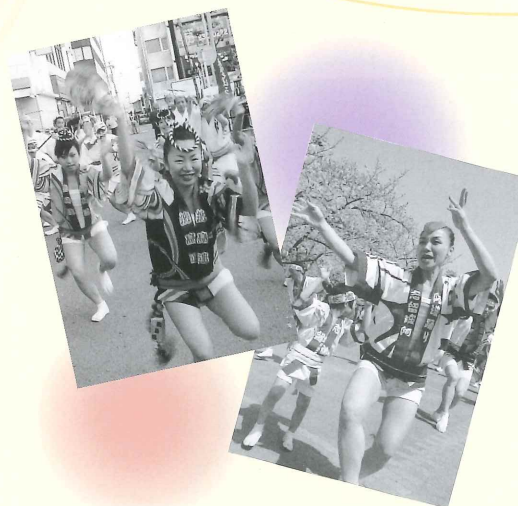
**みっちゃん** 高円寺全体の印象をよくしよう! という方向で頑張れたらいいですね。

**幸世** 阿波おどりは、楽しいことなんだから、踊るときは踊らなきゃ。

**みっちゃん** そうそう。私、100周年も現役バリバリの予定!

**ちいちゃん** 高円寺に生まれ育った者として、高円寺阿波おどりに恩返しができればいいですね。

**直美** 連に戻ったら、今日聞いた知らない話を「伝える」という役割も大切よ。



### まとめ:

3時間に及ぶ座談会は、高円寺阿波おどりの問題点や悩みを浮き出させつつも、笑いの絶えない楽しいものとなりました。実はスペースの都合で、載せることができなかった話もたくさんあります。

この企画がなければ実現することがなかった連の枠を越えた交流のなかで、同じ悩みや目標をもった仲間が語り合っ生まれた新たな関係は、今後をよき発展へと導いてくれることでしょう。そして私たちの情熱と惜しみない努力がこれからの高円寺阿波おどりを支え、力の源となっていくことは間違いありません。

今回座談会に参加した女性たちをはじめ、高円寺阿波おどりに関わるすべての女性のこれからの活躍に期待し、また見守っていただければと思います。





# 連長は語る!! 現在・過去・そして未来

高円寺には、阿波おどりの中核を成す26連が所属する「高円寺阿波おどり連協会」がある。阿波おどり発展の歴史を知る連長たちに、現在、過去、そして未来への展望を聞いた。

## 連長の仕事は次の連長を育てること!



浅賀信夫 連長(54)  
菊水会菊水連：昭和39年発足

阿波おどり歴：43年  
連長歴：12年  
姉妹連：友好連：なし

### 踊りを始めたころのエピソードは?

ランニングと半ズボン。帯の代わりに荒縄で踊っていたよね。昭和42年に徳島から来てくれた人に「腰が高い!」と竹刀で指導された経験があるよ。厳しいなと思ったね。

### 菊水連の興りは?

昭和39年に現ルック商店街が踊り会場として参加したときに3つの連ができた。そのひとつが菊水連。

### 連長として目指すものは?

菊水連の踊りにはこれといった型が無い。連員が「こう踊りたい」といえば、「好きにやりなさい」という。そのアンバランスさこそが、菊水連の個性だと思うね。

### 連長としての展望は?

連訓は「王道を歩み、和をもって尊ぶ」、連志は「阿波おどりの楽しさを幅広く伝道する」。この連訓と連志を守っていける人に引き継ぎたいと思っている。連長の仕事は次の連長を育てることといえるかもね。50周年の今年こそ、連の「新たな伝説の始まり」にしたい。

## 苔作はとても民主的!

### 踊りを始めたころのエピソードは?

高円寺に住み始めたのは昭和43年。友人になった花菱連の連長(当時)の誘いを受けて始めたんだ。実は高円寺に来てすぐのころ、天狗連に入れて欲しいと訪ねたけど、「衣裳が無い」と断られたことがあったんだよ。

### 苔作連の興りは?

昭和40年代後半、所属の連でいざこざがあって、半分開の人が辞めて、自分も辞めることになった。でも阿波踊りが好きでね。辞めた連中と徳島へ行って、そこで見たのが苔作連だったんだ。これならやりたいと思って、徳島に4年通ってようやく高円寺で苔作連を作ること認めてもらえた。だから、連ができてからずっと連長なんだ。初めて高円寺で踊ったときは12人だったな。

阿波おどり歴：37年  
連長歴：31年  
姉妹連：徳島県・苔作連

布澤茂壽 連長(62)  
苔作連：昭和51年発足



### ●●● 苔作連はどんな連?

やりたい人はどうぞ、でも好きでないと続かない。1日の中でどの程度苔作のために時間を割くことができるかが一番かな。連はとても民主的でね。連長・副連長以下、任期が2年で、それぞれ立候補して投票で決めてるんだ。ただ、連長に立候補する人は、今までずっと自分しかいなかったんだ。不思議だね。

### 連長として、苔作連の将来像は?

高円寺の苔作は異端児と見られているけど、そのままが良いと思う。発足当時は高円寺の他の連が音をマネするなんて思っていなかった。音という意味では苔作流の家元なのだから、今のままで良い。苔作という名前に愛着をもっているからね。

さらなる発展を模索する場が節目の50年。半世紀が経過したのだから、もう文化といってもいいと思うよ。

## 古いけれど、新しい連

### 踊りを始めたころのエピソードは?

菊水連と同時期に現ルック商店街に五店会というのがあって、そこがひょっとこ連の発祥なんだ。「近所の子どもは参加して」といわれてやり始めたね。今じゃ想像もつかないナイロンの貧相な白の衣裳だった。ペンキ屋に「ひょっとこ連」と書いてもらって着ていたなあ。

### 連長になったきっかけは?方針は?

前連長のころは練習もせず、3日間ただ踊って遊べば良いといわれていた。でも、自分たち若い者はちゃんと踊りたかったんだ。自分が連長になったとき、誇りに思える連にしたいと思った。そのためには、出演の機会を増やすこと、徳島と親しくなって目標をきちんと持つことだと思った。連はできて長いけど、本格的に活動し始めたのは自分が連長になってからなので、まだ短いね。

### うずき連と友好連になって。

暗中模索の末、茨城県の潮来で出会ったことがきっかけで、うずき連と友好関係をもつことができた。今は、踊りも鳴り物もうずき流でやっている。でも、当時はうずき連を模範とすることに反対する連員も、実は多かった。その中で判断するのはそのときのトップの務め。辞めた人もたくさんいたよ。

### 連長として将来に望むことは?

阿波おどりはどんどん変化している。だからずっとこのままでいいとは思っていないけど、当分はうずき連という目標があるので、このまま行こうと思っている。もし連長を譲るならば、志を分かっている人に引き継ぎたいね。

3代やっている人も出てきたけど、まだ50年は通過点。文化として根付いていくための方法を模索していきたい。

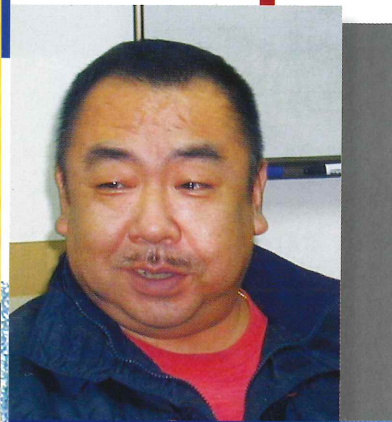
阿波おどり歴：42年  
連長歴：17年  
姉妹連：徳島県・うずき連

伊丹正信 連長(56)  
ひょっとこ連：昭和39年発足





## 練習よりミーティングが多い。



**岩浪則彦 連長(45)**  
天水連：昭和 60 年発足

阿波おどり歴：27 年  
連長歴：20 年  
姉妹連・友好連：なし

### 踊りを始めたころのエピソードは？

中学生のころ、苔作連の現連長・布沢さんに誘われて徳島に行ったのがきっかけで花菱連に入った。それが始めだね。

### 天水連の興りは？

当時の所属連で、自分を含めた若い人が一度に何人も辞めてしまってた。苔作に移籍しようと思ったけどそれでもできなかった。じゃあ、自分たちで作ってしまおうということで17人から発足したんだ。お金をかけないように衣裳も白地に黒の組み合わせにしてね。発足当時は、2ビートの音の方が味を出せて思っていた。今の音ではなかったね。

### 連長として方針は？

阿波おどりは屈屈じゃないし、われわれは型をもっているわけでないから自分たちの音や踊りを作れば良いと思う。でも男は短髪っていう掟があるね。だから、初めて練習に来た男性には、そう告げているよ。あとは、一人ひとりが何でもできるようにしたいと思っているね。

### 連長として、連の将来像は？

代表者はみんなの意見をまとめるのが役割と皆に伝えている。そのためには連員一人ひとりがきちんと意見や考え方をもつ必要がある。だから練習よりミーティングの方が多くらいだよ。次の連長は自分の子ども位の年齢層にしたいかな。高円寺の阿波おどりは、イベントではなく祭りであって欲しいと思っている。

## 伝統を引き継ぎたい。

### 踊りを始めたころのエピソードは？

第1回のときに、みんなの後について踊っていたな。当時商店街の青年部に入っていなかったから正式メンバーではなかったけどね。

### 天狗連の興りは？

現パル商店街にあった「きらく連」の中で、踊り好きな連中が集まって結成されたのが天狗連。「若獅子連」にしようとの意見もあったけど、当時徳島で有名だった天狗連が解散したこともあって天狗連にしたんだ。

### 平和連と姉妹連になったきっかけは？

当時の連長や熱心な人が何度か徳島に通って交流を図っていたんだ。そこで平和連の幹部の方と出会ったのがきっかけだね。

### 今後の天狗連は？

天狗連も昨年40周年を迎えたけど、その伝統を若い世代に何も伝達できていないのが現状。自分が連長になったときには、今までの伝統を次の世代を担う若い人たちに引き継ぎたいと思ったね。若い人たちにバトンタッチする体制をつくるために、自分のもつ経験とノウハウを教え込もうと思っている。

今の幹部は皆自分が育てた生え抜きの人たち。次の連長はこの中から出てくるだろう。自分が連長を退いたあと、一連員として楽しく踊らせて欲しいと願っているよ。阿波おどりに関わった人たちが「高円寺は故郷なんだ」と思える街、阿波おどりにしていきたいね。

阿波おどり歴：48 年  
連長歴：5 年  
姉妹連：徳島・平和連

**齊藤義忠 連長(65)**  
天狗連：昭和 40 年発足



**富澤武幸 連長(47)**  
飛鳥連：昭和 45 年発足

阿波おどり歴：40 年  
連長歴：11 年  
姉妹連：徳島・娯茶平

## 師匠に学び、高円寺で生かす

### 踊りを始めたころのエピソードは？

飛鳥連ができる前は、同じ商店街ののびゆく連で踊っていた。飛鳥連が発足したころは、天狗連はダントツの存在で、みんなのあこがれの的だった。飛鳥連でも「子どものときは飛鳥にいて、大人になったら天狗に行く」といううわさが流れていたね。

### 連長としての役割は？

今の自分は現場での連長業務はほとんどやっていない。本番でも衣裳を着ることはないし、練習も外部出演にもほとんど行かない。副連長以下の若手幹部に任せっぱなし。任せられる若手が育ってきたことをとてもうれしく思っている。自分の役割は方向性を定め、連内の空気を整えることだと思う。

### 姉妹連との付き合い。そして今後は？

飛鳥連は徳島・娯茶平の姉妹連。初代連長の代に交流が始まり、2代目を経て3代目の自分へと引き継がれてきた。この間、互いの存在に葛藤する時期もあった。だからこそ今はとても良い関係にあり、連長はもちろん、連員同士も仲が良い。

娯茶平からは、芸の深遠さ、阿波踊りを従来の枠の内と外でとらえ、踊りや演出に生かす考え方をいつも学ばせてもらっている。教えは厳しいが、厳しく指導してもらえる関係に満足している。

徳島に姉妹連をもっている連は、その姉妹連を師匠連と思っているが、その師匠連の教えを自分たちのものにしていく過程がたまらなく面白い。それぞれにこだわりができる。ただ高円寺だから限界もある。「本場の力を目指し、自らの限界を知る」。この矛盾を受け入れられる人に次期連長をお願いしたい。阿波踊りは好きで始めたことだから、苦しくとも尻ぬぐいも自分たちでやっていけるようになりたいと思う。

## 家族的で和気あいあい

### 踊りを始めたころのエピソードは？

高校を卒業したころに、「あさがお連」(現見妙連)で始めたのが最初。その後、実家が所属する町会がしのぶ連を立ち上げ、その2年目に移籍したんだ。自分たちが移籍するにあたって20枚の半被を作ってもらったんだけど、柔道着の生地のみこし半纏だったので重いし暑いし大変だったよ。

### 連長になったきっかけは？

前連長は自分の兄。兄は忙しくなってきたので参加できなくなったので、つなぎのつもりで連長になった。それが16年前の話。でも、ずっとそのままだからつなぎじゃないよね。

### 粕谷家は3兄弟皆が連長だけど。

兄は粹輦、弟は花道連だけど、三人そろって阿波おどりが好き。同じ連だったころは、それぞれ鳴り物と踊りに分かれていて、口論はしょっちゅうだったよ。兄弟げんかの元凶はいつも阿波おどり。家族からは「阿波おどりの話ばかりして!」といつもいわれていたね。

### 連長として、連の未来は？

しのぶ連は家族で参加している人が多い。その分和気あいあいと楽しくできていて、連絡も早い。一人で参加するより家族で参加すると人数も増えるし、今後も基本的には家族的であって欲しいね。

次の連長? やっぱり若い人が理想だな。新しい発想を取り入れるし、使う道具にしても切り替えがスピーディーだよ。でも、基本は忘れず、かけ離れないようにしたいね。

阿波おどり歴：35 年  
連長歴：16 年  
姉妹連・友好連：なし

**粕谷俊春 連長(54)**  
しのぶ連：昭和 47 年発足





## 阿波徳島の郷土芸能を伝承する



平野治彦 連長(50)

江戸っ子連：昭和45年発足

阿波おどり歴：39年  
連長歴：6年  
姉妹連：徳島・阿呆連

### 踊りを始めたころのエピソードは？

中学生のころから友人たちと飛び入り専用のびっくり連で遊んでいたようなものだった。その後、父親の縁で「あさがお連」(現晃妙連)に。しのぶ連の粕谷連長が同時期にいたね。その後、友人の誘いもあって江戸っ子連に。入連の際に杉谷連長(現江戸っ子連会長)と面接があったけど、あれにはびっくりしたなあ。

### 阿呆連とのお付き合いについて

まさに師匠と弟子。30年のお付き合いの中で今も昔もいわれるのは「阿波踊りは稽古ごとである」「筋と道理を外したら、それは阿波踊りではなくなる」ということ。とにかくいろいろな教えが血となり肉となっている。お稽古ごとは本人次第だから、経験のない人や下手な人だって稽古を積みば上手くなる。上手な人が稽古を積みば、もっと上手くなる。一方で、上手な人も稽古を怠れば下手になる。単純明快でしょ。だけど、そこに苦しさがあり難しさがあり楽しさがあり喜びがあるのが阿波踊りだと思う。

そして、当たり前のことだけれど、弟子として「徳島の郷土芸能としての阿波踊りを伝承し続けること」が、何よりも大切なこと。連員はもちろん、連長の私自身も弟子として修行し続ける必要がある。

### 連長として、連の展望は？

「阿波徳島の郷土芸能を高円寺の地で伝承し、実践する」といい続けることが重要。「半世紀の重み」を今の人たちが次代へ伝承してくれることを願っている。

## 最初は組織作りから

### 踊りを始めたころのエピソードは？

初めて踊ったのは小学校に入ってからすぐのころ。まだ志留波阿連はなく、のびゆく連で踊っていた。当時は衣裳もなく、自前の浴衣で踊っていたね。小学4年生のときに、シルバー商店街にシルバー連ができて入連した。昭和50年ごろ、当時の国鉄がシルバーシートを作ったのをきっかけに、連名を漢字に変更した。今ではこの名称なのに子どもをたくさん連れて行くから、皆に驚かれて面白いね。

### みやび連との付き合い方

平成元年から、徳島のみやび連と姉妹連としてお付き合いさせてもらっている。徳島でも珍しい女性連長さんで、男性にはない気遣いがある。特に着付け、立ち振る舞い、踊りに対する考え方などについて、たくさんのことを学んだ。だからうちの着付けは誇れると思っている。でも、それ以上にみやび連のもつ息の合った踊りと鳴り物が最大目標だ。

### 連、また連長としての展望は？

連にもめ事があって連員が激減してしまったときに、連長を引き継いだ。今思えば存続の危機だったね。連長として最初にやったのは組織づくり。この組織が、今は上手く機能している。人数も当時の倍近くになったしね。

志留波阿連も発足以来37年。その間には、経済的な部分を含めていろいろな人たちに支えられた。こうした背景を十分に踏まえ、目標にしていることを伝承し、連を発展させていける人に次を譲りたいと思っている。

継続は力なり。高円寺の阿波おどりのために連として精一杯に活動し、次代に伝えていきたい。

阿波おどり歴：39年  
連長歴：12年  
姉妹連：徳島・みやび連

藤巻剛彦 連長(45)

志留波阿連：昭和45年発足

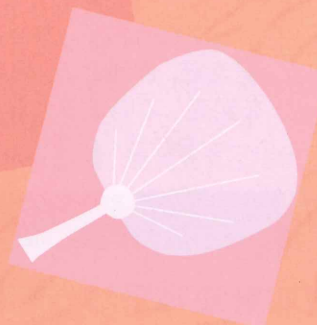
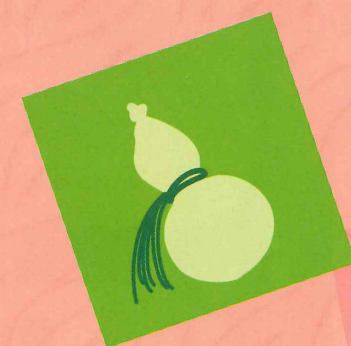


阿波おどりを100倍楽しむ！

阿波おどりを全く知らない人でも、知って得する、楽しめるコーナーです。

よく尋ねられる質問や衣裳の知識、鳴り物の音や楽器に対するこだわりなどなど、阿波おどりの現役踊り手が、丸ごと教えちゃいます！

今度の阿波おどり見物は、100倍楽しむこと間違いなし！





# 高円寺阿波おどり Q&A

高円寺駅  
KŌENJI STATION

## 曲のレパートリーはどのくらいあるの？

「よしこの」の通称でも知られる民謡の「阿波よしこの節」を基本とし、各連3パターンほどこの曲を展開させています。メロディを奏でる笛の旋律をお聴きください。

## 作曲はするの？

基本となる「よしこの」から別の曲へ変わることはありません。ただし、舞台演出などで多少アレンジし、阿波おどり以外の民謡や童謡を取り入れることもあります。

## 高円寺阿波おどりのお土産はある？

高円寺阿波おどりではキティちゃんストラップ、記念誌、手ぬぐい、風呂敷、Tシャツを発売しています。詳しくはホームページをご覧ください。

## 連の名前を知る目印ってあるの？

連の顔ともいわれるものが「高張提灯」。連の名前がもっとも大きく書かれ、連の先頭に位置するので目立ちます。混雑時には連員が迷わず移動できる目印にもなるという、大切な役割を果たしています。またお目当ての連を探すには、配布される運行表や、振興協会ホームページで確認できます。

## どんな人たちが踊っているの？ どんな繋がりがある人たちなの？

家族、友達の紹介、各連のホームページから応募など、始めかたもさまざまです。子どもに学生、社会人、最高年齢は80歳までと、職業も年齢も違う人たちが阿波おどりを通じて仲間になります。住まいも高円寺とは限りません。

## 掛け声は何といってるの？

パターン1 「ヤットサー ヤットヤット  
ヨイサー ヤットサー  
ヤットサー ヨイサー  
ヤットサーヤットサー」

パターン2 「ヤットサー ヤットヤット  
イチカケ ニカケ サンカケテ シカケタ踊りはやめられぬ  
ゴカケ ロクカケ シチカケテ ヤッパリ踊りはやめられぬ  
ヤットサー ヤットヤット」

このほかにもいくつかあります。何といってるか？よく聞いてみてください。

## 踊りのパターンは何種類くらいあるの？

演舞場を流す「流し踊り」と、舞台用の「組み踊り」などがあり、毎年違う演出をつくっています。各連とも、基本の流しパターンにも毎年新しい演技を入れこんでいますので、数字では表せません。

## 男踊りと女踊りの違いは？

男踊りは腰を低くして踊り、女踊りはひざを曲げる程度で、手を高く上げ、下ろすことはありません。また見た目にもまったく違う踊りです。女性には男踊りのパートもあります。

## どうやって連に入るの？

お気に入りの連が決まったら、衣裳を着ている人に声をかけてもよし！  
振興協会に問い合わせてもよし！  
P60～68頁の各連の連絡先へお問い合わせくださるのがスムーズ！

## 手足の動きはどうなっているの？

右手右足、左手左足が同時に前へ出る「なんば歩き」が基本です。歌舞伎や浮世絵でよく見られる歩き方です。阿波踊りがどうして「なんば歩き」になったかは定かではありませんが、「なんば歩き」は体のよれがなく、着物を着ていてもはだけにくいので、昔はみんな「なんば歩き」だったといわれています。

## シーズンオフの活動もあるの？

連協会所属連は高円寺阿波おどり以外にも、各地の阿波踊り大会をはじめ、祝賀会、結婚式などのアトラクションとしての出演もあります。オフシーズンでも活動し、またボランティアで老人ホームのお祭りや小学校で踊りを披露することもあります。高円寺阿波おどりが終わったあとの9月から練習を始める連もあり、年間通しての活動を行っています。

## 賞を受賞する連ってあるの？

連協会以外の一般参加連を対象に、都知事賞をはじめいろいろな賞があり、最終日に表彰式を行っています。一般参加連は受賞を目標に、一生懸命練習されています。

## トイレはどこにありますか？

近隣の公衆トイレのほか、随所に仮設トイレが設置されます。場所の詳細は配布されるパンフレットや振興協会ホームページで確認できます。

## 9月ごろJR高円寺駅に写真が飾られますが、誰でも応募ができますか？

毎年、高円寺阿波おどりフォトコンテストが開催されています。応募方法や受付期間は振興協会ホームページでご確認ください。

## 見ていて踊りたくなったら参加できるの？

連に所属していない方は、演舞場に立ち入ることはできません。お気に入りの連に、声をかけて、来年はいっしょに踊りましょう！！

## 座ってゆっくり見られるところありますか？

高円寺阿波おどり賛助会員、協賛者の方には、謝礼として演舞場の枚数券を差し上げています。また阿波おどり当日の日中、連協会所属連がセシオン杉並で舞台踊りを披露します（有料）。屋外の流し踊りとはまた違った、舞台踊りをゆっくり観賞できます。セシオン杉並での舞台踊りや、賛助会員、協賛者についての詳細は振興協会ホームページにお問い合わせください。

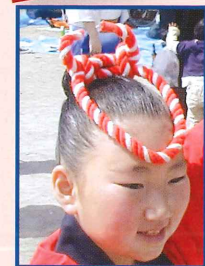
## 阿波おどり大会のあとのゴミ掃除はどうしているの？

阿波おどり大会と翌朝には、連協会所属連の連員も清掃を行っています。安全で清潔な阿波おどり大会のために、ゴミは指定の場所へ分別して捨てるように、ご協力ください。



# 阿波おどりの衣裳

## 男踊りの衣裳



### ねじりはちまき

はちまきをねじった状態で形成してあります。そのまま頭の上に乗せてヘアピンで固定。中に針金の芯が入っているものもあります。



### 基本形

はちまきの一般的な締め方。連名を表に出したり、結び目を出したりとそれぞれです。

### 踊りの小道具



### 弓張り堤灯

うちわと同様、踊りをダイナミックに見せる小道具です。持ち手が手になじむよう、ヤスリで削ったり、自作したりする人もいます。

### さらし

1反が約10メートルもある綿素材。体格に合わせて半反だけ巻く人もいれば、体にタオルを当ててから巻いて、調整する人もいます。最近では腹巻きで代用する連もあります。



### ほっかむり

手ぬぐいをたたみ、頭をすっぽり包んで、こめかみの位置からねじって結びます。



### うちわ

手踊りをいっそう華やかに見せる小道具です。自分の手に合うよう、うちわ全体を反らしたり、柄の部分を短くしたりなど、工夫する人もいます。



### 法被

以前は綿素材が主流だった法被も、今はナイロン素材のものが増えました。デザインや色づかいにも連の個性がでています。



### 浴衣

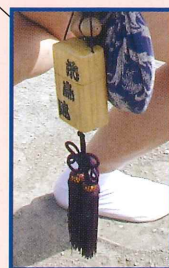
法被と同様、各連さまざま。すそをはしょって踊りやすく着つけます。

### 角帯

腰骨の位置に「貝の口」と呼ばれる締め方で結ぶのが一般的。最近では衣裳同様、連名を入れたオリジナルの帯を使用している連もあります。

### パッチ

股引き（ももひき）、はんだことも呼ばれるお祭りパンツ。最近では短パンで代用する連もあります。



### 印籠、小袋

いわばアクセサリーのひとつで、小銭や各自の持ち物を入れて、帯に通しています。

### 踊り足袋

ゴムの裏地がついた阿波踊り専用の白足袋です。踊り方が激しいと足袋の消耗も早いために、2枚重ねて履く連もあります。



## 女踊りの衣裳

浴衣や和ものブームもあって、身近に感じるようになった阿波踊りの衣裳。よく見れば独特の着こなしや、連や個々によるこだわりも見つかります。見る楽しみが倍増しますよ！

### 編笠をかぶるときの髪形



笠あんど（手作り）



笠あんど（手作り）

笠あんどは編笠をきれいにかぶるための必需品。市販品もありますが、自分の頭の形や高さに合わせて厚紙や発泡スチロール、タオル、ストッキングなどを使って手づくりするのが一般的です。

髪をひとつにまとめて高い位置でだんご状にし、ネットに入れるのが基本。ショートカットの人はターバンで髪の毛を隠します。髪飾りで密かに華やかさを添えている連も。



### 編笠のかぶり方



### 編笠

笠あんどを入れて編笠をかぶり、ひもをあごにかけます。垂れたひもを後ろで交差させてあごにかけたひもにからめ、じまにならない位置で結びます。編笠を傷めない材質にこだわり、笠ひもを手づくりしている連もあります。

### 手甲

ひじ側はずれないようにゴムで絞っており、手首は広がらないようにホックで留めています。

### 帯

半幅の黒帯で、おたいこ結びが基本。なかには斜めにつくる連もあります。帯あけ、帯締めとも結びかたや色もさまざま。いずれも普通の着物と同じものを使用しています。



### 踊り衣裳・着物

今はナイロン素材の衣裳が一般的。着つけの仕方やデザイン、色も連ごとにさまざまです。



女性の後ろ姿が色っぽく見えるのは、着物の襟がきれいにぬかれたうなじです。前はコーリンベルトと呼ばれるもので留め、後ろは浴衣の中心にひもを縫いつけ、別のひもを通し引張ることで、着くずれを防いでいます。



### 片肌脱ぎ

片袖を一枚脱いで襦袢を出す連もあります。脱いだ袖は帯に挟み込みます（写真左）。

### おはしより

着物のすそを後ろにたくし上げ、帯の中に隠します。



### 印籠、小袋

アクセサリーのひとつです。男性が下げるものに比べて、小さいのが一般的。小物袋は化粧セットや小銭などの持ち物を入れ、帯の間に通します。



### すそよけ

連ごとに踊り衣裳・着物の色に合わせた色のすそよけをつけます。レーヨン素材が多く、透けたり、はだけたりして足が露出ないように、2枚のすそよけを履きます。また、足が上りやすいよう、ストッキングを履いてすべりをよくしています。



### 足袋

着物用の白足袋です。つま先立ちで踊り続けるため、鼻緒が当たる部分にはコットンをつめ、テーピングをしています。足の甲、幅が微妙に違う足袋を選んでく人もいます。

### 下駄

舞台用も屋外用と同じ黒塗りの利体下駄を使用しています。前の歯の部分は自転車のタイヤのゴムやテープをつけて、滑らないように加工します。

### 屋外用



### 舞台用



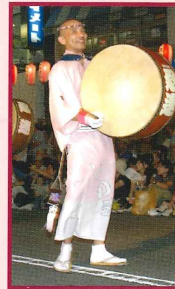


# 鳴り物の構成

## 音へのこだわり

### しのぶ連 小林義明さん

昔は人数が少なかったため、ひとりで1.5～2人前の音を出そう！と練習しました。その結果たたき方そのものが個性となり、音を出すための体の動きそのものが現在の型になっています。笑顔を含め、とにかく自分が楽しむこと。それがお客さまにも伝わり、その拍手がパワーの源となって、さらに大きな音を出しているのです。



### 江戸っ子連 佐藤孝次さん

締太鼓を始めて10年余り。技術はなかなか追いつきませんが、40年近く踊り続けていた経験から、私は踊り手の気持ち、お客さまの気持ち、さらに鳴り物の気持ちがひとつになるように、心で太鼓をたたくよう意識しています。



太太鼓

笛

### 飛鳥連 早川正洋さん

おなかの底から指先に至るまで、「笛」を意識しています。やわらかく澄んだ音色が、遠くまで響くようイメージして、体の力を抜いてゆったりとした気持ちで、旋律を奏でます。



鉦

### 志留波阿連 藤巻剛彦さん

20年ほど前までは、少ない人数で大きな音を出さなければいけない事情から、6尺5号の大きさの鉦を使用していました。鉦と太鼓の規則的なリズムでは踊りも味気ないものになってしまいます。鉦のメロディーと合いの手を入れる締太鼓のリズムで踊ってほしいので、現在は小さい5寸（約15cm）の鉦を使っています。



三味線

### 飛鳥連 飯岡克己さん

三味線を弾くうえで一番心がけているのは、リズムを正確に刻むことと間の取りかたです。二拍子の中でいろいろなパターンを組み合わせることで、メロディ全体に変化が生じます。タイミングよくすくいパチとハジキを入れると、一層奥行きが広がり、ゆったりとしたキレのある音が出るのです。



### 天水連 岩波則彦さん

先頭の高張提灯まで届くように、まずは自分がめいっぱい楽しみながら、腿と腰を使って全身でたたいて音を出します。鳴り物は鉦の響きによってさらに面白みが出て、それが踊り子に伝わり、踊り自体もノってくるのです。



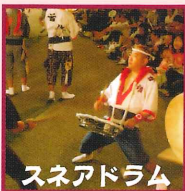
### 葵新連 池原淳さん

太鼓と違って樽は、出来た瞬間から音の良しあしが分かるもの。約20年間、樽を1年に数個ずつ作ってきましたが、気に入ったものは2個しかありません。「もっといい音に巡り会えるはず」と、いつも何かをたたいて練習しています。



### 江戸っ子連 佐藤俊さん

大鼓はほかの打楽器とはリズムが違うため、ひとりがたたいているにも関わらず、非常に音が通ります。左手で鼓のひもをしっかりと握り、右手でもった張り扇を使って音を鳴らします。一番ポイントとなるのは、右手首の使い方。むちのように鋭くしなやかにたたかないと、いい音が出ません。



### 答作連 小川正宏さん

ほかの連では使用していないスネアドラムを取り入れています。その存在は、三味線や笛の音色にたとえられたいと思います。鉦と太太鼓の間をかがいごとく縫うように取りもち、さらに締太鼓との調和を図りつつも、自己の音域を主調することを心掛けています。

### 江戸っ子連 平野治彦さん

竹の音は固く乾いた音色であるため、とくに三味線や笛とは極めて調和しにくい音です。そのほか音色を邪魔することなく、下駄の音に合わせてリズムを刻み、鳴り物の調和を計ります。むしろ、演技のきっかけとなるアクションポイントの音として、重要視しています。

## 道具のこだわり

連ごとに生のお囃子がつくのも、阿波踊りのぜいたくな特徴のひとつです。踊り手が踊れるのも、このお囃子があってこそ。音や楽器に対するこだわりと、その世界をのぞいてみましょう。

### 小林義明さん（しのぶ連）

私の太鼓は普通よりも大きい特注品です。それでも動きが軽やかなのは、肩掛けに工夫をほどこしているから。自分に合う肩掛けの長さを研究したら、あごが乗るくらい短くなりました。また体の揺れに耐えられるように、金具を溶接して動かないようにしています。さらに錆びないように、金属をステンレスのものに変えました。使った後は消臭剤をかけ、陰干しをします。また100個以上ある太鼓のビスを、ひとつひとつヤスリで磨き、錆びないようにコーティングをしてメンテナンスを施しています。パチは黒檀専門家具店の特注品。パチも重さと長さにこだわり、使いやすいようグリップエンドが野球バットのような形状で、軍手をはめて、すべり具合を調整しています。



### 佐藤孝次さん（江戸っ子連）

とくにこだわりをもってはいませんが、しいていうなら、締めひも「しらべ」です。私が愛用しているのは白木の太鼓で、縁の皮も胴も「しらべ」も白。「しらべ」の材質にはナイロン、綿、麻と3種類ありますが、ナイロン、綿は締めやすく、値段も安く長持ちはしますが、締め具合が甘いのです。それに比べて麻は持ちが悪く高価ですが、よく締め、一度締めると緩みません。当然のことながら、自分でたたく太鼓の調整は、自分で行います。舞台や室内では音が高くないようにあまり強く締めません。



### 藤巻剛彦さん（志留波阿連）

鉦は金属の鋳物であるために、同じものでも音程が違います。私は音の高さに対するこだわりはあまりありませんが、縁の部分の響きの良さを重要視します。鉦のパチである撞木（しゅもく）は鹿の角でできていて、鉦の大きさに合わせて購入します。また撞木の柄には、剣道の竹刀を利用しています。通常は竹材を使うだけですが、竹刀はアルカリ溶液で煮出してあるために、油がにじみ出ないという長所があります。撞木の穴は棒ヤスリで広げてから、竹を取りつけます。



### 岩波則彦さん（天水連）

11年前に連の個性を出そうと、飾りではなく本当にたたける、限界まで大きい鉦を注文し、以来、その15kgある鉦を使用しています。アングルは鉄パイプを切り、自分で作りました。そして、たたく前には必ず磨く！出演のときも控え室に入って、最初にすることは、鉦磨き。撞木はトンカチや角の形そのままのものなど、踊る場所、出すべき音の大きさによって変えています。鉦が大きいからといってがむしゃらにたたくのではなく、これらの撞木を転がしながら音を出すのです。



### 早川正洋さん（飛鳥連）

私の相棒は、連から借りている6本調子の笛です。今の笛を使って5年が経ち、最近ようやく音が抜けて、いい状態になってきました。今の私にとってこの笛は、最良のパートナーです。笛の音色はそのときの温度や湿度によって変わるため、笛が乾燥し過ぎているときは、演奏前にわざと湿らせることもあります。また演奏後は、笛の中の湿気をガーゼでふき取るケアも怠りません。



### 飯岡克己さん（飛鳥連）

パチ（写真右）は先がやわらかめの方が弾きやすいのですが、私は少し硬めのものを使用しています。三味線を身体につけるための道具（写真左）は使いやすいように、すりこ木を自分で加工して作っています。また、三味線の皮は湿気に弱いので、汗がつかないように、身体と三味線との間に厚手のプラスチック板を挟み、弾いている最中からメンテナンスを心掛けています。



### 池原淳さん（葵新連）

大切な樽が割れないように、工夫しているのがパチの素材です。朴（ほお）、桐、桜、杉、桧（ひのき）などを試し、今のところ桧がベスト。購入先は仏壇屋です。桧は会津に頼んだこともあります。パチは年間20～30対ほど消耗してしまいます。樽は千葉県の樽職人にも作ってもらったこともあり、現在もなお、いい音の出る樽を捜し求めています。





# 衣裳の 変遷

## 男踊り



**昭和32(1957)年**  
「ばか踊り」はそろいの浴衣で

町会で祭礼用に作った浴衣を着ていました。第2回までは照れ隠しのための白塗りにほっかむりのスタイル。浴衣の片肌を脱いだ、威勢のよい青年たちの姿も見られます。



**昭和35(1960)年**  
みこし風スタイルで

いわゆる阿波おどりに、まだほど遠いこのころ。今では見ることのできない、男性のたすき掛けや片肌脱ぎのかっこうで踊っています。祭りといえば、みこしを担ぐときのスタイルが妥当と思われていたのでしょう。



**昭和42(1967)年**  
粋な法被姿が登場

初めて高円寺に法被姿が登場したのは、昭和42(1967)年ごろ。徳島に倣おうという姿勢を軸に、少しだけ東京スタイルが加わり、やがてそれが定番化します。高円寺では、花菱連が、初めて衣裳に法被を取り入れました。



**昭和50～60(1975～1985)年ごろ**  
色や小物にもこだわりが

高円寺阿波おどりが夏祭りとして定着し始めてきたころ。各連に団塊ジュニアたちが、こども法被姿となって登場してきた時期です。衣裳もカラフルになり、小物にもこだわりをもち始めた時期でもあります。



**平成元(1989)年～現在**  
機能性を備えた衣裳に

それまで綿素材が主流だった浴衣や法被も、ポリエステル製が多くなりました。綿素材の衣裳も、以前より薄く、軽く、乾きやすくなっています。連日出演が続く踊り手にとって、夜遅く帰宅してから洗濯した衣裳が、翌朝に乾いていることが必須です。近年ではアイロンをかけなくても、シワができない生地も取り入れられるようになりました。各連とも個性のある柄や色使いの衣裳で、お客さまを楽しませてくれます。

## 女踊り

昭和32(1957)年に始まった高円寺阿波おどり。時代の流れとともに浴衣のデザインや着付けも大きく変化しています。



**昭和32(1957)年**  
そろいの浴衣の娘たち

お母さんたちが毎年、祭礼用の浴衣を作っていたころです。編笠ではなく、手ぬぐいをかぶっている子どもたちの姿が見られます。



**昭和42(1967)年**  
商店街の統一衣裳

商店街、町会ごとの阿波おどり連が誕生し始め、そろいの浴衣を着るようになります。しかしまだこのころは、すそをはしょって襦袢を見せることなど、考えも及ばなかったことでしょう。それでも浴衣を、少しだけ短く着ている姿が見られます。



**昭和45(1970)年ごろ**  
独立連の衣裳

徳島へ赴いて本場の阿波踊りを目にする人が増え、「黒朱子の襟をつけ、後ろにすそをはしよる着付け」を知ります。独立連は連の特徴を生かした衣裳を作り始め、商店街や町会の浴衣は見かけなくなります。



**昭和55(1980)年ごろ**  
襦袢が衣裳の一部に

襦袢を下着としてではなく、衣裳の一部として認識し始め、片肌を脱いだり、ひざ上まではしょったりするのが当たり前になりました。写真を見ると独立連ができ始めたころより、編笠を高くかぶるようになってるのがわかります。このころになると徳島との交流が盛んになり、衣裳を真似るだけでなく「魅せる踊り」を追求し始めます。



**平成元(1989)年～現在**  
もっと美しく!

連ごとにこだわりのある衣裳や着付けの工夫が凝らされ、連の個性が光ってきました。編笠は広がらないよう閉じ、後ろを高くしてかぶるようになりました。踊りとともに衣裳や着付けも年々洗練されてきたのは、徳島から学んだ結果と小さな工夫の積み重ねでしょう。衣裳も踊りも伝統を踏襲しつつ、今なお進化し続けています。



# 高円寺阿波おどり連協会の紹介

## 高円寺阿波おどり 連協会の成り立ち

1977(昭和52)年、東京阿波振興協会(NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会の前身)が設立され、主催母体としての組織は確立された。現場サイドでも連同士の親睦や情報交換の集いがほしいとの気運が高まり、1981(昭和56)年高円寺阿波おどり連協会が発足した。日常的に活動し、かつ高円寺を中心に本部を置いていることを資格として17連でスタート。現在は26連で構成されている。

## あおいしんれん

### 葵新連

連長: 森田昇栄 創立: 1967(昭和42)年  
連員: 120名  
本部: 杉並区高円寺南4-6-2 電話: 03-3311-4570

第1回目の「高円寺ばか踊り」から参加した当時の青年部のなかでただひとり、今でも現役で踊り続けているのが葵新連・森田昇栄連長です。今年は創立40周年という葵新連にとっても節目を迎え、また連長が傘寿(80歳)を迎えるめでたい年でもあります。昨年は徳島葵連から独立し、新生葵新連として旅立ちの年でした。葵新連は阿波踊りの伝統を守りつつ、常に新しい踊り、独自の演出、構成を考えさらなる前進を心掛けてきた連です。赤い法被の小学生による少女隊は、今から23年前に高円寺はもとより、徳島にもなかった子どもがうちわを振る集団を作ろうとの思いで結成されました。1989(平成元)年には徳島郷土文化会館の選抜大会に葵新連の少女隊として出演し、喝采を浴びました。このように葵新連は、お客さまに楽しんでいただける連、そして魅せられる連を目指し、これからも阿波踊りの発展のため、邁進してまいります。



## あすかれん

### 飛鳥連

連長: 富澤武幸 創立: 1970(昭和45)年  
連員: 130名  
本部: 杉並区高円寺南4-25-9 電話: 03-3311-8396  
URL: <http://asukaren.hp.infoseek.co.jp/ASUKAREN.HP/>

高円寺阿波おどりの発足に携わった、高円寺パル商店主らにより結成されました。連名は豊葦原の瑞穂の國の飛鳥地方から。日本の琴線を大切に、今日よりも明日に香れと名づけられました。本場徳島・娯茶平の姉妹連として、阿波踊り3大主流のひとつ、娯茶平流を伝承しています。

男踊りは腰を低く下ろし、丁寧な引き足と漁師が投網を打つしぐさを取り入れた「網打ち」が特徴です。女踊りは軽い前傾姿勢としなやかな足運び、指先の動きと「ため」で、女性ならではの「情」を表現します。鳴り物は三味線と笛を中心としたゆったりしたリズム。締め太鼓、大太鼓の打楽器は、踊り手の背中を押すように音を響かせます。連員は職業、住所、年齢など千差万別。それぞれが本業を一生懸命行い、阿波踊りにも真剣に向き合う。これが飛鳥連です。



## いろはれん

### いろは連

連長: 松永治通 創立: 1972(昭和47)年  
連員: 70名  
本部: 杉並区高円寺北3-23-11 電話: 03-3337-9782  
URL: <http://iroharen.fc2web.com/>

「自分たちに勝負を賭けなさい」「いつも一番を目指しなさい」初代連長・上村明男が残した言葉です。いろは連はそんな上村明男の阿波おどりにかける熱意と情熱によって、1972(昭和47)年に誕生いたしました。以来34年間、いろは連は初代の言葉を連員全てが胸に刻みながら、地元高円寺は元より、都内及び近県での阿波踊りの普及と指導、さらに連の育成など、積極的に活動が続けてまいりました。そこに高円寺阿波おどりがあがり、いろは連は今後も熱意と情熱の阿波踊りを繰り広げてまいります。



## えどうきれん

### 江戸浮連

連長: 河原 一 創立: 1967(昭和42)年  
連員: 45名  
本部: 杉並区高円寺南3-58-27 電話: 03-3311-8061  
URL: <http://www.geocities.jp/edoukiuki/>

高円寺パル商店主、子弟、従業員で構成された「商盛連」がルーツです。幾度かの連名の変遷を経て、1967(昭和42)年「江戸浮連」となり、現在に至っています。鳴り物は基本の2拍子でしたが、徳島の連「六右衛門(濱田祥希連長)」と出会い、そのリズムを聞き衝撃を受け、早速取り入れることにしました。それから10余年ようやく背中が見えてきたような気がします。踊りは小学生からベテランまで、その年齢にあった個性ある踊り方を指導するよう心掛けており、若い連員が中心となって組み踊りの練習に取り組んでいます。大人の紫色の浴衣、子どもの黄色の法被、ピンク色と黄色のうちわはとくに照明に映えたときのことを考慮し製作しました。



## えどかぶきれん

### 江戸歌舞伎連

連長: 中村利雄 創立: 1995(平成7)年  
連員: 95名  
本部: 杉並区梅里2-7-15-102 電話: 03-3313-5916  
URL: <http://kabuki.sakura.ne.jp>

本場徳島県の歌舞伎連の姉妹連として1995(平成7)年に結成、衣裳も全く同じもので活動しています。特に男踊りの衣裳はグレーの法被に黒のパッチ、頭には手ぬぐいのほっかむりをして「ネズミ小僧」と呼び、大切にしています。お囃子は阿波踊りに無くてはならない笛、三味線に力を入れています。お囃子の信条は「まろやかな和音」。踊りのお囃子ですが、聞く人に賑やかな中にも品のあふ、たおやかな「メロディー」を楽しんでいただけるよう心掛けています。また奴踊りは、本場でも高い評価をいただいている自慢の出し物のひとつでございます。どうぞ私たちの踊りをお楽しみください。当連は徳島阿波おどり保存協会にも所属しております。





えどっこれん

## 江戸っ子連

連長：平野治彦 創立：1970（昭和45）年  
連員：80名  
本部：杉並区高円寺北3-23-8 電話：03-3337-4133  
URL: <http://members.jcom.home.ne.jp/edokko-ren>

1971（昭和46）年、高円寺北口の銀座商店街（現純情商店街）の地元有志により結成されました江戸っ子連は、本場徳島・阿波おどり振興協会の雄・阿呆連の姉妹連として、正調阿波踊りを伝承しております。「阿波踊りは辛く、苦しいものである」「阿波踊りは集合の美である」「阿波踊りは稽古ごとである」「筋と道理をはずしたら、それは阿波踊りではない」阿呆連からいただいた、厳しくも温かな言葉です。その言葉を胸に、今後もその師「阿呆連」の弟子として、ここ高円寺において徳島の郷土芸能阿波踊りに、そして阿波の心と汗にこだわり続けます。



えふあいえいれん

## えふあいえい連

連長：渡辺次郎 創立：1977（昭和52）年  
連員：60名  
本部：中野区野方2-38-9 電話：03-3385-8140

今年で連結成29年。英会話学校の生徒たちで始まった阿波踊り連も、今では「正調阿波踊りにこだわる連」に成長してまいりました。正調阿波踊りの基本を守り続け、弓張り提灯を握り、威勢よく踊る男踊り、女性の美しさとしなやかさを踊りで表現する女踊り、無邪気な笑顔を絶やさず元気いっぱい踊る子ども踊り、笛と三味線の音やメロディーを大切に、メリ張りのある鳴り物を目指す鳴り物陣で構成されております。

各連員それぞれが「踊りと鳴り物の融合」をテーマに高い意識を持ち、1年を通して練習に励んでおり、ここ数年、合宿を実施して友情を深め、技術向上に力を入れております。連結成30周年を目前に少しでも心身ともに成長し、たくさんの皆さまに阿波踊りの素晴らしさを伝えられればと願っております。



きくすいかいきくすいれん

## 菊水会菊水連

連長：浅賀信夫 創立：1964（昭和39）年  
連員：150名  
本部：杉並区高円寺南3-1-3 電話：03-3311-8428  
URL: [http://www7a.biglobe.ne.jp/~kikusui\\_ren/](http://www7a.biglobe.ne.jp/~kikusui_ren/)

連訓：王道を歩み、和をもって尊ぶ

連志：阿波おどりの楽しさを幅広く伝道する。

都内および、近県の各地の阿波踊りやイベント多数参加。過去に欧米をはじめとした海外出演も多数参加。

1999（平成11）年香港公演。

2000（平成12）年ルーマニア公演。

受賞歴：1971（昭和46）年第15回高円寺阿波おどり人気コンテスト第一位。



こけさくれん

## 苔作連

連長：布澤茂壽 創立：1974（昭和49）年  
連員：40名  
本部：杉並区高円寺南4-24-8 電話：03-3314-0814

最高の連を目指しての練習・・・魅せて聴かせて躍らせる、それが苔作。一般的阿波踊りの進化形。でもまだ進化中。高円寺の阿波おどりを今のようなお囃子にもって来たのは苔作。デカイ鉦にデカイ太鼓と、ついでにデカイ態度！？で和洋折衷、スネアも使用！

女踊りは華麗に舞う花のように優雅に、男踊りは短髪に口ひげで限界までに腰を落として激しく踊る。見る人たちをひきずり込み、もっと見たいといわせるイキオイで踊っている。朝も夜も関係なく、体力の続くかぎり踊り続ける。真冬も熱帯夜に変える厄介物。見逃したら損をする。瞬きもせずに凝視するべき価値あり。



しのぶれん

## しのぶ連

連長：粕谷俊春 創立：1972（昭和47）年  
連員：92名  
本部：杉並区大宮1-22-35 電話：03-3313-4964  
URL: [http://www.geocities.jp/shinobu\\_ren/](http://www.geocities.jp/shinobu_ren/)

地を這うが如く鳴り響く大太鼓、何処までも高く鳴り渡る鉦、そしてそれらを引き締める締め太鼓、ビートの聴いたお囃子は、聴いた者の血を沸かせます。そしてそのお囃子のもと、扇を自由に操って華麗に舞う女踊り。威勢よく、ときに優雅に舞う男踊りは、見た者の心を躍らせてます。

私たちしのぶ連は1972（昭和47）年に結成しました。踊りは正調阿波踊りを追い求め、お囃子は独自のリズムをどこまでも追及してきました。阿波踊りが大好きな阿呆たちが集まったしのぶ連は、今日も熱い夏を目指して大人も子どもも練習に励んでいます。これからもより新しいアイデアを取り入れ、そして古き良き物を追求した阿波踊りで、多くの皆さまに感動を与え続けてまいります。



しゃらくれん

## 写楽連

連長：中川一廣 創立：1980（昭和55）年  
連員：152名  
本部：杉並区成田東4-13-15 電話：03-3311-6008

名前の由来は、世界浮世絵師・東州斎写楽。その奥の深さに魅せられ、共通していると感じた私たちは、連名を写楽連としました。阿波踊りに魅せられる私たちは、毎年「初心忘れず」を合言葉に日々努力をしております。踊る楽しさは大人も子どもありません。写楽連は笑顔の交歓ができる阿波踊りを目指している、そんな連です。世界陸上大会日本開催時に、世界のカール・ルイスが阿波踊りの輪の中に入ってきて、楽しそうに踊っていたその笑顔は、私たちにも感動をも与えてくれました。人の和を大事に、そして大切に。それが写楽連です。





しるばあれん

## 志留波阿連

連長：藤巻剛彦 創立：1970 (昭和45) 年  
連員：100名  
本部：杉並区高円寺南4-7-5 電話：03-3314-4684  
URL: <http://www.sirubaa.jp/>

阿波踊りの衣裳をじっくり見たことはありますか？ 普通に着る着物と、何かが違うのにお気づきですか？ 1番違うのは女踊り。志留波阿連ではまず右肩と左肩の色が違います。足元も裾の方がピンク、上の方がブルーといった具合です。ピンク色の部分は普段は着物の下に着ていて人目に触れることのない襦袢。片肌を脱ぎ、短く端折ったブルーの着物とピンクの襦袢が、目に鮮やかなコントラストを作り出します。後ろ姿もおもしろく、脱いだ袖が帯にかかり、リズムと共にひらひらと舞います。黒の半巾帯はたれがななめにキリリと三花結びで、真っ赤なうちわがアクセント。笠の下からのぞくそりの髪飾りも彩りを添えます。帯締めにぶら下げた小さな印籠も、踊るたびにふわりと揺れ、微かに拍子を刻む鈴の音も、鳴り物と調和します。身にまとうひとつひとつのものが、楽しく美しく踊るための、志留波阿連のこだわり。ここでは、ほんの一部をご紹介します。他にもこだわりがたくさん。ホームページをご覧ください。



しんわかれん

## 新若連

連連長：林 敏幸 創立：1963 (昭和38) 年  
連員：60名  
本部：杉並区高円寺南2-23-17 電話：03-3316-0884

新若連のイメージというと「和気あいあいと、こじんまりとまとまっている」、「お囃子のテンポが速い」、「シンプルな衣裳」、「地元の連」などでしょうか？ 阿波おどりのスタイルは、昔からあまり変わっていません。今でも夏のお楽しみで、暑いときに集中して活動をしています。毎年夏が楽しみで、練習の日程が決まると、それから自分がこの夏、どれだけ多く練習に出られるか調整するので、年季の入った連中は、まるで野球選手の自主トレーニングのように体調を整え始めます。上手く、格好良く、きれいに踊ることを目指すのはもちろん、「ノリの良い仲間」として楽しむことを大切にしています。



すいこれん

## 吹鼓連

連長：福村沙織 創立：2001 (平成13) 年  
連員：80名  
本部：杉並区阿佐ヶ谷南1-1-2 電話：03-3311-9265  
URL: <http://suicoren.gooside.com/>

連名の由来は「皆で元気づける」という意味の「鼓吹」という意味です。その意味を、いつも心に留め置くため、吹鼓連の「吹」と「鼓」の間には返り点をつけています。徳島とのつながりは深く、結成初年度から毎年徳島の阿波踊りに1連で参加し、2002 (平成14) 年からは徳島で4月に開催される「はな・はるフェスタ」の県外招待連として出演しております。吹鼓連のメインは女踊り。全体の和の美しさを表現し、差し足で優雅にしなやかに踊ります。男踊りはバラエティー豊かに、子ども踊りは元気よく、リズムカルに踊ります。鳴り物は本場徳島の正調阿波踊りを追求しています。鉦は三味線の1弦(レ)と2弦(ソ)の2種類の音と同じ高さのものを、状況によって使い分け、笛は三味線を生かす6本調子。締、大太鼓は笛、三味線を支え、またときには勇壮にと自由自在に変化します。



すいれん

## 粹輦

連長：粕谷孝博 創立：1997 (平成9) 年  
連員：50名  
本部：杉並区堀ノ内3-49-19-214 電話：03-3313-7849

私たち粹輦は日々練習に励み、男踊りは3つの踊りを学びました。高円寺では珍しい角うちわを使い、みな同じうちわ、あるいは扇をさばき、唯一アップテンポの音で、優雅に踊る姿を見せます。女踊りは、しなやかさと粋さを兼ね備えた踊りで、流し踊りにもこだわりをもっています。高円寺で唯一、女踊りがうちわを持って、驚きと感動を与えます。お囃子は、ビートのきいた、見て楽しいお囃子です。鉦と大太鼓は、身に響くリズムにのった音で、締太鼓と笛は、正調の音を聞かせます。鉦と大太鼓の新しいリズムと、締、笛のミックスの音色を楽しんでください。衣裳は、男が青、女が水色。お囃子は男と女を合わせた色で、3つの衣裳がひとつになって粹輦の色となり、「粋な」の崩し字を背中に入れてあります。



ぞめきれんぢゅう

## 騒連中

連長：村田利彦 創立：1995 (平成7) 年  
連員：36名  
本部：杉並区高円寺南4-40-13 電話：03-5378-9206

1989 (平成元) 年8月12日、徳島空港より南新町の恩師を訪ね、記憶では四国放送「土曜ワイド徳島」のインタビューに同行。生のBGMを求め、市内を巡る音はなく、やむなく丸新前の雑踏へ。車を降りると、初日を彩る三味線流し。姐さんひとりが姿態よく会釈、振り向きざまに「ぞめき、いこ!」。ぞめき?! 次の瞬間、三下がりの急調子に囃されて、身体中の血が阿波藍に染まり、何かが内から湧きあふれる。本物は鳴り物だけじゃダメなのだ。時は下って命名のとき、どこをどう探しても、漢字で「ぞめき」が見当たらず。ならば洒落っ気よろしく、ほっかむりに尻端折り、素見を気取って「騒」1字を当てる嚙矢とす。「連中」は一門だけじゃつまらぬと、今を楽しむ無常観。3文字なら、高張提灯を見た目に、尚よろし。「読めない、聞かない、意味不明?」と問われて久しい、薫る由来は騒風味の隠し味、ひと味違うも三味足らず。



てんぐれん

## 天狗連

連長：斉藤義忠 創立：1965 (昭和40) 年  
連員：140名  
本部：杉並区高円寺南3-45-15 電話：03-3311-8762  
URL: <http://www.tenguren.com>

前身であった「きらく連」を母体に有志を募り、当時20数名の連員で新連結成を誓い集合したのが始まりです。1965 (昭和40) 年8月に念願の衣裳も揃い、高円寺の本番を機に古参の独立連として本格的活動を開始。1971 (昭和46) 年に本場徳島「平和連」と姉妹連になりました。女踊りはレモンイエローの衣裳に、手作りの赤い髪飾りと赤い巾着をつけ、踊りはもちろん、着姿という点にも力を入れています。男踊りは粋な法被と、味のある浴衣。それぞれの衣裳と踊りで色を出し、個性を生かして日々を活動しています。そして練習熱心な「小天狗」が使う手作のうちわと、つので個性豊かな演出をしています。あくまでも「基本」を大事にしていこうと、また、これからの「阿波踊り」をさらに追及していくことで、高円寺を盛り上げていきたいと思っています。





てんすいれん

## 天水連

連長：岩浪則彦 創立：1985 (昭和60) 年  
連員：45名  
本部：杉並区高円寺南4-20-4 電話：03-5378-3390  
URL: <http://tensui-web.hp.infoseek.co.jp>

理想の阿波踊りを求めて22年前に結成された天水連。その歴史には、阿波踊りに対する熱い情熱とそれを守る強い意志がありました。結成当時、「安く早く仕上がる」という資金的な理由で作られた白と黒の衣裳は、一方で「外見や体裁ではなく、本当の実力を見てもらいたい」といった信念として現在まで受け継がれています。どこよりも腰を低く、優雅にそして力強く。こよなく阿波踊りを愛する天水の心意気をこの衣裳に込めた「こだわり」です。また、大太鼓を手作業で塗り替えたり、踊りのうちわを手作りで張り替えたりといった作業も、同じ時間を共に過ごすことで結束を深めるといったわれわれの「こだわり」のひとつです。みんなで語り、そしてよく食べ、よく笑う。これが天水ファミリーのパワーと秘密といえるかも！ こうした天水の情熱を感じていたいただけ嬉しく思います。



のびゆくれん

## のびゆく連

連長：伊藤勝正 創立：1963 (昭和38) 年  
連員：75名  
本部：杉並区高円寺南3-45-17 電話：03-3311-6665

のびゆく連は、幼稚園から中学生がおもに活動している連です。子どもたちが主役ですが、これからは誰もが参加できる連を目指します。例えば「親子」、「おじいちゃん、おばあちゃん」というように、家族丸ごと踊れるようになればいいなと思います。現在でも「違う学年や学校の人と友だちになれる」、「以前よりも積極的になった」と、子どもたちや保護者の方々の評判もよく、高円寺の本番に向け、一所懸命練習しています。決して派手な活動はできなくても、基本に忠実にさわやかに踊ることを目標としています。さわやかさがさらに出るよう、数年前より衣裳は、パステルカラーを使った明るいものに徐々に変えています。のびゆく連は、高円寺阿波おどりと共に発展してゆきたいと思います。



はなびしれん

## 花菱連

連長：小野寺貞光 創立：1966 (昭和41) 年  
連員：65名  
本部：埼玉県所沢市東新井町773-1 ビック武蔵野105号室  
電話：0429-95-4038 URL: <http://www.hanabishiren.com/>

1966 (昭和41) 年に男だけの連として産声を上げた花菱連ですが、お陰さまで、今年結成40周年を迎えることができました。結成当時、高円寺阿波おどりに初めて法被姿を取り入れたのは、われら花菱連です。その歴史ある法被も、結成40周年にちなんで今年はイメージチェンジ。男臭さの気っ風の良さは、今も変らぬ伝統です。気合いの入ったお囃子や今も変らぬ法被踊りも目立ちたがり屋が多くノリノリです。また、踊り終わったひとときもアットホームな雰囲気をもつ花菱連。そんな環境から生まれる阿波おどりだから、連員同士の呼吸もピッタリで、うまく踊ることよりも楽しく踊ることを目標に、練習に励んできました。どうぞ、ノリノリの踊りをご覧ください。きっとあなたの心に焼きつくはずです。



はなみちれん

## 花道連

連長：名和一成 創立：1994 (平成6) 年  
連員：50名  
本部：杉並区堀ノ内1-17-32 電話：03-3313-3639  
URL: <http://tokyo.cool.ne.jp/hanamichi/>

花道連は1994 (平成6) 年に結成された、高円寺ではまだまだ未熟な若い連です。連員は50名と人数も比較的に少ないなか、新人からキャリア40年を超えるベテランまで在籍しています。連の特徴である衣裳は、全員が藤色の同じ色彩の衣裳。昼間は太陽の光に、夜間は演舞場を照らすライトの中で、ひときわ映える色を醸し出し、踊りに艶を添えています。お囃子は心臓の鼓動をイメージした独特な音で、思わず体が自然と上下に動いてしまう、そんなリズムです。阿波踊りというすばらしい伝統を意識しつつ、常に新しい踊りや音を考え、これから先も、花道連の謳い文句「高円寺の花道ここにあり」を胸に、楽しく、そしてお客さまに喜ばれる踊りを演じて行きたいと思っています。



ひさごれん

## ひさご連

連長：田島 彰 創立：1997 (平成9) 年  
連員：42名  
本部：練馬区上石神井3-6-31 電話：048-466-6833

阿波踊りに情熱をもつ有志たちが集まり1997 (平成9) 年に「ひさご連」として結成いたしました。ひょうたんのことを「ひさご」ともいい、昔から日本人には馴染み深く愛されてきました。その形もさまざま、個性豊かでひょうきん。ひさご連は、そんなひょうたんを象徴としています。踊り子の個性が十分に生きるよう、またその良さと特徴が引き立つように、本場徳島の正調阿波踊りを求めて、研究しております。キレの良いコミカルなリズムのお囃子に合わせて踊る男浴衣は、ひょうきんで渋味が有ります。早い音に合わせてコマのようにパワフルに回転して踊り廻る法被踊りは、定評をいただいています。今年は連結成10年目を迎え、連協会への仲間入りをさせていただきました。なお一層精進を重ね、高円寺の名物となるひさご連を目指します。



ひよっとこれん

## ひよっとこ連

連長：伊丹正信 創立：1964 (昭和39) 年  
連員：100名  
本部：杉並区高円寺南3-21-15 電話：03-3311-4265  
URL: <http://www.hyottoko-ren.com>

1964 (昭和39) 年にひよっとこ連は誕生しました。1994 (平成6) 年、茨城県のお祭りに参加したときに、阿波踊りの本場徳島の有名連「うずき連」と出会い、これが阿波踊りだと衝撃を覚えました。今では「うずき連」と友好を結び、音、踊りともに指導を仰いでおります。鳴り物は「うずき連」のゆっくりと落ち着きのあるテンポ“粋調(すいちょう)”を基本とし、舞台演出などではパート別の音もございます。踊りは「手を高く」をモットーに、どこから見てもしなやかで、キレのある踊りを心掛けています。あくまで基本に忠実で、そこから個性に磨きをかけていくのです。衣裳には連名の象徴でもある、ひよっとこの顔を全パートに入れております。高円寺では歴史の古いひよっとこ連、皆さまに踊り心と笑顔をお伝え致します。





まいちょうれん

## 舞蝶連

連長：鈴木一男 創立：1992 (平成4) 年  
連員：80名  
本部：高円寺南4-29-6 電話：03-3312-9866  
URL: <http://maityou.main.jp/>

舞蝶連は今年50年を迎える高円寺阿波おどりの中では創連14年とまだまだ若い連ですが、毎年たくさんのご来場いただいておりますお客さまに感動を与え、年間90日を超える稽古を積んでいます。基本は尊守しつつ、常に斬新でオリジナリティあふれる鳴り物と踊りで、見る者を圧倒。さらに進化し続けております。数少ない名職人の魂が注がれた、3丁の大鉦が操る「舞蝶七音金色」、「華麗に美しく舞う姫蝶」、「すべて動きが異なる蝶雄」。変幻自在にして洗練された、魅惑の「蝶」をどうぞ堪能ください。



みどりれん

## 美踊連

連長：斎木康二郎 創立：1972 (昭和47) 年  
連員：75名  
本部：杉並区高円寺南3-48-1 電話：03-3314-9222  
URL: <http://www.5e.biglobe.ne.jp/~miodori/>

結成30余年、常に正調阿波踊りを目指し、男は「自由奔放」、女は「品良く」、鳴り物は「豪快に」をモットーに活動してきました。都内は元より、その活動は関東一円にまで広がっています。活動の一環として、本場阿波の心意気を学ぶための徳島研修があり、毎年欠かすことが無く続けております。友好連との交流も密になり、連員の士気も向上してきています。阿波踊りに対する情熱を「赤」、ひたむきさを「青」、力強さを「黒」で表現して配色した踊り衣裳、他にまねることのないうちわさばきでどっしり腰を落とした男踊り。集合美が基本の女踊り、スローなリズム重視の鳴り物とバランスよくまとめ、連員が若いのにも関わらず、ベテランの味を醸し出しています。またチームワークの良さも自慢のひとつです。今後の高円寺阿波おどりの発展と共に、われわれ美踊連も高い理想をもち続け、飛躍するための努力を惜しむことなく邁進していきたいと思ひます。



わかこまれん

## 若駒連

連長：佐々倉秀夫 創立：1974 (昭和49) 年  
連員：65名  
本部：杉並区高円寺北2-8-12 電話：03-3339-5257

1974 (昭和49) 年8月、高円寺銀座商店会 (現純情商店街) の命により、小中学生を中心に夏休みの思い出づくりと、練習を通して子どもたちの協調性を養うことを目的として設立しました。わが連の特徴は、男踊りは腰を低く手は頭より高く、女踊りは足並みを揃え、手は笠より高く上げて踊る正調阿波踊りを基本とした独自の踊りです。また、お囃子も、阿波踊りの基本に忠実な構成にしています。もうひとつの特徴は、女踊り全員で、踊りながら連の歌を歌うことです。

1 阿波で生まれた 阿波踊り のぼりのぼって 高円寺  
踊る笑顔は 晴れやかに いきでいなせな 若駒連

1 踊る阿呆に 観る阿呆 歌い文句は 今もなお  
生きて伝わる 阿波踊り

高円寺で生まれ、高円寺で育った若駒連です。



## 一般参加連の紹介

★一般参加連★  
連協会所属連以外で、高円寺の50年を彩る仲間達です。

あげおこいきれん

### あげお小粋連

連長：塩崎昭  
所在地：埼玉県上尾市  
連員：40名  
問合せ先：048-781-8083

正調阿波踊りを継承しつつ、新しい踊りも取り入れて、連名に負けない小粋な踊りを目指しています。衣裳は「粋」をアピールする意味で、背中に纏(まとい)をあしらいました。

いたばしくやくしよけやきれん

### 板橋区役所けやき連

連長：宮川修一  
所在地：東京都板橋区  
連員：45名  
問合せ先：03-3579-2662

おかげさまで結成30年目を迎えます。板橋区内をはじめ、近隣のお祭やイベントへの出演を通じて「いきいき暮らす緑と文化のまち、板橋」を目標にまちの元気に賑わいにひと役買っています。

えぬていていこうえんじでんわれん

### NTT高円寺でんわ連

連長：山崎暁  
所在地：東京都新宿区  
連員：100名  
問合せ先：03-5386-9111

NTTグループ社員を中心に、OB、OG、その家族、地域のみなさん加わって活動し、結成30年。心も体も燃える夏、その心意気を「燃えるオレンジ」の衣裳に包んで思い切り踊ります。

おおたぐやくしよくすのきれん

### 大田区役所くすのき連

連長：赤阪英夫  
所在地：東京都大田区  
連員：40名  
問合せ先：03-3735-8020

区役所職員で構成され、区内で行われるイベントを中心に年間60回の出演をこなしています。男性の浴衣には大きく区の紋章が、女性の着物には区の花である梅と区の鳥であるウグイスがそれぞれ染められています。

かせいれん

### かせい連

連長：窪田弘美  
所在地：東京都中野区  
連員：70名  
問合せ先：042-561-9441

男踊り、女踊りそして踊りをリードするお囃子が一体となって、皆さまに楽しんでいただける阿波踊りを作り上げています。「踊る阿呆たち」にご期待ください。

かわさきいちょうれん

### 川崎銀杏連

連長：白石真澄  
所在地：神奈川県川崎市  
連員：35名

正調阿波踊りを目指して練習に励み、その奥深さを感じています。法被踊りの笑顔と楽しさをモットーに、活動しています。

きぼうれん

### 希望連

連長：浅野輝政  
所在地：東京都杉並区  
連員：150名  
問合せ先：03-5310-3362 (佐藤方)

心身にハンディキャップがあっても、「ヤットセイ」の元気な掛け声で楽しく参加しています。

きょうどうむらさきれん

### 経堂むらさき連

連長：樋山奈津子  
所在地：東京都世田谷区  
連員：200名  
問合せ先：03-3427-5118

商店街の連で、幼児から大人まで一緒に練習は楽しく、また音、組み踊りなど各学年で構成を考え、先輩方と意見交換しています。子どもたちのがんばりを見て欲しいです。

くめがわれん

### 久米川連

連長：桜井洋  
所在地：東京都東村山市  
連員：50名  
問合せ先：acky8800@uol.gateol.com

創立28年を迎えます。真夏の夜の祭典。はじける情熱、ほとばしる汗、感動と興奮、魅せます、今年も！

こうみょうれん

### 晃妙連

連長：榎本好男  
所在地：東京都杉並区  
連員：80名  
問合せ先：03-3382-2285

1970 (昭和45) 年に産声を上げ、礼儀正しく思いやりの心をもった青年たちが、「一隅を照らす光明のように明るく爽やかに」を合い言葉として、毎年趣向を凝らした踊りを披露しています。連の要でもある高張提灯も自慢のひとつです。

こがねいさくられん

### 小金井さくら連

連長：新革  
所在地：東京都小金井市  
連員：50名  
問合せ先：koganei-sakura@msn.com

徳島の正調阿波踊りを手本としながら、その上で自分たちなりの踊りや音を作り出すよう、練習を重ねています。流し踊りの途中で鳴り物のテンポが変化し、それに合わせて踊りも変化します。どうぞご覧ください。

こくぶんじれん

### 国分寺連

連長：上道明三  
所在地：東京都国分寺市  
連員：65名  
問合せ先：042-575-7708

創立20年を迎えました。正調阿波踊りを基本とし、地域の皆さまと交流を深め見せる踊り、踊らせるお囃子を心がけて練習しています。高円寺阿波おどりに参加できることを、励みにしております。

ごらくれん

### 伍楽連

連長：田中武  
所在地：神奈川県相模原市  
連員：120名  
問合せ先：042-743-8339

伍楽の「伍」の字は仲間を意味し、男も女も子どもから大人まで、人の和を大切にします。踊って楽しい、見て楽しい、笑顔あふれる連です。

しもきたざわれん

### 下北沢連

連長：大木弘人  
所在地：東京都世田谷区  
連員：120名  
問合せ先：03-3468-2933

世田谷の下北沢一番街商店街が管理運営する「ひふみ連」「やっこ連」の2連で構成されています。下北沢阿波踊りで活躍する、地元出身者だけの連です。

じょうしゅういわびつれん

### 上州いわびつ連

連長：都所信三郎  
所在地：群馬県東吾妻町  
連員：48名  
問合せ先：0279-68-2622

高円寺阿波おどり連協会各連の指導で、1995 (平成7) 年に結成し、11年目を迎えます。年間イベントはいわびつ祭り、高円寺阿波おどり、大田芸能発表会に至っており、これからも多くの参加を希望し、練習に励みたいと思っております。



しらいしれん

## しらいし連

連 長：斎藤哲秀  
所在地：東京都杉並区  
連 員：35名  
問合せ先：03-3314-1421

白石建設（株）職員有志により結成され、今年で結成15年。企業連でありながら職員だけでなく、同じ建設業界、家族、友人へも踊りの輪を広げております。

すぎのこれん

## 杉の子連

連 長：高橋正治  
所在地：東京都杉並区  
連 員：150名  
問合せ先：03-3337-2000

1967（昭和42）年に創立。高円寺純情商店街が支援する、幼児から小学生で構成されている連です。安全かつ無理のないよう、多くの保護者のボランティアによって引率され、午後8時には解散します。踊りも鳴り物も、子どもが主役の連です。

だいこんれん

## だいこん連

連 長：谷口春江  
所在地：東京都練馬区  
連 員：65名  
問合せ先：03-3996-7980

聴覚障害者や、手話に対する理解が広がることを目的に、手話サークルの仲間と一緒に踊っています。親、子、孫と二代、三代の連員もいます。お囃子の響きを身体で感じ、リズムを取ります。

つくしれん

## つくし連

連 長：柿崎寿賀子  
所在地：東京都練馬区  
連 員：80名  
問合せ先：03-3441-7039

藍染めを使用し、連名の紋を作ってもらいました。衣裳にこだわりをもっていますが、子どもたちの動きも見ていただきたいです。

しんじゅくくやくしよつつじれん

## 新宿区役所つつじ連

連 長：増田丸雄  
所在地：東京都新宿区  
連 員：50名  
問合せ先：maruochan@mx4.ttcn.ne.jp

「とびきりの笑顔」がつつじ連の看板。「ただの職場連では終わるまい」という気概で、練習を重ねています。男踊り、女踊り、鳴り物、三位一体の調和を目指しています。

すけろくれん

## 助六連

連 長：竹内逸夫  
所在地：東京都大田区  
連 員：35名  
問合せ先：03-3742-2029

結成以来、正調阿波踊りを追及し、粋で歯切れ良い女踊りと、たくましい男踊り、唼呵を切るようなお囃子を心がけています。

だいさんきかくれん

## 第三企画連

連 長：久米信廣  
所在地：東京都中野区  
連 員：40名  
問合せ先：03-5318-3328

連長久米は徳島県出身者。本場徳島の「殿様連」に憧れ、今年で創立18年目。目の覚めるような黄色い法被と豪快な男踊り、気迫溢れる鳴り物がトレードマーク。見所は、笹田連長率いる「殿様連」との共演です。

てんしょうれん

## 天翔連

連 長：渋谷一夫  
所在地：東京都杉並区  
連 員：40名  
問合せ先：03-3317-0822

阿波踊りを離れても、連員同士仲がよく、でも練習となると、皆真剣そのもの。見ている人を楽しませるのは技、心あつてのこと。それと共に自分自身も楽しまなくては!のスピリットは、連員ひとりひとりの心に生きています。

しんすいれん

## 新粋連

連 長：三田昭人  
所在地：東京都豊島区  
連 員：45名  
問合せ先：info@shinsuiren.com

「新たな響き、鼓の音色。粋な踊りに花が咲く」「新しく、しかも粋な阿波踊りを目指そう」ということで命名。衣裳は連の紋を掲げ、青を基調にさわやか、かつ神秘的な色。さまざまなジャンルから表現を取り入れ、斬新な演出に挑戦しております。

すざくれん

## 朱雀連

連 長：森泉淳  
所在地：東京都杉並区  
連 員：50名  
問合せ先：suzakuren@hotmail.com

連員同士の意思疎通を大切に考え、連員数は50名以下に制限し、アットホームな雰囲気を育てています。鳴り物は誰もが心踊るようなオリジナルの音を追求。衣裳の背中には「大空にはばたく朱雀」のマークが染めつけてあります。

たつのおとしごれん

## たつのおとし子連

連 長：村瀬文男  
所在地：東京都杉並区  
連 員：80名  
問合せ先：03-3394-3428（村瀬）

杉並区聴覚障害者協会が、手話サークル「杉の会」のボランティアで参加して、25年目を迎えます。聴覚に障害があっても、阿波踊りを楽しんでいます。

とうきょうあおいれん

## 東京葵連

連 長：中村寿美雄  
所在地：東京都杉並区  
連 員：35名  
問合せ先：03-3394-5260

正調の音、踊りを目指し立ち上げて2年。その成長過程をお楽しみください。連のモットーは明るく楽しくです。

1998（平成10）年結成以来、関東各地の阿波踊り大会や徳島に参加しながら、各施設訪問および社会活動を積極的に行っています。エビス顔をモットーとし、静と動の調和、鳴り物と踊り手の和をテーマに毎回楽しく踊らせていただいております。

すぎなみくやくしよざんかれん

## 杉並区役所さざんか連

連 長：大林俊博  
所在地：東京都杉並区  
連 員：80名  
問合せ先：03-3312-2111

「地元の祭りに職員も参加しよう」を合い言葉に、職員有志により結成されました。創設時は「とにかく参加すること」が目標でしたが、今では踊る阿呆が増え、踊りとお囃子のバランスの取れた連を目指して頑張っています。

すそのれん

## すその連

連 長：杉山猛  
所在地：静岡県裾野市  
連 員：45名  
問合せ先：055-992-0183

地元連を作ろうと集まった、阿波踊り大好き集団です。衣裳は生地の違う青とピンクの布を使い、連長自身がデザインした紋をあしらいました。連員の「和」を第一に新しい阿波踊りの創造を模索し、調和のとれた連づくりに努めています。

だむだんれん

## だむだん連

連 長：遠藤二郎  
所在地：東京都文京区  
連 員：90名  
問合せ先：03-3261-9570

文京区音羽を本拠地にし、今年で結成15年。「あまりがんばらず、できる範囲でやりましょう」をモットーに、上手な人は上手に、初めての人もそれなりに踊る、観客と一体となって阿波踊りを楽しむ連です。

とうきょうえびすれん

## 東京えびす連

連 長：小林祐生  
所在地：東京都杉並区  
連 員：40名  
問合せ先：03-3317-1059

1998（平成10）年結成以来、関東各地の阿波踊り大会や徳島に参加しながら、各施設訪問および社会活動を積極的に行っています。エビス顔をモットーとし、静と動の調和、鳴り物と踊り手の和をテーマに毎回楽しく踊らせていただいております。

とうでんれん

## とうでん連

連 長：菅原信行  
所在地：東京都杉並区  
連 員：70名  
問合せ先：03-4336-2345

電化製品のPRを加えた独自の掛け声とそれに合わせたフォーメーションの個性的な踊りです。初参加者の多い素人集団ですが、「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに一生懸命踊ります。

にしいばれん

## にしいば連

連 長：高見恒子  
所在地：静岡県浜松市  
連 員：34名  
問合せ先：053-455-0015

今年で18年目。高円寺へ参加することを楽しみに、月2回の練習に励んでいます。老人ホーム、その他の地域へのイベントに参加して、地元の人にも喜ばれております。

はつだいしょうせいはいはつだいれん

## 初台商盛会初台連

連 長：桜内秀吉  
所在地：東京都渋谷区  
連 員：70名  
問合せ先：03-3379-1391

提灯グループと金色と銀色のハンテン踊りに注目！二拍手、一拍手と使い分け、力強く、楽しくなるお囃子です。

ふどうれん

## 富道連

連 長：山崎千二  
所在地：東京都三鷹市  
連 員：65名  
問合せ先：0422-32-4370

子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層で踊っています。その中には親子の踊り手もあり、とてもアットホームな雰囲気です。

なかむらばしれん

## 中村橋連

連 長：江村健二  
所在地：東京都練馬区  
連 員：50名  
問合せ先：03-3970-0300

中村橋の地元の小、中学校を中心にした連です。

にほれん

## 式穂連

連 長：花柳和幸穂  
所在地：東京都小金井市  
連 員：60名  
問合せ先：042-384-1881

幕末に描かれた「阿波盆踊図」という屏風絵から、当時の阿波踊りを再現いたしました。衣裳も踊り方も、粋で洒落っ気にあふれます。鳴り物にも力を入れており、ほかにない特徴があります。

はなのきれん

## 花の木連

連 長：武藤寛  
所在地：東京都新宿区  
連 員：100名  
問合せ先：03-3367-0942

新宿のスナック花の木の飲み仲間が集まって作り、今年で29年目。すっかり高円寺阿波おどりの古株です。浴衣は飲み仲間だった漫画家「滝田ゆう」の絵入りが自慢です。

ほおずきれん

## ほおずき連

連 長：本谷利勝  
所在地：埼玉県草加市  
連 員：35名  
問合せ先：048-942-3279

結成2年目で阿波踊りの楽しさを解り始めたほおずき連です。2005（平成17）年の初出場の緊張を、観衆の皆さまの暖かい声援が助けてくれました。今年はそのお礼を込めて、「ありがとう」が爆発する夜にしたいと思います。

なりますちるどれん

## 成増チルド連

連 長：田中智泉子  
所在地：東京都板橋区  
連 員：72名  
問合せ先：03-3930-4188

成増チルド連は文字通り元気一杯の、3歳～中学生までの子どもたちの連です。お囃子は子どもたちの親で結成し、踊りを盛り上げるアットホームな連です。

ねりまきたまちじゃじゃまれん

## 練馬きたまちじゃじゃ馬連

連 長：内田浩  
所在地：東京都練馬区  
連 員：70名  
問合せ先：03-3933-3352

一拍子の小気味良い鳴り物。6種類のパーツに分けた踊り部隊。

はままつしれん

## 浜松市連

連 長：飯尾忠弘  
所在地：静岡県浜松市  
連 員：54名  
問合せ先：053-457-2298

小粒ながらもパンチの効いた、躍動感あふれる阿波踊り。やらまいかスピリッツ！創造都市・浜松から、元気をお届けします。

まいくろそふとれん

## マイクロソフト連

連 長：森上寿生  
所在地：東京都渋谷区  
連 員：50名  
問合せ先：03-4523-3259

本場徳島で喫茶平と踊らせていただいたご縁から、姉妹連の飛鳥連にご指導いただいております。男踊りの連でしたが、昨年より女踊りも始め、連としての活動に、厚みを加えていこうとしております。

にいざおかめれん

## 新座阿亀連

連 長：直井悦子  
所在地：埼玉県新座市  
連 員：30名  
問合せ先：048-474-8958

踊り好きの集まりです。正調を追う鳴り物、激しい武士の提灯踊り、キレイく舞う女踊り、踊りに魅せられた連中が、夏を燃やすかのように踊ります。

ねりまきたまちぼんぼこれん

## 練馬北町ぼんぼこ連

連 長：岡本竜治  
所在地：東京都練馬区  
連 員：100名  
問合せ先：http://members3.jcom.home.ne.jp/ponpokorenn/  
東武東上線・東武練馬駅南口のニュー北町商店街が、ホームタウンの連です。商店街とお客さまで連を構成し、毎年7月最終土曜日に、多くの連が参加して阿波踊り大会が行われます。先頭を行く子ども提灯が、かわいく元気いっぱいです。

びっくりれん

## びっくり連

連 長：増田和男  
所在地：東京都杉並区  
連 員：40名  
問合せ先：03-3385-0755

1967（昭和42）年、高円寺純情商店街の「びっくり市」から命名され、一般参加者を受け入れる、唯一の連として活動してきました。独立から3年目。40名前後の小規模連ながら、名門連に負けないよう、練習に努力を重ねています。男踊り中心のダイナミックな踊りをご覧ください。

まことれん

## 誠連

連 長：堀江誠  
所在地：東京都杉並区  
連 員：45名  
問合せ先：03-3336-0438

基礎を大切にしながら、他連と違うダイナミックなうちわ踊り、提灯踊りに注目してください。踊り手は10年以上のベテランで立ち上げ、連名の命名は新撰組の活動が4年あったことを目標にできました。今年はその設立4年目の年なので、頑張りたいです。



まじよるかれん

### 舞女流華連

連 長:宮本芳栄

所在地:兵庫県洲本市(淡路島)

連 員:50名

問合せ先:0799-24-2356

古くから伝わる正調阿波踊りに、淡路島独特の奴唄おどり、淡路人形を用いての人形踊りが加わり、息の合った女踊り、威勢良い提灯踊り、軽快な囃しのリズムをお楽しみください。

むさしみなみれん

### むさし南連

連 長:越徳治

所在地:東京都小金井市

連 員:100名

問合せ先:042-384-5947

正調を基本とし、自由奔放に品良く楽しく、をモットーとした、個性豊かな踊りです。お囃子は基本を大切にして連独自の音を作り出し、心踊らせませす。毎年、徳島の娯楽留のお世話で踊りを満喫しています。

ゆりかもめれん

### ゆりかもめ連

連 長:川名義男

所在地:東京都品川区

連 員:37名

問合せ先:03-3782-6045

自分たちで創作した組踊りの種類が多く、とくに子どもの扇を使った踊りが自慢です。

★徳島より参加いただいた連です。

まめだれん

### 豆狸連

連 長:林淳一

所在地:徳島県板野郡

連 員:101名

問合せ先:088-694-5317

ドラマー、津軽三味線とも共演し、和太鼓奏者の指導のもとに大太鼓は8種類の音を打ち分けませす。暴れ踊りの男性、笛を主体とした女踊り、澁刺としたチビッコたちが踊り、時代に合った新しい阿波踊りを模索し、挑戦し続けています。

みたかれん

### みたか連

連 長:吉野清司

所在地:東京都三鷹市

連 員:80名

問合せ先:0422-49-1314

三鷹阿波踊りも、本年39回目を迎えます。「楽しくカッコ良く」をモットーに、子どもから大人まで、調和のとれた和やかな連を目指しています。見る人に感動を与えられるように、がんばっています。

めぐろぎんざれん

### 目黒銀座連

連 長:熊上泰一

所在地:東京都目黒区

連 員:110名

問合せ先:03-3712-2944

キレのある、オリジナル曲を中心に展開する鳴り物。素手、うちわ、扇子、提灯で踊る男踊り。地元中目黒夏まつりを中心に響(おと)と踊酔(とうすい)を掲げ、活動しています。

みゆうひよこれん

### 美遊ひよこ連

連 長:長沼知春

所在地:東京都杉並区

連 員:80名

問合せ先:03-3336-6278

かわいい子どもたちを中心に、指導するお姉さんとお囃子のお父さん、衣裳はお母さんの手作りです。よく遊び美しく育つ、をモットーに、仲間の輪が広がるアットホームな連です。

やまがたんだずれん

### 山形んだず連

連 長:河合克行

所在地:山形県山形市

連 員:60名

問合せ先:023-623-7373

紅花国体において、次期開催県徳島のアピールのために阿波踊りを手掛けるようになりました。2005(平成17)年より、「みちのく阿波踊り」として山形の新たなお祭りとしてスタートさせています。

あわあいれん

### 阿波藍連

連 長:吉田敏一

所在地:徳島県徳島市

連 員:60名

かぶきれん

### 歌舞伎連

連 長:鈴木照雄

所在地:徳島県徳島市

連 員:65名

ほんけだいまようれん

### 本家大名連

連 長:清水理

所在地:徳島県徳島市

連 員:100名

問合せ先:088-625-2655

らくちやれん

### 楽茶連

連 長:知田芳彦

所在地:徳島県名西郡

連 員:88名

問合せ先:088-674-0965

むさしあおれん

### むさし葵連

連 長:井花伸浩

所在地:埼玉県狭山市

連 員:90名

問合せ先:042-956-1431

アップテンポのお囃子に乗せて、法被踊りは端正で、軽快に、女踊りは優美でしなやかに舞うのが特徴です。衣裳は男子の青法被、女子の白法被。白と青を基調とした、女踊りとお囃子。いずれもすっきりさわやかな色使いです。

ゆうびんきょくれん

### 郵便局連

連 長:米澤俊英

所在地:東京都杉並区

連 員:70名

問合せ先:03-3313-2241

地域と共に歩む郵便局として、1987(昭和62)年から毎年参加しています。荻窪郵便局、杉並郵便局、杉並南郵便局が合同で鳴り物と踊りの練習に集まり、汗を流しています。演舞場での皆さまのご声援が、配達や窓口での仕事の活力となっています。

いんげんれん

### 隠元連

連 長:高島博

所在地:徳島県徳島市

連 員:50名

問合せ先:088-653-7028

ぶしゅうれん

### 武秀連

連 長:浮津茂昭

所在地:徳島県徳島市

連 員:55名

よしこのれん

### よしこの連

連 長:山室博

所在地:徳島県徳島市

連 員:80名



# お宝秘伝物

高円寺阿波おどり50年の歴史の中で、見たこともない秘蔵品を発見！  
二度と手に入らないこんな品々がありました。



1960年  
ばか踊り時代の浴衣



1963年  
初代大太鼓



1974年  
関根敏邦氏が自費出版した  
「あわおどり 高円寺の十八年」



1980年  
記念グッズとして製作した  
法被型手ぬぐい



1996年  
記念誌「めくるめく発展の四十年  
おどれ高円寺」

1980年  
独自で作成した湯のみ茶碗



1978年(第22回)～1995年(第39回)  
18年間続いた「阿波おどり新聞」



男性風呂



女性風呂

高円寺宮下湯 銭湯壁画 (1989年制作)より

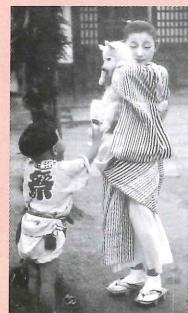




# お宝写真

葵新連・森田連長宅には、阿波おどりに関する資料や第1回からの写真がきちんと整理されています。仲間達はここを「阿波おどり資料館」と呼んでいます。これら秘蔵写真で、街や阿波おどりの変遷が伝わるでしょうか？

カラー写真は2006年のもの。高円寺の街に散らばる阿波おどり関連のオブジェだ！



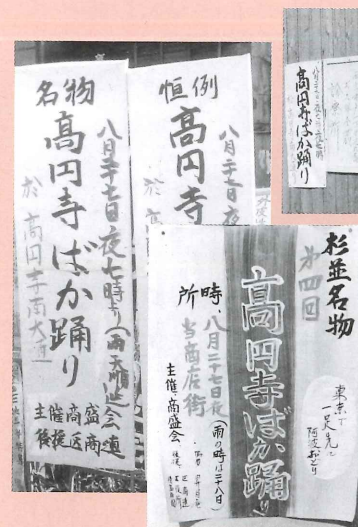
最初に「阿波おどり」を提案した茂木氏▲



第1回  
(1957)



第2回  
(1958)



▲手書きのポスター



▲初の広告つき高張提灯

第4回  
(1960)



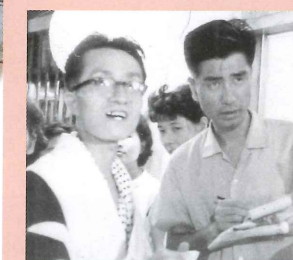
◀当時の物価が偲ばれる

第5回  
(1961)



▲映画館での練習

▼写真コンクールが始まる



▲インタビューを受ける森田氏



▼警備をする街の人(右)



▲警察による警備

第7回  
(1963)

第8回  
(1964)

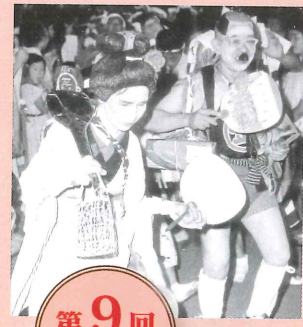


▲杉並公会堂でのテレビロケ



▲当時の大太鼓は今より小さい  
◀おどりの様子をテレビ局が初取材

第9回  
(1965)

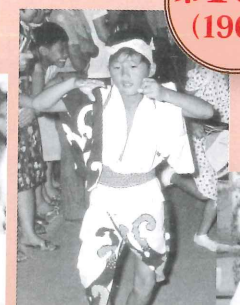


◀仮装した踊り手も登場  
▼新調された衣裳を着る踊り手



▲踊り手の名手登場

第10回  
(1966)



久保弘・石田あゆみ登場▶



▲初めての桟敷席  
バル商店街南側  
現「ヒグチ薬局」あたり



▲テレビ局での収録

▲高円寺の鳴り物陣の真中の2人は  
徳島の姓億氏(左)と小野氏

女性の男踊りは初登場か？▶



## 高円寺駅のうつりかわり



1960年 中央線が路面を走っていたころ



1966年 高架線となつたころの広場での踊り



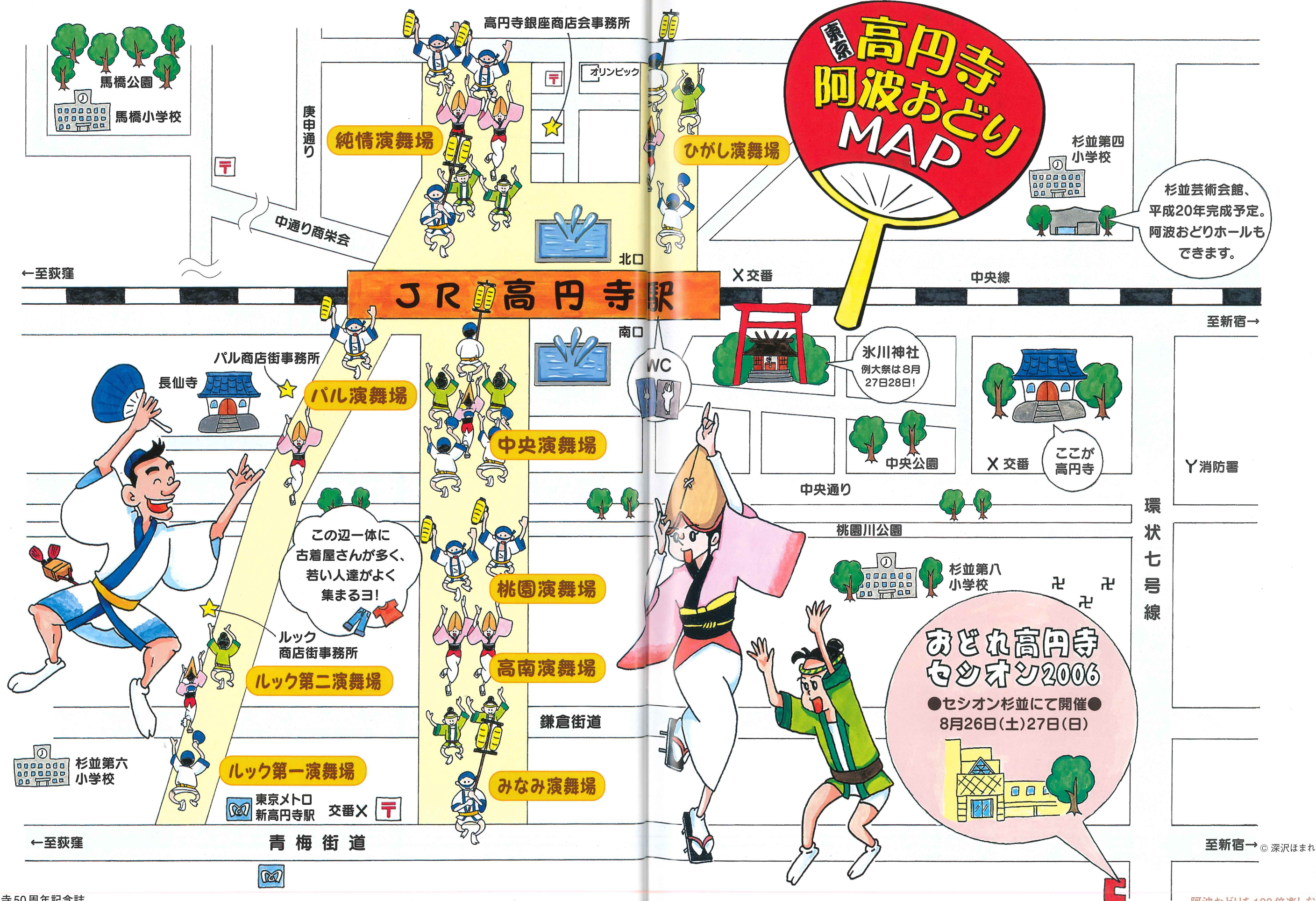
2006年 高円寺駅リニューアル

※50周年記念誌では第10回までの資料を発表したが、機会があればホームページなどで第11回以後のことを発表できればと思っている。



# 東京高円寺阿波おどりMAP

踊り子は高円寺南北にある9つの演舞場で踊ります。連全体が見渡せる大通りと踊り子を目の前にして見ることのできる商店街。どの演舞場も見ごたえ十分です！





# 徳島に学ぶ 阿波の心 踊りの心

本場徳島は、阿波踊りに携わる者にとってまさに聖地。今回、高円寺の“三人娘（井田・佐久間・杉谷）”が徳島へ飛び、「名手」たちにお会いした。歴史とこだわりで裏づけられた阿波の技術と心に触れ、少しでも近づきたいと願いながら話を聞いた。また、街のいたるところで阿波踊りに出会える環境が楽しく、うらやましく映った。この旅は、これからを担う世代に、刺激と課題を与えてくれた気がしてならない。



**多田 小餘綾**  
(ただ こゆるぎ)

## プロフィール

「お鯉さん」の名で親しまれている。1907年徳島生まれ。「よしこの」の名手。1931年に初めて阿波踊りをレコードに吹き込んだ。高円寺でもかつてはこのレコードで踊っていたという。  
<http://okoisan.com>

「阿波踊りというのは、単純なのにどうしてこんなに“かあいらしい”のかと、いつも思うんですよ」と、柔らかな口調で話す「よしこの」の名手・お鯉さん。テンポの速い三味線とのんびりとした歌、そのふたつが「重なり合う瞬間がある」のだといいます。そこが難しくもあり、逆に何ともいえず“かあいらしい”ところなのでしょう。リズムに乗って弾き始めると「踊る人の足の運びが見えてくる」とのことです。

「昔はもっとゆっくりで、一人ひとり格好が違ったんです。テンポはよしこのに合っていましたけど、今みたいに100人が100人、ピシッとそろうことはなかったですね」。昔を振り返りながら、今の人たちは洗練されていて格好がいいと、しきりに褒めてくださいます。「踊りも間が大事やけど、三味線こそ間が大事。それがうまいこといったら、かあいらしくてたまらんなあ」。

毎朝、うがいとラジオ体操は欠かさず、晩酌には1杯のビールを必ず飲むそうです。肌ツヤも良く、きれいにお化粧をしている姿はとて99歳には見えません。そんなお鯉さんも、コンサートの前には、喉に鍼を打ち肌が黒くなってしまうほど。当日は緊張で食事もうまく通らず、手のひらに「人」の字を書いて飲み込むことも忘れないとのこと。どんな小さな会場でも、常にベストコンディションで舞台に臨む姿勢が、お鯉さんのよしこのをより素晴らしいものにしているのでしょう。

「ほんとに阿波踊りはいいもんじゃ。ずうっといつまでも続けていただきたい。」と穏やかな笑顔で話すお鯉さん。現在、100歳のコンサートに向けて準備の真最中だ。「私をもっと若かったら、高円寺に寄せていただいて、声の限り歌わせていただきたい」と、最後にありがたいお言葉をいただいた。



お鯉さんのよしこので踊らせていただいた幸せな時間。湯飲み茶碗を鉦代わりにたたいているのは、阿呆連・山田連長。



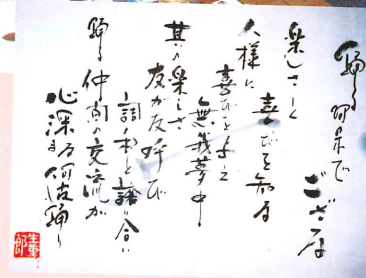
**四宮 生重郎**  
(しのみや せいじゅうろう)

## プロフィール

1928年徳島生まれ、娯座留連長。23歳で娯茶平入連。同連長を経て、平成元年娯座留を結成。現在も多方面で活躍を続ける男踊りの名手。

感じたこと、思ったことを、味のある書体で風情豊かに綴っている。余分なものをそぎ落とした言葉は実に深い。この書（写真：右）に向かうと技術の向上を求めるあまり、踊りの本質を見失ってはいないかと、自問自答してしまう。

「上達の秘けつは？」と聞くと「好きやから」と満面の笑みを浮かべる男踊りの名手、生重郎さん。「当たり前のができたら、踊りは上手になるんよ」「あいさつや日々の心掛けが踊りに出る。何よりも心が大切」と語る真つぐな眼差しに、思わず背筋を伸ばす。毎日、踵を上げてのスクワット、指先の運動など努力は欠かさない。阿波踊りの魅力は、自由奔放な表現にあるとこのことで「単調やけ



んね。阿波踊りって。ああ、ええなあって見ている人を感じてもらえると、それが踊り手の喜びになり、上達につながる」と語る。57年間、踊る阿呆を続けてきた今、「極限状況に達し、気がつく、風情と余韻の境地」と言葉を残す。



**四宮 賀代**  
(しのみや かよ)

## プロフィール

徳島生まれ。現在の女踊りのスタイルを確立した名手。観る人を魅了し、踊り手にとっては憧れの存在。出演の他、講師としても飛び回る多忙な日々を送る。「阿波おどりグループ虹」代表。

「阿波踊りの動きはとてもシンプルなんです」と話すのは、女踊りの名手、賀代さん。うまく踊れない人ほど動き過ぎて無駄な動きが多く、その無駄な動きを削っていくと、シンプルで楽な踊りになるという。そして、さらに大切なのが「阿波踊りにかける気持ち」。それが色気や品（しな）となって踊りに表れてくるとのことだ。

そんな賀代さんは、何よりも練習が好き。「練習で、みんなの一体感を感じるときが一番うれしい」と笑顔で語





# 徳島 阿波踊り三昧マップ

徳島市内の演舞場と、普段は目につかない阿波踊りオブジェを発見！  
お盆の華やかな装いとは別世界の徳島をご覧ください！

★ 有料演舞場    ★ 無料演舞場    ★ 屋内演舞場

## 有料演舞場

**1** 市役所前演舞場



**5** 藍場浜演舞場



**11** 紺屋町演舞場



**阿波踊り本番時の南内町演舞場**



**16** 南内町演舞場



**阿波踊り本番時の有料演舞場**



**「岡忠」**



年間通して県外へ荷物の配送可。多いときは50個所にもなるそうです

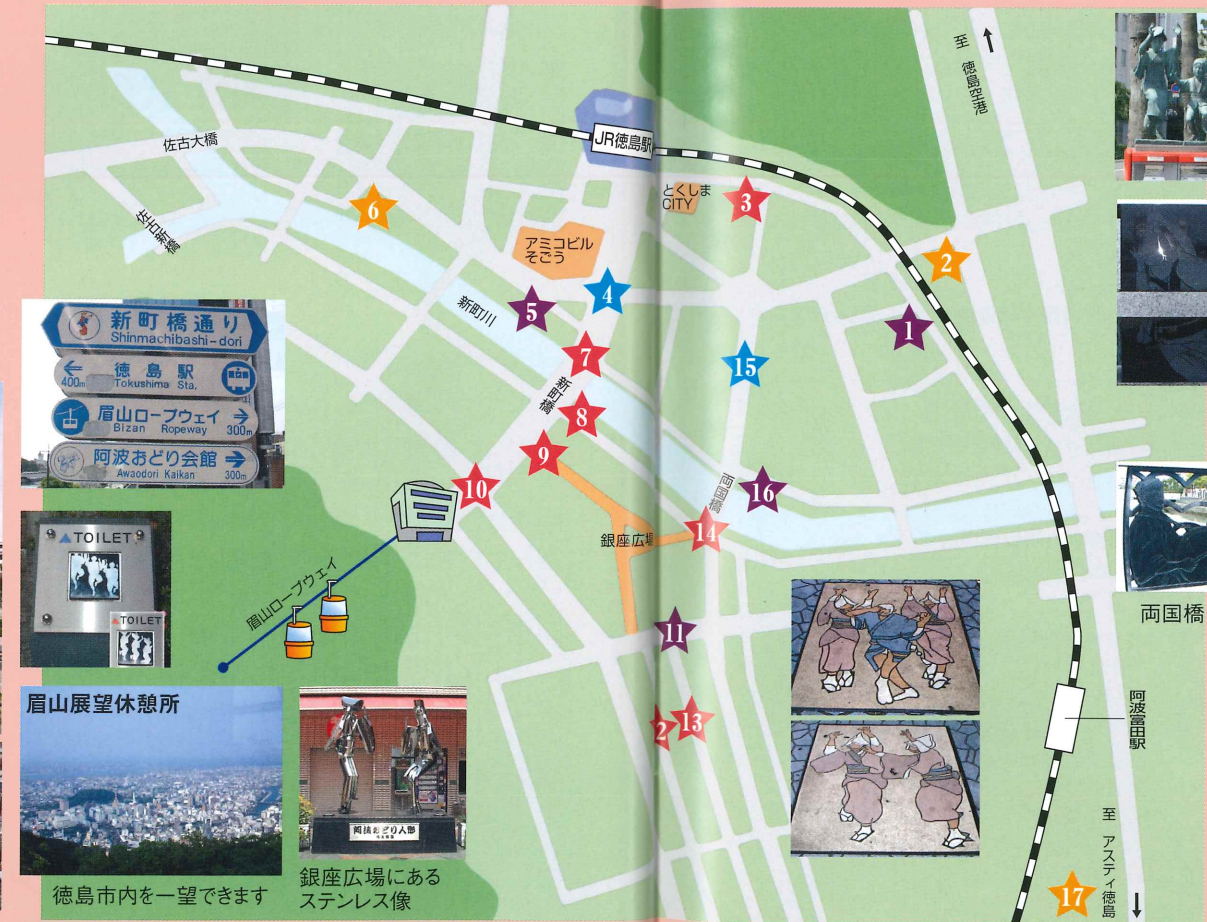


佐古三番町にある阿波踊り用品専門店

**徳島空港**



踊り子ブロンズ像がお出迎え



## 屋内演舞場

**17** アスティ徳島



4000人収容の大ホール。8月11日に前夜祭が行われ、お盆中も各連による踊り教室が開催されます

**6** 徳島県郷土文化会館



有名連の選抜大会が行われます

**2** 徳島市立文化センター



**阿波踊り本番時の屋内演舞場**



## 無料演舞場

**15** 両国本町演舞場



**4** 元町演舞場



**阿波踊り本番時の無料演舞場**



## 7 新町橋



橋の袂のあちこちに阿波踊りのモチーフが



支柱に映る踊り子がいいます

## 8 新町広場



## 3 よんでん阿波おどり広場



## 9 東新町アーケード

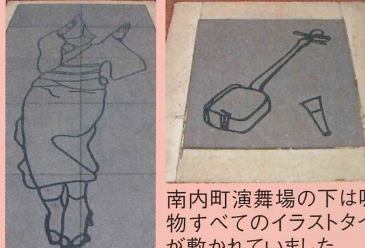


履物専門店「こんど」では鼻緒を足に合わせて20分程度で調整してくれます



お盆中は浅敷下に隠れているので決して見る事のできないものを発見！

## 14 両国橋南おどり広場

南内町演舞場の下は鳴り物すべてのイラストが敷かれていました

## 10 阿波おどり会館



毎日踊る阿波踊り  
阿波の風所属連員17名の舞台が毎日見られます



会館前のベンチ  
阿波おどりミュージアム

## 12 鷹匠町



有名連を真近で見ることができ、演舞場とは一味違う阿波踊りを体験できます

## 11 紺屋町 からくり時計



時間になるとからくり人形が踊り出す



街頭は笠のデザイン

## 高級料亭



踊り子さんに食事や飲み物を振舞ってくれます

## 13 栄町



ビルの壁画





# 全国に広がる阿波踊り

まだ「阿波」と呼ばれていたころの徳島で生まれたこの踊りは、21世紀の現代に至り、日本中の人々に楽しまれるものとなった。世界へ、そして未来へ——それぞれの地域で育ち始めた阿波踊りが、ますます発展することを期待している。

## 「東日本の雄」高円寺の発展を願って

阿波踊り情報誌『あわだま』編集長 南 和秀

今や、全国で80ヶ所とも90ヶ所ともいわれる国内開催の阿波踊り大会。とりわけ、首都圏の開催数の多さには目を見張るものがある。そのけん引役となったのは、半世紀の歴史を刻んだ「東京高円寺阿波おどり」であろう。

1957年、高円寺の先人たちは、四国のローカルな祭りを街の活性化のために取り入れた。江戸の文化が栄えるこの地へ阿波おどりを根づかせることに、先人たちが並々ならぬ努力を要したことは想像に難くない。徳島県人の一人として、頭が下がる思いだ。

JR高円寺駅近くの中央演舞場をはじめ、街の随所で見られる踊り子と観客が近接したライブ感。踊り子が観客へ満面の笑みを向けると、観客はすぐにうちわで扇ぎ返す。興行的な側面が強くなった今の徳島・阿波踊りには見られない、古き時代の阿波踊りのたたずまいをこの街は残している。そんな雰囲気は私にとってとても気に入っている。阿波踊りは間違いなく「文化」だが、能や歌舞伎のように保存されるべきものではない。時代や地域に合わせて、その形が変化してもよいとも考えている。しかし、徳島が400年かけて育んできたスピリットだけは不変であってほしい。

阿波踊りは、その魅力ゆえ、一地方の芸能だったものが広く全国的に愛されるようになった。そんな中、阿波踊り文化をマスメディアが集まる都市から発信しているのが「東京高円寺阿波おどり」で、その影響力は大きい。もはや21世紀の阿波踊りの命運を左右する存在になっていることを、心にとどめてほしい。

今の社会に阿波踊りは必要だ。「楽しいから」といった娯楽的要素のほか、教育や福祉、産業、健康、地域社会との関連性など、阿波踊り文化にはさまざまな効用があることも少しずつ証明されてきている。多種多様な価値観をもつ人々が暮らす大都市には、もしかすると徳島以上に阿波踊りが不可欠なのかもしれない。どうか阿波踊りの本質を見失わず、新しい歴史を創造していただきたい。そして、東日本の雄として「東京高円寺阿波おどり」がますます発展されることを願ってやまない。

■大阪府  
ディオス北千里夏祭り阿波踊り大会（大阪府吹田市）

■兵庫県  
淡路島まつり（兵庫県洲本市）  
長田潮汲み夏祭り（兵庫県神戸市）

■岡山県  
備前阿波踊り祭り（岡山県赤磐市）

■長崎県  
しまばらガマダス阿波踊り大会（長崎県島原市）

■山形県  
みちのく阿波踊り（山形県山形市）

■埼玉県  
入曽祭り（埼玉県狭山市）  
入間川七夕祭り（埼玉県狭山市）  
大宮夏まつり中山道まつり（埼玉県さいたま市）  
北浦和阿波おどり大会（埼玉県さいたま市）  
すかいロード祭り（埼玉県狭山市）  
新座阿波踊り大会（埼玉県新座市）  
東藤沢・狭山ヶ丘サンロード商店街阿波踊り（埼玉県入間市）  
みさと阿波踊り（埼玉県三郷市）  
南越谷阿波踊り（埼玉県越谷市）

■山梨県  
大月阿波踊り（山梨県大月市）

■静岡県  
すその阿波おどり大会（静岡県裾野市）  
はままつ夢づくりフェスタ（静岡県浜松市）

■愛知県  
江南阿波おどり大会（愛知県江南市）

■徳島県  
いけだ阿波おどり（徳島県三好郡）  
市場阿波踊り大会（徳島県阿波市）  
うだつのまちの阿波おどり（徳島県美馬市）  
勝浦の阿波踊り（徳島県勝浦郡）  
かもじま阿波踊り大会（徳島県吉野川市）  
つるぎ町阿波踊り大会（徳島県美馬郡）  
**徳島阿波踊り（徳島県徳島市）**  
鳴門市阿波おどり大会（徳島県鳴門市）  
姫神祭・阿波踊り競演会（徳島県海部郡）  
三好町阿波踊り（徳島県三好郡）

■北海道  
全道阿波踊り大会（北海道）

■東京都  
板橋区民まつり（東京都板橋区）  
稲城阿波おどり大会（東京都稲城市）  
ウォーターフロント祭り（東京都中央区）  
大塚阿波踊り（東京都豊島区）  
踊れ西八夏まつり（東京都八王子市）  
神楽坂まつり阿波踊り大会（東京都新宿区）  
かせい阿波おどり（東京都中野区）  
きたまち阿波踊り（東京都練馬区）  
経堂まつり（東京都世田谷区）  
久米川阿波おどり大会（東京都東村山市）  
糀谷阿波おどり（東京都大田区）  
小金井阿波おどり大会（東京都小金井市）  
品川納涼祭（東京都品川区）  
しもきたざわ阿波踊り（東京都世田谷区）  
**東京高円寺阿波おどり（東京都杉並区）**  
東京中目黒夏まつり（東京都目黒区）  
中村橋阿波おどり（東京都練馬区）  
なべよこ夏まつり（東京都中野区）  
成増阿波おどり大会（東京都板橋区）  
西大井阿波踊り（東京都品川区）  
初台阿波踊り大会（東京都渋谷区）  
ひばり祭（東京都西東京市）  
ふれあいロード夏祭り（東京都清瀬市）

■神奈川県  
開成阿波おどり（神奈川県開成町）  
神奈川大和阿波おどり（神奈川県大和市）  
かわさき阿波おどり（神奈川県川崎市）  
東林間サマーわぁ！ニバル（神奈川県相模原市）  
まほろば盆祭り（神奈川県秦野市）



# 8月最終週末の東京は、祭りの三つ巴！

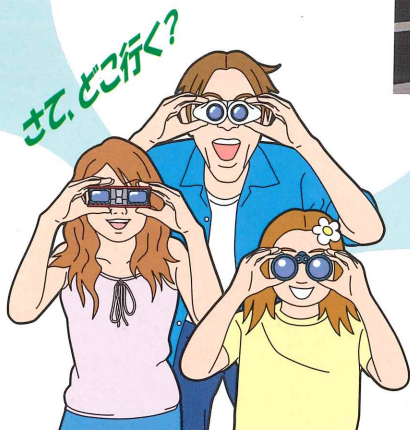
Tokyo Summer Carnival

暑い東京の夏が、ますます熱く燃える週末があるのをご存知ですか？ 神田祭（神田明神）、山王祭（日枝神社）、三社祭（浅草神社）が「江戸三大祭り」ならば、異国やほかの土地で生まれつつも、今、東京で急成長中のこちらは「東京三大祭り」。それはまさに懐大さ、東京のダイナミズムの象徴です。「東京三大祭り」は三つ巴祭りとなって、さらに地温をあげるべく晩夏の東京でヒートアップ中！

## 原宿表参道元氣祭スーパーよさこい

本場高知の協力のもと高知の優秀チームも参加し、本場の魅力さながらに繰り広げられる、名実ともに首都圏で最大のよさこい祭り。高知のよさこい祭りのよき伝統と、原宿表参道の斬新さが融合し、新しい魅力が楽しめます。

開催場所／東京都渋谷区（原宿表参道、明治神宮、代々木公園）  
開始年／2001（平成13）年  
観客数／約110万人（2005年）  
起源／よさこいを通じて日本人の元気を世界に発信したいという思いから、明治神宮への夏の奉納祭として立ち上がる。  
主催／原宿表参道元氣祭実行委員会  
<http://www.yosakoi-harajuku.com/>



©田中 英樹

## 東京高円寺阿波おどり

阿波踊りは、徳島に400有余年前から続く郷土芸能。やがて時代を乗り越え、全国各地に地名を冠した阿波踊り大会が誕生しています。「西の徳島、東の高円寺」とうたわれるべく歴史を重ね、今や親子三代で参加、観覧する人も。

開催場所／東京都杉並区（JR高円寺駅、東京メトロ新高円寺駅周辺）  
開始年／1957（昭和32）年  
観客数／約120万人（2005年）  
起源／「戦火に燃えたわが街ににぎわいを」という願いを込めて商店主たちが始める。踊りの心と技を本場徳島に倣い続け50周年！  
主催／NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会  
<http://www.koenji-awadori.com/>



## 浅草サンバカーニバル

明治期からほかの町にはない新しい文化が取り入れられ、幅広いジャンルの音楽劇を生み出してきた浅草。浅草観光連盟も加わり、浅草サンバカーニバルは東京下町の夏を代表するお祭りのひとつにまで成長しました。

開催場所／東京都台東区（馬道通り～雷門通り）  
開始年／1981（昭和56）年  
観客数／約50万人（2005年）  
起源／昭和30年代後半、浅草に新しい文化を取り入れようという提案がきっかけとなり、浅草の商店連合会主体で誕生。  
主催／浅草サンバカーニバル実行委員会  
<http://www.asakusa-samba.jp/>



5月中旬の東京神田祭を皮切りに、8月末の東京高円寺阿波おどりまで各地で夏祭りが毎週のように開催されています。さまざまな伝統と文化に触れてみませんか？



|    |                        |                         |                                                                                                                                        |
|----|------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月 | 中旬<br>(2006年は13～16日)   | ★神田祭(2006年は陰祭)<br>〈東京都〉 | 江戸総鎮守の祭り。本祭と陰祭が1年おきに開催される。<br>問 神田明神 TEL 03-3254-0753 <a href="http://www.kandamyoujin.or.jp/">http://www.kandamyoujin.or.jp/</a>      |
|    | 15日                    | ☆葵祭<br>〈京都府〉            | わが国の祭りのうちで、もっとも優雅で古趣に富んだ祭りとして知られている。<br>問 京都市観光協会 TEL 075-752-0227 <a href="http://www.kyokanko.or.jp/">http://www.kyokanko.or.jp/</a> |
|    | 第3週末<br>(2006年は19～21日) | ★三社祭<br>〈東京都〉           | 三人の神様を祀った浅草神社の祭りで、江戸随一の荒祭り。<br>問 浅草神社 TEL 03-3844-1575 <a href="http://www.ematsuri.ne.jp/sanja/">http://www.ematsuri.ne.jp/sanja/</a> |

|    |                     |                   |                                                                                                                               |
|----|---------------------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月 | 1～25日<br>(年によって差あり) | 水郷潮来あやめ祭<br>〈茨城県〉 | 市内のアイメ園に咲き乱れる500数種、100万株以上のアイメを鑑賞。<br>問 水郷潮来観光協会 TEL 0299-63-3154 <a href="http://www.e-tabi.org/">http://www.e-tabi.org/</a> |
|    | 9～16日<br>(例祭は毎年15日) | ★日枝神社山王祭<br>〈東京都〉 | 太田道灌公が川越の山王宮を江戸城の守護神として再勧請・鎮祭。<br>問 日枝神社 TEL 03-3581-2471 <a href="http://www.hiejinja.net/">http://www.hiejinja.net/</a>     |
|    | 30日～7月2日            | 愛染まつり<br>〈大阪府〉    | 593年に聖徳太子が開いた日本最古の夏祭りとして知られている。<br>問 勝鬘院愛染堂 TEL 06-6779-5800 <a href="http://www.aizendo.com/">http://www.aizendo.com/</a>    |

|    |                       |                  |                                                                                                                                                                   |
|----|-----------------------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月 | 1日～15日                | 博多祇園山笠<br>〈福岡県〉  | 「オッショイ」のかけ声で男たちが山を担ぎ、町を駆け巡る勇壮な祭り。<br>問 博多祇園 TEL 092-291-2951 <a href="http://www.welcome-fukuoka.or.jp/">http://www.welcome-fukuoka.or.jp/</a> (福岡観光コンベンションビューロー) |
|    | 1日～31日<br>(山笠は17日午前中) | ★祇園祭<br>〈京都府〉    | 日本三大祭のひとつ。歴史があり豪華なうえ期間が1ヶ月にわたる大規模な祭。<br>問 京都市観光協会 TEL 075-752-0227 <a href="http://www.kyokanko.or.jp/">http://www.kyokanko.or.jp/</a>                            |
|    | 24・25日                | 天神祭<br>〈大阪府〉     | 旧淀川に多くの船が行き交う船渡御、花火大会などによる火と水の祭典。<br>問 大阪天満宮 TEL 06-6353-0025 <a href="http://www.tenjin-san.com/">http://www.tenjin-san.com/</a>                                 |
|    | 最終土曜日<br>(2006年は29日)  | 隅田川花火大会<br>〈東京都〉 | 江戸中期から行われる。名実ともに日本最大級の花火大会。<br>問 隅田川花火大会実行委員会事務局 TEL 03-5246-1445 <a href="http://www.kanko-sumida.com/">http://www.kanko-sumida.com/</a> (墨田区文化観光協会)             |

|    |                           |                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----|---------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月 | 2～7日                      | ★青森ねぶた祭り<br>〈青森県〉                   | 「ラッセラー」のかけ声とともに巨大なねぶたとお囃子が練り歩く。<br>問 青森観光コンベンション協会 TEL 017-723-7211 <a href="http://www.nebuta.or.jp/">http://www.nebuta.or.jp/</a>                                                                                                                                                   |
|    | 3～6日                      | ◆秋田竿燈まつり<br>〈秋田県〉                   | たくさんの提灯を下げた長い竿、竿燈を、手や肩、腰に乗せ、見せる妙技。<br>問 秋田市竿燈まつり実行委員会 TEL 018-866-2112 <a href="http://www.kantou.gr.jp/">http://www.kantou.gr.jp/</a>                                                                                                                                                |
|    | 第1土曜日<br>(2006年は5日)       | 江戸川区花火大会<br>市川市民納涼花火大会<br>〈東京都／千葉県〉 | オープニングは10箇所から1,000発の花火が豪快に打ち上げられる。<br>問 江戸川区花火大会実行委員会事務局 TEL 03-5662-0523、市川市民納涼花火大会実行委員会事務局 TEL 047-334-1111<br><a href="http://www.ei-net.city.edogawa.tokyo.jp/event/event2.html">http://www.ei-net.city.edogawa.tokyo.jp/event/event2.html</a> (江戸川区花火大会実行委員会事務局)                 |
|    | 5～7日                      | 山形花笠まつり<br>〈山形県〉                    | 山形県の花、紅花をあしらった笠を手に、かけ声とともに舞い踊る。<br>問 山形県花笠協議会 TEL 023-642-8753 <a href="http://www.mountain-j.com/hanagasa/">http://www.mountain-j.com/hanagasa/</a>                                                                                                                                  |
|    | 6～8日                      | ◆仙台七夕まつり<br>〈宮城県〉                   | 江戸時代にはすでに催されていた歴史ある祭り。華麗な笹飾りが町を彩る。<br>問 仙台七夕まつり協賛会 (仙台商工会議所内) TEL 022-265-8181 <a href="http://www.sendaitanabata.com/">http://www.sendaitanabata.com/</a>                                                                                                                            |
|    | 9～12日                     | ◇よさこい祭り<br>〈高知県〉                    | 鳴子をもった踊り子が舞い踊り、装飾された地方車が特徴。<br>問 高知市観光課 TEL 088-823-9457 <a href="http://www.city.kochi.kochi.jp/joho/hp/">http://www.city.kochi.kochi.jp/joho/hp/</a>                                                                                                                                |
|    | 12～15日                    | ◇阿波踊り<br>〈徳島県〉                      | 踊る阿呆に見る阿呆……400年続く祭り、阿波踊り発祥の地！<br>問 徳島市観光協会 TEL 088-622-4010、徳島新聞社事業部 TEL 088-655-7331<br><a href="http://www.awadori-kaikan.jp/kankou/">http://www.awadori-kaikan.jp/kankou/</a> (徳島市観光協会)、 <a href="http://www.topics.or.jp/awadori/">http://www.topics.or.jp/awadori/</a> (熱狂阿波踊り！) |
|    | 第2土曜日<br>(2006年は12日)      | 東京湾大華火祭<br>〈東京都〉                    | レインボーブリッジなど東京湾の夜景を舞台に、百花繚乱の花火、尺玉、尺五寸玉を含めた見応え十分の花火大会。<br>問 東京湾大華火祭実行委員会 TEL 03-3248-1561 (テブ案内) <a href="http://www.chuo-kanko.or.jp/">http://www.chuo-kanko.or.jp/</a> (中央区観光協会)                                                                                                      |
|    | 15日前後                     | 深川八幡まつり<br>〈東京都〉                    | 八幡宮の御鳳輦が渡御を行う本祭りは3年に一度。大小あわせて120数基の町神輿が出そう。<br>問 富岡八幡宮 TEL 03-3642-1315 <a href="http://www.tomiokahachimangu.or.jp/">http://www.tomiokahachimangu.or.jp/</a>                                                                                                                         |
|    | 第4土曜日<br>(2006年は26日)      | 全国花火競技大会(大曲の花火)<br>〈秋田県〉            | 一流の花火師たちが集まり、明治からの歴史と伝統を技術と知識で競い合う。<br>問 大曲商工会議所 TEL 0187-62-1262 <a href="http://www.obako.or.jp/kaigisho/">http://www.obako.or.jp/kaigisho/</a>                                                                                                                                     |
|    | 26、27日                    | 吉田の火祭り<br>〈山梨県〉                     | 富士浅間神社と諏訪神社の祭りで、富士山のお山じまいに当たる。<br>問 富士吉田市役所富士山課 TEL 0555-22-1111 <a href="http://www.city.fujiyoshida.yamanashi.jp/">http://www.city.fujiyoshida.yamanashi.jp/</a>                                                                                                                    |
|    | 最終土曜日<br>(2006年は26日)      | 浅草サンバカーニバル<br>〈東京都〉                 | 浅草に新しい文化を取り入れようという提案がきっかけとなり、サンバカーニバルが誕生。<br>問 浅草サンバカーニバル実行委員会 TEL 03-5456-8531 <a href="http://www.asakusa-samba.jp/">http://www.asakusa-samba.jp/</a>                                                                                                                               |
|    | 最終土、日曜日<br>(2006年は26、27日) | 原宿表参道元氣祭スーパーよさこい<br>〈東京都〉           | 高知のよさこいを通じて、日本人の元気を世界に発信。<br>問 原宿表参道元氣祭実行委員会 TEL 03-5766-1320 <a href="http://www.yosakoi-harajuku.com/">http://www.yosakoi-harajuku.com/</a>                                                                                                                                         |
|    | 最終土、日曜日<br>(2006年は26、27日) | 東京高円寺阿波おどり<br>〈東京都〉                 | にぎわいのある街づくりを目指して、本場徳島に倣い続けて50年。東日本第一の阿波おどり<br>問 NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会 TEL 03-3312-2728 <a href="http://www.koenji-awadori.com/">http://www.koenji-awadori.com/</a>                                                                                                                      |

\*日本三大祭り ★江戸三大祭り ☆京都三大祭り ◆東北三大祭り ◇四国三大祭り





## NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会 役員名簿

|      |       |       |       |       |       |  |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 名誉会長 | 山田 宏  |       |       |       |       |  |
| 顧問   | 石原 伸晃 | 佐藤 恒夫 |       |       |       |  |
| 評議員  | 大西 直良 | 小山 智弘 | 富坂 弘昭 |       |       |  |
| 理事長  | 武田 周吾 |       |       |       |       |  |
| 副理事長 | 谷 幹男  | 大久保貢祐 | 林 紀元  | 伊丹 正信 |       |  |
| 理事   | 阿部 孝喜 | 大出 吉一 | 川井 和子 | 河原 一  | 久保田潤一 |  |
|      | 城石 豊  | 杉谷 宗彦 | 富澤 武幸 | 中澤 恒夫 | 西川 道雄 |  |
|      | 平野 治彦 | 布澤 茂壽 | 藤巻 剛彦 | 宗像 和行 | 渡辺 孝司 |  |
| 幹事   | 大須賀丈夫 | 阪井 勝徳 | 内藤 一夫 |       |       |  |

## 歴代会長

◎東京阿波おどり振興協会

初代名誉会長 根津政茂

歴代会長 草柳勝治／小澤淳男／佐藤恒夫

◎高円寺阿波おどり連協会

歴代会長 中村和男／関根敏邦／杉谷宗彦／中村哲男／福島良二／伊丹正信（現）

## 編集後記

笑いあり、涙あり、怒りありの8ヶ月。50周年にふさわしい記念誌となったか不安ではありますが、多くの内容を織り込むことができたと思っています。この記念誌を通じて、携わる人々はもちろん、これから始める人にも高円寺阿波おどりの魅力と経緯が伝われば幸いです。

そして取材を通じ、多くの素晴らしい出会いと経験ができたこと、さらに徳島の郷土芸能である「阿波おどり」に深く感謝します。最後に資料を提供してくださった諸氏、ご協力いただいた皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

井田真由美、佐久間通子、杉谷ゆき絵

## 50周年記念誌編集委員

委員長 平野 治彦

副委員長 富澤 武幸

委員 池原 淳／井田真由美／内田 智子／加藤真紀子／佐久間通子  
杉谷ゆき絵／鈴木 康夫／藤巻 剛彦

言葉に救われた。

言葉に背中を押された。

言葉に涙を流した。

言葉は、人を動かす。

私たちは信じている、

言葉のチカラを。

ジャーナリスト宣言。

**朝日新聞**

■朝日新聞ご購入のお申し込みは ●フリーコール 朝日が サンサン オハヨーサン 0120・33・0843 ●インターネット <http://www.asahi33.com/>  
アサヒが サンサンドットコム



# 選ばれ続ける、日本の定番。



丸美屋食品(杉並区松庵1-15-18)は、地元「東京高円寺阿波おどり」を応援しています。

お得な食情報満載! <http://www.marumiya.co.jp>

ヘルシーは、人生のごちそう。  
今日もおいしく

丸美屋

## 積水ハウスは、 自然と共生する庭づくり 「5本の樹計画」を進めています。

3本は鳥のために、2本は蝶のために。積水ハウスは、地域の気候風土に適した「5本の樹」を植える庭づくりから、人と自然が共存する豊かな環境をつくり、潤いある景観を街中に広げていきます。

杉並区役所荻窪駅前事務所の上の階にごさいます。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

祝50周年! 積水ハウスは  
「東京高円寺阿波おどり」を  
応援しています。

積水ハウス株式会社 東京北シャームズン支店

〒167-0051 東京都杉並区荻窪5-28-13(荻窪駅前ビル4F)

☎ 03 (5347) 2281 <http://www.sekisuihouse.co.jp/>

伊藤園

いいお茶は、  
いい畑から。



人まかせにしないこと。  
畑から育てること。  
その時間と手間が  
伊藤園だけの  
おいしさをつくります。



自然そのまま 国産茶葉100%  
さらにおいしく。

茶畑から  
育てています。

伊藤園